さくいん 索引 ——を引く

さくがら 作柄 ——が良い

さくがん 錯乱 ——状態

さくげん 削減 ——する

さくご 錯誤 ——に陥る

さくさく ——と仕事を進める

さくさん 酢酸 ——発酵

さくし 作詞 ——家

さくしゃ 作者 ——の意図

さくしゅ 搾取 ——する

さくしゅ 作手 ——に渡す

さくしゅ 作種 ——の選択

さくじょ 削除 ——する

さくじょ 錯序 ——を正す

さくじょう 索条 ——体

さくじょう 錯乱 ——する

さくじょう 錯状 ——地

さくじょう 策状 ——の病

さくじょう 作条 ——を切る

さくじょう 作場 ——を見回る

さくじょう 作成 ——する

さくじょう 作状 ——が悪い

さくじょう 作情 ——を報告する

さくじょう 作上 ——の注意

さくじょう 作畳 ——を敷く

さいばん―さかな

さいばん【裁判】(名)(ス自)訴訟事件について、当事者の主張を聞いて、法律上の判断を下すこと。―官 裁判官。―所 裁判を行なう国家機関。―沙汰 裁判に訴えること。―長 裁判所の長官。―官 裁判官。―所 裁判を行なう国家機関。―沙汰 裁判に訴えること。―長 裁判所の長官。

さいばん【採番】(名)(ス自)順番に番号をつけること。

さいはん【再版】(名)(ス他)一度出版した本を、再び印刷して出すこと。また、その本。

さいはん【再犯】(名)(ス自)一度犯罪を犯して処罰されたあと、また犯罪を犯すこと。

さいはん【催眠】(名)(ス自)人工的に眠りを起こさせること。―術 催眠状態にして暗示を与える術。―剤 催眠作用のある薬剤。

さいばん【催眠】(名)(ス自)人工的に眠りを起こさせること。―術 催眠状態にして暗示を与える術。―剤 催眠作用のある薬剤。

さいばん【最晩】(名)(ス自)一番遅いこと。

さいばん【最盤】(名)(ス自)一番遅いこと。

さいばん【最反】(名)(ス自)一番遅いこと。

さいばん【最半】(名)(ス自)一番遅いこと

(ちまん)[地殻]（名）❶地殻のふるひ動くこと。共項
(ちまん)[地種]（名）官有地又は民有地の種目。即ち地所の種別。
(ちまん)[地主]（名）❶其地の主となりて守護する者。❷土地の所有者。「方法」
(ちまん)[治術]（名）❶政治の方法。❷政治のすべ。
(ちまん)[治所]（名）政務を取扱ふ所。
(ちまん)[地所]（名）土地。地面。ぢめん。ぢしょ。
(ちまん)[乳汁]（名）乳房内の乳腺より分泌する白色の液。幼兒を養育するために吞む。
(ちまん)[地代]（名）ぢだい。借地料。
(ちまん)[地白]（名）樹木の地の白きもの。まじろ。
(ちまん)[地心]（名）❶地球の中心。❷[転]地球の地殻に包まれたる内部、即ち酷熱なる流動体。
(ちまん)[地心引力]（名）[天]地上の場所に於ける地平面と平行に地球の中心を通過する面。
(ちまん)[地心線度]（名）[天]地球の中心より天頂を見たりとするときの緯度。
(ちまん)[知人]（名）ちかづき。しり。知己。
(ちまん)[痴人]（名）愚なる人。うつけもの。ばか。
(ちまん)[地神]（名）くにつかみ。「地底」
(ちまん)[地神五代]（名）記紀に天孫の前まで我國を治めしめし五柱の神。即ち天照大神・天忍穂耳尊（アマノオシホミミノミコト）・天津彦火瓊瓊杵尊（アマツヒコホノニニギノミコト）・彦火火出見尊（ヒコホホデミノミコト）・鸕鷀草葺不合尊（ウガヤフキアヘズノミコト）の稱。
(ちまん)[地震]（名）❶地殻のふるひ動くこと。共項

(ちまめ)[地豆]（名）❶[植]地下に豆の如き實を結ぶ草。❷[動]地下に住む豆の如き形の蟲。
(ちまめ)[地面]（名）地の表面。「又、地の日」
(ちまめ)[痔疾]（名）「ぢしつ（痔）」に同じ。
(ちまめ)[地縁]（名）[社]人が自然に自生す、相親しくして自ら一社中に密接する事。庭などに自生す、相親しくして自ら一社中に密接する事。庭などに自生す、相親しくして自ら一社中に密接する事。庭などに

(ちたん)[呢喃](名)「ぢなん」に同じ。

ちだんだ(名)❶「だだ」に同じ。即ち足にてふみ大なるふいごう。❷屋立ちてやをもがき地をはげしくふむこと。「—をふむ。

(ちつ-ぢつ)[遅遅](名)(副)あるさまにゆるき。

ちつ[父](名)❶ちゝ。かゝ。母の對。❷子の ある男。❸禁錮等級にて三位上の第一の人位。——-らくゑ[父上](名)わが父の尊稱。——-かた[父方](名)父の血統に屬せる方。

ちつ[乳](名)❶ちゝ。乳汁。❷ちゝ。乳房。

(ちつ-ぢつ)[致知](名)朱子學にて、物事の道理を窮究して、それに通曉すること。又、聰明學問にて、良知をいふ。

ちつ[千干](名)ちゝ〳〵。ちゝ〳〵。ちゝ〳〵。

ちつ(名)❶父又は母の父。おほぢ。(屋父)❷老年の男子の稱。(老翁)。——-い(名)前條に同じ。

ちつか-ぢつか[縮](自「ち」四)ちゝむ。ちゞまる。

ちつか-ぢつか[縮](自「ま」四)ちゝむ。ちゞまる。

ちつ-ぢみ[父君](名)ちゝの敬稱。

(ちつ-ぢく)[地軸](名)❶大地をつらぬく共旋轉を主どる想像せらるゝ一の「一折ぢく」。❷[地]地球の中心を南北に貫く直線。即ち地球の廻轉の軸。

ちつ-こ[縮](自「か」下二)ちゞまる。

ちつ-こき[乳菌](名)【醫】「ちゝくさ」の異稱。

ちつ-こき-しん[乳臭](形シク)「ちゝくさし」に同じ。「同じ。

(ちつ-ぢく)[乳者](名)「ちゝくび」に同じ。

(ちつ-ぢく-り-ぢく-り)(名)ちゝくりもよ。

(ちつ-ぢく-り-ぢく-り)[遅遅](自「は」四)❶男女互に性を通ずる條に同じ。❷男女互に性を通ずる條に同じ。

(ちつ-ぢん)[呢喃](名)「ぢなん」に同じ。

(ちつ-ぢん-だ)(名)❶「だだ」に同じ。即ち足にてふみ大なるふいごう。❷屋立ちてやをもがき地をはげしくふむこと。「—をふむ。

(ちつ-ぢつ)[遅遅](名)(副)あるさまにゆるき。

ちつ[父](名)❶ちゝ。かゝ。母の對。❷子の ある男。❸禁錮等級にて三位上の第一の人位。——-らくゑ[父上](名)わが父の尊稱。——-かた[父方](名)父の血統に屬せる方。

ちつ[乳](名)❶ちゝ。乳汁。❷ちゝ。乳房。

(ちつ-ぢち)[致知](名)朱子學にて、物事の道理を窮究して、それに通曉すること。又、聰明學問にて、良知をいふ。

ちつ[千干](名)ちゝ〳〵。ちゝ〳〵。ちゝ〳〵。

ちつ(名)❶父又は母の父。おほぢ。(屋父)❷老年の男子の稱。(老翁)。——-い(名)前條に同じ。

ちつか-ぢつか[縮](自「ち」四)ちゝむ。ちゞまる。

ちつか-ぢつか[縮](自「ま」四)ちゝむ。ちゞまる。

ちつ-ぢみ[父君](名)ちゝの敬稱。

(ちつ-ぢく)[地軸](名)❶大地をつらぬく共旋轉を主どる想像せらるゝ一の「一折ぢく」。❷[地]地球の中心を南北に貫く直線。即ち地球の廻轉の軸。

ちつ-こ[縮](自「か」下二)ちゞまる。

ちつ-こき[乳菌](名)【醫】「ちゝくさ」の異稱。

ちつ-こき-しん[乳臭](形シク)「ちゝくさし」に同じ。「同じ。

(ちつ-ぢく)[乳者](名)「ちゝくび」に同じ。

(ちつ-ぢく-り-ぢく-り)(名)ちゝくりもよ。

(ちつ-ぢく-り-ぢく-り)[遅遅](自「は」四)❶男女互に性を通ずる條に同じ。❷男女互に性を通ずる條に同じ。

(ちつ-ぢけ)(自)「ちゝく」の訛。

ちつ-じ[父御](名)他人の父の尊稱。尊父。尊翁。

(ちつ-ぢこ-ぢ)[遅遅](自「ち」四)「ちゝむ」に同じ。

ちつなし-じ[父無子](名)❶父を失ひ母の手ひとつにて育(そだ)ちたる兒。❷公然定まれる父なき兒。私生兒。

ちつのは-ぢさ[菜參](名)【植】繖形科に屬する草。高さ三尺許。花は夏に似て白色又は淡色を呈す。

ちつ-の-み(名)銀杏の實。——-の(枕)「父に似ちゝ」に同じ。

ちつ-はは[父母](名)父と母と。ふたおや。

ちつ-はは[親](名)おやと。ふたおや。

ちつ-ぶ[秋父](名)「ちゝぶ」又は「ちゝぶまき」の略。——-ぎぬ[秋父絹](名)武藏國秩父郡大宮邊より產出する絹。衣服の裏地などに用ふ。——-おび[秋父絹](名)武藏國秩父郡大宮地方より產出する絹の細織物。

ちつ-ぶ[縮](自「ま」四)ちゝむ。

ちつ-ぶみ[縮](名)❶ちゝむこと。❷ちゝむもの。——-おり[縮上](自「ら」四)❶ちゝむ。❷ちゝみて織りたるもの。——-れ[縮](名)縮緬の織物。——-ぬひ[縮縫](名)縮緬の織物を縫ふこと。——-ぬひ-だい[縮帷子](名)ちゝみたる織物。——-こみ[縮込](名)ちゝみ入れたるもの。——-こ-む[縮込](自「ま」四)❶ちゝみて中に入る。❷ちゝみて山ず。

ちつ-む[縮](自「ま」四)❶狹くなる。小さくなる。短くなる。❷縮(ちゞ)まる。ちゞむ。❸ちゞむ。❹ちゞまる。はぢる。

ちつ-む[縮](他「ま」下二)❶狹くす。小さくす。短くす。❷縮(ちゞ)まる。ちゞむ。❸ちゞむ。❹ちゞまる。はぢる。

(ちつ-ぢよく)[錯綜](名)官位をさゞえるさまの形容。

ちつ-ぢり(名)土地の連なりつゞきたるところ。土地のつゞき。「に同じ。

(ちつ-ぢ)(副)「ちと」に同じ。——-め(副)「ちとも」に同じ。

(ちつ-ぢよく)[地圖投影法](名)【地】地球表面の形狀を或上に投影する法。

(ちつ-ぢく)[縮緬](名)つなぢめぼる。

(ちつ-ぢく)[蜘蛛](名)❶多の回轉の地中にこもりゐるさま。❷こもりゐるさま。ひそかにゐるさま。

ぢ-つぼ[地坪](名)地面の坪數。建坪の對。

ちつぼけ(名)ちひさきさま。(東京の方言)

ちつ-ちく[秋竹](名)ふぢちくさ。

ちつ-てい[地底](名)❶大地のそこ。❷そこ。

ちつ-てい[地堤](名)【地】地層の中央高く兩側の順次に低落せるもの。

ちつ-てい[池亭](名)いけのほとりにある小屋。

ぢつと(副)❶ぢつかいきゃか。❷暫時。少時。——-も[副](副)❶ぢつとしてゐるさま。❷ちよつと。もうすこしも。

(ちつ-ぢとう)[地頭](名)いけのほとり。

(ちつ-ぢとう)[地頭](名)❶大地の運動即ち自轉・公轉の稱。——-せつ[地動說](名)地動によりて晝夜四時の起るといふ說。天動說の對。

(ちつ-ぢとう)[地頭](名)❶源頼朝が諸國の莊園に置きし職名。莊園を支配せしもの。❷後世、一區域の土地の領主の稱。

(ちつ-ぢとく)[知得](名)ぢりとくこと。のみこと。

ちつ-ぢせ[千歲](名)❶千の年。❷數に盡くせぬ年。永遠の歲月。——-がひ[千歲貝](名)

(ちつ-ぢよく)[錯綜](名)官位をさゞえるさまの形容。

ちつ-ぢり(名)土地の連なりつゞきたるところ。土地のつゞき。「に同じ。

ちつ-ぢ(副)「ちと」に同じ。——-め(副)「ちとも」に同じ。

(ちつ-ぢよく)[地圖投影法](名)【地】地球表面の形狀を或上に投影する法。

(ちつ-ぢく)[縮緬](名)つなぢめぼる。

(ちつ-ぢく)[蜘蛛](名)❶多の回轉の地中にこもりゐるさま。❷こもりゐるさま。ひそかにゐるさま。

ぢ-つぼ[地坪](名)地面の坪數。建坪の對。

ちつぼけ(名)ちひさきさま。(東京の方言)

ちつ-ちく[秋竹](名)ふぢちくさ。

ちつ-てい[地底](名)❶大地のそこ。❷そこ。

ちつ-てい[地堤](名)【地】地層の中央高く兩側の順次に低落せるもの。

ちつ-てい[池亭](名)いけのほとりにある小屋。

ぢつと(副)❶ぢつかいきゃか。❷暫時。少時。——-も[副](副)❶ぢつとしてゐるさま。❷ちよつと。もうすこしも。

(ちつ-ぢとう)[地頭](名)いけのほとり。

(ちつ-ぢとう)[地動](名)❶大地の運動即ち自轉・公轉の稱。——-せつ[地動說](名)地動によりて晝夜四時の起るといふ說。天動說の對。

(ちつ-ぢとう)[地頭](名)❶源頼朝が諸國の莊園に置きし職名。莊園を支配せしもの。❷後世、一區域の土地の領主の稱。

(ちつ-ぢとく)[知得](名)ぢりとくこと。のみこと。

ちつぢせ[千歲](名)❶千の年。❷數に盡くせぬ年。永遠の歲月。——-がひ[千歲貝](名)

【動】層足類中前鰓類に屬する貝。形螺に類して小く、淺褐色の殼ありて、十——-の-こえ[千歲聲](名)千秋萬歲又は萬萬歲とよぶ聲。萬歲をとなふる聲。「聲を君にきかせん」

ちつ-ぢめ[血止](名)創口に繃帶して血血を止むること。

ちつ-どり[千鳥](名)❶多くの鳥。❷【動】脊椎水類に屬する鳥。小形にして尾短く、背部は青黑色にして、翅と尾は白色、頭・頸は淺褐色なり、冬の切水邊に群集して飛ぶ。❸扇にて、三三五五冬の如く群集して飛ぶ。❹「ちどりがけ」又、「ちどりおし」の略稱。——-あし[千鳥足](名)手鳥の兩足の打交ゝて歩むに似たるより、よう酒に醉ひたる人の歩むを歩むこと。——-がけ[千鳥掛](名)「ちどりがけ」に同じ。——-がすり[千鳥絣](名)千鳥は列(ツラ)ねて飛ぶより、いろ〳〵の絲を絣に交ゝて織りたるもの。——-がた[千鳥形](名)【動】鰓類中前鰓類に屬する貝。形千鳥の如く、白色の中に褐色の線ある小殼を有す。——-ぢ[千鳥](名)【植】「いかりさうの異稱。

ちつ-ぢん[地塵](名)内地產の塵。塵雜。

ちつ-どり[地取](名)❶地面の區劃をなすこと。❷相續(ツヅキ)の權利。

(ちつ-ぢん)[遲鈍](名)のろくしてにぶきこと。すばやからざること。

ぢつ-ない[地内](名)一區域の土地の内。

ちつ-ねらひ[智謀](名)❶智謀の内容。❷智謀多くして計畫に長じたる人の稱。

ちつ-ねぼさし-し[血腥](形シク)❶血のにほひあり。❷天災にて殘骸多きにいふ語。「ちなまぐさき時代。

ちつね[因](名)ゆかりえにしのえん。——-

【動】層足類中前鰓類に屬する貝。形螺に類して小く、淺褐色の殼ありて、十——-の-こえ[千歲聲](名)千秋萬歲又は萬萬歲とよぶ聲。萬歲をとなふる聲。「聲を君にきかせん」

ちつ-ぢめ[血止](名)創口に繃帶して血血を止むること。

ちつ-どり[千鳥](名)❶多くの鳥。❷【動】脊椎水類に屬する鳥。小形にして尾短く、背部は青黑色にして、翅と尾は白色、頭・頸は淺褐色なり、冬の切水邊に群集して飛ぶ。❸扇にて、三三五五冬の如く群集して飛ぶ。❹「ちどりがけ」又、「ちどりおし」の略稱。——-あし[千鳥足](名)手鳥の兩足の打交ゝて歩むに似たるより、よう酒に醉ひたる人の歩むを歩むこと。——-がけ[千鳥掛](名)「ちどりがけ」に同じ。——-がすり[千鳥絣](名)千鳥は列(ツラ)ねて飛ぶより、いろ〳〵の絲を絣に交ゝて織りたるもの。——-がた[千鳥形](名)【動】鰓類中前鰓類に屬する貝。形千鳥の如く、白色の中に褐色の線ある小殼を有す。——-ぢ[千鳥](名)【植】「いかりさうの異稱。

ちつ-ぢん[地塵](名)内地產の塵。塵雜。

ちつ-どり[地取](名)❶地面の區劃をなすこと。❷相續(ツヅキ)の權利。

(ちつ-ぢん)[遲鈍](名)のろくしてにぶきこと。すばやからざること。

ぢつ-ない[地内](名)一區域の土地の内。

ちつ-ねらひ[智謀](名)❶智謀の内容。❷智謀多くして計畫に長じたる人の稱。

ちつ-ねぼさし-し[血腥](形シク)❶血のにほひあり。❷天災にて殘骸多きにいふ語。「ちなまぐさき時代。

ちつね[因](名)ゆかりえにしのえん。——-

あなた【貴方】(代)〔二人称〕聞き手を指す。目上の人には用いない。(二)(名詞的に)恋人・夫婦などの間で、相手を呼ぶ語。

あなた【彼方】(代)〔遠称〕話し手・聞き手から遠い方向・場所・人などを指す。あちら。あっち。

あなた【穴】(名)①穴のあいている所。②(比喩的に)欠点。③(比喩的に)不足。④(比喩的に)損失。

あなた【孔】(名)①穴のあいている所。②(比喩的に)欠点。③(比喩的に)不足。④(比喩的に)損失。

あなた【彼方】(代)〔遠称〕話し手・聞き手から遠い方向・場所・人などを指す。あちら。あっち。

あなた【貴方】(代)〔二人称〕聞き手を指す。目上の人には用いない。(二)(名詞的に)恋人・夫婦などの間で、相手を呼ぶ語。

あなたこなた【彼方此方】(名)あちらこちら。

あなたこなた【彼方此方】(名)あちらこちら。

あなたち【貴方】(代)〔二人称〕聞き手を指す。目上の人には用いない。(二)(名詞的に)恋人・夫婦などの間で、相手を呼ぶ語。

あなたち【彼方】(代)〔遠称〕話し手・聞き手から遠い方向・場所・人などを指す。あちら。あっち。

あなたち【穴】(名)①穴のあいている所。②(比喩的に)欠点。③(比喩的に)不足。④(比喩的に)損失。

あなたち【孔】(名)①穴のあいている所。②(比喩的に)欠点。③(比喩的に)不足。④(比喩的に)損失。

あなたち【彼方】(代)〔遠称〕話し手・聞き手から遠い方向・場所・人などを指す。あちら。あっち。

あなたち

ちぶく—**ちぶさ**

ちぶく[地腹]（名）土地の中。地下。
ちぶくく[地幅]（名）門のえもん（図）。
ちぶくち[乳腹]（名）三味線の絲巻（乳）の下の左右へ回へ腹（ふく）たる處。
ちぶくろ[乳腹]（名）前條に同じ。
ちぶくろ[地袋]（名）ふくろだな。
ちぶさ[乳房]（名）高等動物の胸部又は腹部の左右に血分（ちぶん）ひて高くふくれ出でたるもの。雄性のは退化して小さけれど、雌性のは大くして兒を分娩すれば乳汁を分泌す。又人類のは二個なれど、他の動物には數多し。（仍房）。

ちぶさがゆう[治部省]（名）古昔の八省の一。
[乳房の発育を管理し、佛尼及外科に關する事を掌りしところ。]（醫務衛生）に同じ。

チフス[羅扶斯＝Typhus]（名）[もやうチフス]
ちぶつ[持佛]（名）常に己の居間に安置するかまたは[持佛堂]（名）持佛又は祖先の位牌を置く堂。念佛堂。

ヂフテリア[實布的旦亜＝Diphtheria]（名）幼兒に多き一種の咽喉病。「チフテリー」菌に起因し、ふもに豆狀を生（ず）て呼吸困難を起すもの。ばひふう。
白色點狀の膜を生じ、急激に呼吸困難を起すもの。

ちぶつ[地犬]（名）織物の絲の太きを、一の條。
ちぶね[手船]（名）ふはくのふね。
ちぶのり-の-おきな[泣岡神]（名）旅人の行くての道々にあるといふ神。たちさりの神。

ちぶるび[血振]（名）❶婦人の産後もの汁（ぢる）を出すこと。❷人を斬りなどしたる刀にて身のふるふ時、（血迸）びて、つきたる血をふとすこと。又、歷歷なども他の生物を喰（くら）ひ、毛につきたる血を身體ひとしてふとすこと。

ちぶん—**ちほう**

ちぶん[地文]（名）❶大地の模樣。ともいふ。❷【地】「ちぶんがく」の略。——**がく**[地文學＝Physical geography]（名）【地】地球と他の天體との關係及自然の狀態の變化又はこれを包圍する氣圏・水圏等に起る諸般の現象を研究する科學。

ちへいせん[千重]（名）數多く重なること。
ちへいへい[治兵]（名）軍隊をととのへ兵隊をととのへ、のふること。「ぢへいと平。」
ちへいへい[治平]（名）世の中のをさまりて平穩なること。
ちへいへい[地平]（名）❶大地の平面。❷【地】地上の或場所に於て、地球の半徑に直角なる平面「水平」の一。——**せき**[地平視差]（名）【天】地上の或場所に於て地平上に見ゆる天體を頂心にて見るそれと方向と地平とのなす角。——**せん**[地平線]（名）❶【地】地平面と天空との相接する如く見ゆる所。❷普通一般の範圍。——**ぶかく**[地平俯角]（名）【天】觀測の高處に於ける地平面と此處を通じて地球の表面に切する平面とのなす角。——**めん**[地平面]（名）【地】洋上又は平野に立ちて四方を眺望すれば、吾人は一大圓盤面の中心にあるが如く見ゆる所。此一大圓盤面の稱。

ちへいん[池邊]（名）いけのほとり。「邊」に同じ。
ちへいん[地動]（名）❶土地の震動。❷「ぢしん」（地震）に同じ。
ちへいん[智謀]（名）古昔、すぐれたる智謀を有する人。
ちほ[地歩]（名）自國の領する位地。——**をしめる**[占地歩]（名）自國のたちばを定む。
ちほ（名）「ぢし（地獄）」に同じ。「大阪の方言」
ちほう[智謀]（名）かしこきはかりごと。たくみなる計（はかり）ごと。（謀略）。

ちぶく—**ちぶさ**

ちぶく[地腹]（名）土地の中。地下。
ちぶくく[地幅]（名）門のえもん（図）。
ちぶくち[乳腹]（名）三味線の絲巻（乳）の下の左右へ回へ腹（ふく）たる處。
ちぶくろ[乳腹]（名）前條に同じ。
ちぶくろ[地袋]（名）ふくろだな。
ちぶさ[乳房]（名）高等動物の胸部又は腹部の左右に血分（ちぶん）ひて高くふくれ出でたるもの。雄性のは退化して小さけれど、雌性のは大くして兒を分娩すれば乳汁を分泌す。又人類のは二個なれど、他の動物には數多し。（仍房）。

ちぶさがゆう[治部省]（名）古昔の八省の一。
[乳房の発育を管理し、佛尼及外科に關する事を掌りしところ。]（醫務衛生）に同じ。

チフス[羅扶斯＝Typhus]（名）[もやうチフス]
ちぶつ[持佛]（名）常に己の居間に安置するかまたは[持佛堂]（名）持佛又は祖先の位牌を置く堂。念佛堂。

ヂフテリア[實布的旦亜＝Diphtheria]（名）幼兒に多き一種の咽喉病。「チフテリー」菌に起因し、ふもに豆狀を生（ず）て呼吸困難を起すもの。ばひふう。
白色點狀の膜を生じ、急激に呼吸困難を起すもの。

ちぶつ[地犬]（名）織物の絲の太きを、一の條。
ちぶね[手船]（名）ふはくのふね。
ちぶのり-の-おきな[泣岡神]（名）旅人の行くての道々にあるといふ神。たちさりの神。

ちぶさ[血振]（名）❶婦人の産後もの汁（ぢる）を出すこと。❷人を斬りなどしたる刀にて身のふるふ時、（血迸）びて、つきたる血をふとすこと。又、歷歷なども他の生物を喰（くら）ひ、毛につきたる血を身體ひとしてふとすこと。

ちぶん—**ちほう**

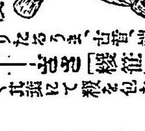
ちぶん[地文]（名）❶大地の模樣。ともいふ。❷【地】「ちぶんがく」の略。——**がく**[地文學＝Physical geography]（名）【地】地球と他の天體との關係及自然の狀態の變化又はこれを包圍する氣圏・水圏等に起る諸般の現象を研究する科學。

ちへいせん[千重]（名）數多く重なること。
ちへいへい[治兵]（名）軍隊をととのへ兵隊をととのへ、のふること。「ぢへいと平。」
ちへいへい[治平]（名）世の中のをさまりて平穩なること。
ちへいへい[地平]（名）❶大地の平面。❷【地】地上の或場所に於て、地球の半徑に直角なる平面「水平」の一。——**せき**[地平視差]（名）【天】地上の或場所に於て地平上に見ゆる天體を頂心にて見るそれと方向と地平とのなす角。——**せん**[地平線]（名）❶【地】地平面と天空との相接する如く見ゆる所。❷普通一般の範圍。——**ぶかく**[地平俯角]（名）【天】觀測の高處に於ける地平面と此處を通じて地球の表面に切する平面とのなす角。——**めん**[地平面]（名）【地】洋上又は平野に立ちて四方を眺望すれば、吾人は一大圓盤面の中心にあるが如く見ゆる所。此一大圓盤面の稱。

ちへいん[池邊]（名）いけのほとり。「邊」に同じ。
ちへいん[地動]（名）❶土地の震動。❷「ぢしん」（地震）に同じ。
ちへいん[智謀]（名）古昔、すぐれたる智謀を有する人。
ちほ[地歩]（名）自國の領する位地。——**をしめる**[占地歩]（名）自國のたちばを定む。
ちほ（名）「ぢし（地獄）」に同じ。「大阪の方言」
ちほう[智謀]（名）かしこきはかりごと。たくみなる計（はかり）ごと。（謀略）。

ちほそ—**ちまた**　五七　語古十四　音字ヘ　音方語国ヘ

ちほそ[地細]（名）織地の絲の細きこと。「一の布。」
ちほんそ[鰒汁]（名）かけはしるこ。
ちほんもく[地本]（名）其土地の出産物。「一錦繪。」
ちまい[地米]（名）其土地に產出する米。
ちまうり[蜘蛛]（名）くものこと。
ちまき[糭]（名）古代、米（こめ）の粉にて笹（ささ）をたばより細（ほそ）く米を水に浸（ひた）し、これを蒸（む）して食ふ。端午に食ふ。俗國の相に粽（ちまき）れるものなり。



とぢ。（蒸）。——**うま**[糭馬]（名）茶を巻きてつくりたるうま。古昔、端午に小兒の景（えもの）ひしもの。——**ざさ**[糭笹]（名）【植】くまざさの異稱。多く其葉にて粽を包むが故にこの名あり。

ちまた[岐]（名）幾叉の路。❷別かれたる路。わかれみち。ふたまたみち。❸流行する道路の總稱。（衢）。❹ところ。場處。「修羅の一」。——**の-かみ**[岐神]（名）❶道祖神。❷邪田居神。

ちまつり[血祭]（名）❶昔時、支那にて戰場に出立つとき、牲（にへ）を殺し、其血をもて軍神を祭りしこと。❷たゝかひのはじまりに又はたゝかひて立の際などに殺すこと。「こ。」

ちまつり[地祭]（名）「ぢさい（地鎭祭）」に同じ。
ちまなこ[血眼]（名）❶逆上して血走りたる眼。❷逆上して疾走するさまにいふ語。
ちまはり[地廻]（名）❶近在より廻送し來る。「一の米。」❷其近在を常に巡（めぐ）り行く人。——**組**[地廻組]（名）其近所を回（まは）すること。
ちまみれ[血塗]（名）血に塗（まみ）れたること。血に塗

ちまみれ—**ちめい**　五八　語古十四　音字ヘ　音方語国ヘ

ちまみれ[血塗]（名）前條に同じ。
ちまよひ[血迷]（名）ちまよふこと。
ちまよふ[血迷]（自「は四」）上氣す。狂氣す。のぼせくらふ。
ちまん[遲慢]（名）おそきこと。のろさ。
ちまん[持滿]（名）❶弓に矢をつがへ十分に引きしぼりて堅（かた）く居ること。❷機會の機已に熟したれどもと堅くて居ること。
ちみ[醜美]（名）ともに。「一取捨。」
ちみ[地味]（名）土地の生產力の度合。即ち土地の作物に適しやすと適しからざるとのはど。「一改良。」
ちみ（名）❶眞利にして飾らぬこと。かざりを設けぬこと。❷儉素。「遲き。」ともに。❸儉約。「遲き。」ともに。（數寄の方言）。
ちみち[血道]（名）血のかよふみち。血路。
ぢみちがる　婦人のためにのぼせ。色香に迷ふ。
ぢみち[地道]（名）❶普通の速度のあゆみ。ゆるきあゆみ。❷馬術にて、馬を普通の足並にあゆませること。❸あたりまへの行動。たゞしくまじめなこと。
ちみつ[緻密]（名）❶きめのこまかきこと。❷細工のこまかきこと。❸くはしきこと。つまびらかなること。❹せまきこと。ちかきこと。
ちみどろ[血塗]（名）ちまみれ。「——**おんが**いし（名）前條に同じ。「を照らす。」
ちみゃく[地脈]（名）地層の連續せる部分。「一
ちみん[治民]（名）人民をおさむること。
ちみん[地盤]（名）❶地震類に感ずる區域の幼稚。土中に生じ、形いもしに似て首赤く尾黑し。❷根をなして居ること。
ちめ[血眼]（名）逆上して充血したる眼。
ちめい[地名]（名）土地の名目。ところのなまへ。

ちめい—**ちもや**　五九　語古十四　音字ヘ　音方語国ヘ

ちめい[知名]（名）名を世間に知られてあること。「一の士。」
ちめい[知命]（名）❶天命を知ること。❷論語に出づる五十歲の異稱。
ちめい[致命]（名）❶命をなげうつこと。身を犧牲に供すること。❷其ために死ぬること。——**ぶそう**[致命傷]（名）死の原因となりたる疵。
ちめん[地面]（名）❶土地の面。地の表面。❷土地。地所。——**もち**[地面持]（名）多くの地所を所有する人。
ヂメンション[Dimension]（名）【理】感覺の現位を基本單位より形成すべき系統の稱。例へば速度は距離の時間に對する割合なるを以て、長さの單位をL、時の單位をTとせば、速度の「ヂメンション」はL¹T⁻¹となるが如し。
ちめん[知母]（名）【植】盲合（ゆり）科に屬する草。もと鮑茶の種なり。葉は韭（にら）に似て深綠色を呈す。夏の頃一尺許の細山で、小形淡紫色の花開き、細小なる果實を結ぶ。（連母、水參）。
ちめん[乳母]（名）「ちゝも」の略言。「吾がせこが來ちゝにゆかましもの」。
ちめん[除目]（名）古昔、諸臣を官職に任ずる公式。縣宰（ケウサイ）の除目・京官（ケウカン）の除目及小除目（ケウモク）などあり、其條を見よ。
ちめん[千本]（名）幾本となく數多きこと。「一の松。」

ちもの[地者]（名）遊女に對して、平人の婦女を稱す。
ちもり[路守]（名）古昔、道路を巡行して警戒せしこと。又、其人。かちもり。野守。山守の別。（道守）。
ちもん[地紋]（名）❶織作品の地の模樣。
ちもや[茶]（名）❶[植]山茶科に屬する小木。秋初

ちもや—**ちやい**　六〇　語古十四　音字ヘ　音方語国ヘ

の頃、新葉を生ず。葉は常綠にして光澤あり、冬の非常に寒冷なる地方を除きては、何處にても栽培し得べし。花は白色にして、明治なる四、五月頃、葉腋に一、二箇宛開く

ものもち

ものもち

ものもち

やみつ―やみつ

やみつ 副 ❶ 病気などが急に重くなるようす。「―悪くなる」 ❷ 急に。「―雨が降り出す」

やみつき 名 ❶ 病気などが急に重くなること。❷ 急に。「―雨が降り出す」

やみつく 動 ❶ 病気などが急に重くなる。❷ 急に。

やみつける 動 ❶ 病気などが急に重くなる。❷ 急に。

やみつけ 名 ❶ 病気などが急に重くなること。❷ 急に。

やみつけない 形 ❶ 病気などが急に重くならない。❷ 急に。

やみつけなさ 名 ❶ 病気などが急に重くならないこと。❷ 急に。

やみつけなさそう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそう。❷ 急に。

やみつけなさそうだ 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだ。❷ 急に。

やみつけなさそうです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうです。❷ 急に。

やみつけなさそうでした 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうでした。❷ 急に。

やみつけなさそうでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだろう。❷ 急に。

やみつけなさそうだった 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだった。❷ 急に。

やみつけなさそうだったら 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったら。❷ 急に。

やみつけなさそうだったり 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったり。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりして 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりして。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしても 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしても。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいい 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいい。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいです。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだろう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだった 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだった。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったら 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったら。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったり 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったり。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりして 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりして。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしても 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしても。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいい 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいい。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいです。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだろう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだった 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだった。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったら 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったら。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったり 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったり。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだった。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったら。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったり。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりして。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしても。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいい。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいです。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいでしょう。❷ 急に。

やみつけなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう 形 ❶ 病気などが急に重くならなさそうだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだったりしてもいいだろう。❷ 急に。

**やみつけなさそうだったりしてもいい

かみつ—かみつ

かみつ-き 噛み付き　(名)　噛みつくこと。

かみつ-く 噛み付く　(動五)　❶歯で物をくわえて、歯を突き立てる。「犬に足を―・かれる」　❷激しい勢いで飛びかかる。「―・くような目つき」　❸激しい口調で反抗する。「上役に―・く」　❹(俗)しつこくせがむ。「子供がおもちゃに―・く」

かみつ-ぶ 噛み潰す　(動五)　❶噛んでつぶす。「薬を―・す」　❷(俗)笑いをこらえる。「―・した顔」

かみつ-ぶし 噛み潰し　(名)　❶噛んでつぶすこと。「薬の―」　❷(俗)笑いをこらえること。「―・した顔」

かみつぶ-す 噛み潰す　(動五)　❶噛んでつぶす。「薬を―・す」　❷(俗)笑いをこらえる。「―・した顔」

かみつぶし 噛み潰し　(名)　❶噛んでつぶすこと。「薬の―」　❷(俗)笑いをこらえること。「―・した顔」

かみつ-ぶす 噛み潰す　(動五)　❶噛んでつぶす。「薬を―・す」　❷(俗)笑いをこらえる。「―・した顔」

かみつぶし 噛み潰し　(名)　❶噛んでつぶすこと。「薬の―」　❷(俗)笑いをこらえること。「―・した顔」

**かみつぶ-す

かなめ[仮名]（名）漢字の訓を借りて、その漢字の表す意味に当たる日本語を表記するのに用いる文字。平仮名と片仮名とがある。

かなめ[要]（名）①物事の最も大切な箇所。「―を押さえる」「―の石」②扇の骨の上端を束ねる部分。③「かなめもち」の略。

かなめ[鉄]（名）金属製の、ものを打ったり切ったりするのに用いる工具。

かなめ[金目]（名）「きんめだい」に同じ。

かなめ[金目]（名）「きんめだい」に同じ。

かなめ[金目]（名）「きんめだい」に同じ

やかまし—やかん 1002

やかまし（形シク）❶音・声などが大きくて騒がしい。「―・しくて勉強できない」❷口うるさい。小言が多い。「―・しく注意する」❸物事に細かくて、扱いにくい。「―・い人」❹程度がはなはだしい。「―・く言うな」❺（「やかましい」の形で）厳しい。「―・い試験」❻（「やかましい」の形で）面倒だ。「―・い手続き」❼（「やかましい」の形で）世間の評判になっている。「―・い問題」

やかまし-や（名）❶騒がしい人。❷口うるさい人。小言が多い人。

やまあらし【山荒し】(名)［中末］(名)［動］囓歯目ヤマアラシ科の哺乳類の総称。体長約六〇センチ。体は黒褐色で、背面から尾にかけて長い針状の毛が密生する。夜行性で、植物の根や果実を食べる。

やまあらし【山嵐】(名)［中末］(名)［気］山から吹き下ろす強い風。

やまあらし【山荒し】(名)［中末］(名)［農］竹の子を掘り取ること。また、その人

かあかい【中赤】(形)(文)(ク)(中赤し)(口)赤の程度が強い。「―・い夕焼け」(反)薄赤い。

かあかと【中赤と】(副)(文)(ト)(中赤と)(口)赤く輝くさま。「―燃える炎」

かあかん【火管】(名)(文)(ボイラーの)煙管。

かあき【火気】(名)(文)火の気。「―厳禁」

かあきゅう【火急】(名)(文)(ダ)(中急だ)急を要すること。「―の用件」

かあく【火口】(名)(文)(中口)(口)火山の噴火口。

かあく【火災】(名)(文)(中災)火事による災害。「―保険」

かあげ【火下げ】(名)(文)(中下げ)(口)(料理)煮物などを火からおろすこと。

かあさい【火才】(名)(文)(中才)(口)火の扱い方。「―のない人」

かあさい【火祭】(名)(文)(中祭)(口)火を焚いて行う祭り。

かあさい【火際】(名)(文)(中際)(口)火のそば。「―に立つ」

かあさい【火細】(名)(文)(中細)(口)火の勢いが弱いこと。

かあさい【火災】(名)(文)(中災)火事による災害。「―保険」

かあさい【火細】(名)(文)(中細)(口)火の勢いが弱いこと。

かあさい【火際】(名)(文)(中際)(口)火のそば。「―に立つ」

かあさい【火祭】(名)(文)(中祭)(口)火を焚いて行う祭り。

かあさい【火才】(名)(文)(中才)(口)火の扱い方。「―のない人」

かあげ【火下げ】(名)(文)(中下げ)(口)(料理)煮物などを火からおろすこと。

かあく【火災】(名)(文)(中災)火事による災害。「―保険」

かあく【火口】(名)(文)(中口)(口)火山の噴火口。

かあきゅう【火急】(名)(文)(ダ)(中急だ)急を要すること。「―の用件」

かあき【火気】(名)(文)火の気。「―厳禁」

かあかん【火管】(名)(文)(ボイラーの)煙管。

かあかと【中赤と】(副)(文)(ト)(中赤と)(口)赤く輝くさま。「―燃える炎」

かあかい【中赤】(形)(文)(ク)(中赤し)(口)赤の程度が強い。(反)薄赤い。

かあ【火】(名)(文)(中)(口)火の気。「―を起こす」

かあ【火】(名)(文)(中)(口)火の気。「―を起こす」

かあかい【中赤】(形)(文)(ク)(中赤し)(口)赤の程度が強い。(反)薄赤い。

かあかと【中赤と】(副)(文)(ト)(中赤と)(口)赤く輝くさま。「―燃える炎」

かあかん【火管】(名)(文)(ボイラーの)煙管。

かあき【火気】(名)(文)火の気。「―厳禁」

かあく【火口】(名)(文)(中口)(口)火山の噴火口。

かあきゅう【火急】(名)(文)(ダ)(中急だ)急を要すること。「―の用件」

やまかい[山会い]（名）山と山とが接する所。

やまがい[山峡]（名）山と山とに挟まれた所。山あい。

やまがい[山貝]（名）淡水産の二枚貝。

やまがい[山飼い]（名）山で鳥獣を飼うこと。

やまがい[山買い]（名）山の木を立ったまま買うこと。

やまがい[山蚕]（名）野生の蚕。

やまがい[山鳥]（名）山に住む鳥。

やまがい[山峡]（名）山と山とに挟まれた所。

やまがい[山蚕]（名）野生の蚕。

やまがい[山鳥]（名）山に住む鳥。

やまがえし[山返し]（名）山の中で方向を見失うこと。

やまがえし[山返し]（名）山の中で方向を見失うこと。

やまがえし[山返し]（名）山の中で方向を見失うこと

ゃゅょっ—ゃゅょっ

(ゃゅょっ-っゃゅょっ)(名)「中風」に同じ。

(ゃゅょっ-っゃゅょっ)(名)「中気

ゆまえ【弓前】(名) 弓の前部。弓の上半分。

ゆまえ【湯前】(名) 風呂の焚口。

ゆまえ【湯舞】(名) 湯治場などで、客の求めに応じて芸者などが踊ること。

ゆまえ【湯前

ゃまとことば—ゃまとことば

ゃまとことば [名] 和語。

ゃまとだましい [大和魂] [名] 日本人固有の精神。

ゃまとなでしこ [大和撫子] [名] 日本女性の美称。

ゃまとびと [大和人] [名] 日本人。

ゃまとぶみ [大和文] [名] 日本語で書かれた文章。

ゃまとぶんめい [大和文明] [名] 日本固有の文明。

ゃまとぼね [大和魂] [名] 日本人固有の精神。

ゃまとめ [山留め] [名] 土砂の崩れるのを防ぐこと。また、その設備。

ゃまとやき [大和焼] [名] 奈良県で産する陶器。

ゃまとりょう [大和猟] [名] 鷹狩りの一種。

ゃまとわた [大和綿] [名] 日本固有の綿。

ゃまなし [山なし] [名] 山梨の異称。

ゃまなみ [山並み] [名] 連なった山々。

ゃまなり [山なり] [名] 山の形。

ゃまねこ [山猫] [名] ❶ヤマネコ科の哺乳類。❷山に住む猫。

ゃまのいも [山の芋] [名] ヤマノイモ科のつる性多年草。

ゃまのかみ [山の神] [名] ❶山を守る神。❷妻のこと。

ゃまのこ [山の子] [名] ❶山に住む子。❷山で育った子。

ゃまのこ [山の粉] [名] 山から出る粉状の鉱物。

ゃまのこ [山の児

(ちよよ-かん)[貯蓄]名 蓄積したる物。蓄積物。
(ちよよ-かよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-かみ)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-すいどう)[水道]名 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-すいどう)[除水]名 ①解雇をなすこと。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-すいどう)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-せい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-せい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-せいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-せいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-せきりょう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-せきりょう)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-せきりょう)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「一す」
(ちよよ-せっしゃ)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-せんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-そく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-そん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-たいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-たいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-たいしょう)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-たいよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-たましん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-ちすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-ちすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-ちすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-ちせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-ちせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-ちせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-ちせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-ちぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-ちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-ちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-ちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-ちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつよん)[女神]名 女性の神。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 (他の意) 水をせきとめてたゝへよ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[除]他 ①解雇。②官に仕ずして役目につかざること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[落水]名 水をせきとめてたゝへよ。又せきとめたる水。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんすい)[貯水]名 水をたくはふること。又たくはへたる水。——ち[貯水池]名 水をたくはふるために設けたる池。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女性]名 ①女の性質。女の性欲。②女子。婦人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせい)[女生]名 おんないと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせいかつ)[女婿]名 むすめのむこ。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんせいと)[女生徒]名 女子の生徒。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんぞう)[貯蔵]名 たくはへつむこと。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょき)[除斥]名 ①のぞきさること。②[法]訴訟事件に関して、其職務の執行よりのぞかること。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除籍]名 戸籍より其名をのぞくこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちょく)[除夕]名 ふるはるかもかふるはつごもり。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんちんせい)[婿先生]名 婿の尊称。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつぞく)[除族]名 華士族の身分を除くこと。華士族の待遇を停止せらるゝこと。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつそん)[女孫]名 むすめの生んだまご。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女将大]名 いもとのレく大いなる人。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつたいしょう)[女隊]名 婦人の一くみ。「ニ」
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつちょく)[落着]名 落作したる物。落遺物。
(ちよよ-つんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつんつよく)[女色]名 婦人の色香。婦人の容貌。「一に迷ふ」「一を慎む」
(ちよよ-つんつんつんつんつん

さんご-しょう【散開】(名)(文語)(ラ変)(ラ変)(ラ変

やさお【安穏】(名)(形動)(仏)(古)(文)(ナリ)[類]あんのん・あんおん・あんのう　❶心が安らかで穏やかなこと。❷仏教で、煩悩を離れて心が安らかなこと。

やさおとこ【優男】(名)(古)(文)(ナリ)[類]あんのん・あんおん・あんのう　❶心が安らかで穏やかなこと。❷仏教で、煩悩を離れて心が安らかなこと。

やさおとこ【優男】(名)　❶やさしい感じの男。❷(古)(文)(ナリ)[類]あんのん・あんおん・あんのう　❶心が安らかで穏やかなこと。❷仏教で、煩悩を離れて心が安らかなこと。

やさがた【優形

さしすせそ—ったとて

さしすせそ　[左思右想]　(名)　種々に思いめぐらすこと。

さしすせそ　[差出口]　(名)　出しゃばって口をきくこと。

さしすせそ　[差出人]　(名)　郵便物などを出す人。発信人。

さしすせそ　[差引]　(名)　❶引き算。減法。❷差し引くこと。

さしすせそ　[差引勘定]　(名)　❶差し引き計算。❷損得の計算。

さしすせそ　[差引残高]　(名)　差し引いて残った金額。

さしすせそ　[差引帳]　(名)　金銭の出入りを記入する帳簿。

さしすせそ　[差伸べる]　(他下一)　手などを前に出す。

さしすせそ　[差回し]　(名)　❶使いの者をやること。❷自動車。

さしすせそ　[差回す]　(他五)　❶使いの者をやる。❷自動車をやる。

さしすせそ　[差掛け]　(名)　❶ひさし。❷雨傘。

さしすせそ　[差掛ける]　(他下一)　❶ひさしなどを前に出す。❷雨傘をさしかける。

さしすせそ　[差掛小屋]　(名)　ひさしを出した小屋。

さしすせそ　[差金]　(名)　❶差し引き。❷差額。❸曲尺。

さしすせそ　[差金定規]　(名)　曲尺。

さしすせそ　[差込]　(名)　❶差し込むこと。❷印刷で、文字の一部が欠けること。

さしすせそ　[差込む]　(自五)　❶差し込む。❷光が入る。

さしすせそ　[差込印刷]　(名)　印刷で、文字の一部が欠けること。

さしすせそ　[差込口]　(名)　差し込むための口。

さしすせそ　[差込む]　(他五)　❶差し込む。❷光が入る。

さしすせそ　[差込印刷]　(名)　印刷で、文字の一部が欠けること。

さしすせそ　[差込口]　(名)　差し込むための口。

さしすせそ　[差障り]　(名)　❶支障。❷不都合。

さしすせそ　[差障る]　(自五)　❶支障がある。❷不都合である。

さしすせそ　[差支え]　(名)　❶支障。❷不都合。

さしすせそ　[差支える]　(自下一)　❶支障がある。❷不都合である。

さしすせそ　[差図]　(名)　❶指図。❷命令。

さしすせそ　[差図する]　(他サ)　❶指図する。❷命令する。

さしすせそ　[差図通り]　(名)　指図どおり。

さしすせそ　[差図に従う]　(自五)　指図に従う。

さしすせそ　[差図を受ける]　(自下一)　指図を受ける。

さしすせそ　[差図を仰ぐ]　(自五)　指図を仰ぐ。

さしすせそ　[差図を待つ]　(自五)　指図を待つ。

さしすせそ　[差図を与える]　(他下一)　指図を与える。

さしすせそ　[差図を乞う]　(自五)　指図を乞う。

さしすせそ　[差図を求める]　(他下一)　指図を求める。

さしすせそ　[差図を請う]　(自五)　指図を請う。

さしすせそ　[差図を出す]　(他五)　指図を出す。

さしすせそ　[差図を下す]　(他五)　指図を下す

ひらがな—ひらがな　1002

ひらがな—ひらがな　1004

ひらがな—ひらがな　1101

ひらがな [名] 仮名。

ひらがなぶみ [仮名文] (名) 仮名で書いた文章。

ひらく [開く] (動五) ❶ 閉じていたものを広げる。「本を—」 ❷ 閉じていたものを開ける。「戸を—」 ❸ 閉じていたものを開ける。「口を—」 ❹ 閉じていたものを開ける。「目を—」 ❺ 閉じていたものを開ける。「傘を—」 ❻ 閉じていたものを開ける。「店を—」 ❼ 閉じていたものを開ける。「会を—」 ❽ 閉じていたものを開ける。「道を—」 ❾ 閉じていたものを開ける。「窓を—」 ❿ 閉じていたものを開ける。「扉を—」

ひらける [開ける] (動下一) ❶ 閉じていたものが広がる。「視界が—」 ❷ 閉じていたものが開く。「戸が—」 ❸ 閉じていたものが開く。「口が—」 ❹ 閉じていたものが開く。「目が—」 ❺ 閉じていたものが開く。「傘が—」 ❻ 閉じていたものが開く。「店が—」 ❼ 閉じていたものが開く。「会が—」 ❽ 閉じていたものが開く。「道が—」 ❾ 閉じていたものが開く。「窓が—」 ❿ 閉じていたものが開く。「扉が—」

ひらたい [平たい] (形) 平らである。「—皿」

ひらたけ [平茸] (名) ヒラタケ科のきのこ。

ひらたさ [平たさ] (名) 平らなこと。

ひらたし [平たし] (形ク) 平らである。

ひらたらし [平たらし] (形シク) 平らである。

ひらたらす [平たらす] (動四) 平らにする。

ひらたらに [平たらに] (副) 平らに。

ひらたらぬ [平たらぬ] (連体) 平らでない。

ひらたらば [平たらば] (仮) 平らであれば。

ひらたらむ [平たらむ] (連体) 平らであろう。

ひらたらめ [平たらめ] (名) 平らなこと。

ひらたらも [平たらも] (副) 平らに。

ひらたらゆ [平たらゆ] (動下二) 平らになる。

ひらたらよ [平たらよ] (感) 平らであれ。

ひらたらり [平たらり] (動ラ変) 平らである。

ひらたらる [平たらる] (動ラ変) 平らである。

ひらたられ [平たられ] (動ラ変) 平らである。

ひらたらろ [平たらろ] (動ラ変) 平らである。

ひらたらわ [平たらわ] (動ラ変) 平らである。

ひらたらん [平たらん] (動ラ変) 平らである。

ひらたり [平たり] (形ク) 平らである。

ひらたる [平たる] (連体) 平らである。

ひらたれ [平たれ] (已) 平らであれ。

ひらたろ [平たろ] (未) 平らであろう。

ひらたわ [平たわ] (未) 平らであわ。

ひらたん [平たん] (連体) 平らである。

ひらたんこ [平たんこ] (名) 平らなこと。

ひらたんこく [平たんこく] (名) 平らな国。

ひらたんこと [平たんこと] (名) 平らなこと。

ひらたんこん [平たんこん] (名) 平らな根。

ひらたんこんぼう [平たんこんぼう] (名) 平らな棒。

ひらたんこんぼうし [平たんこんぼうし] (名) 平らな棒子。

ひらたんこんぼうしき [平たんこんぼうしき] (名) 平らな棒式。

ひらたんこんぼうしきの [平たんこんぼうしきの] (連体) 平らな棒式の。

ひらたんこんぼうしきのもの [平たんこんぼうしきのもの] (名) 平らな棒式のもの。

ひらたんこんぼうしきのものの [平たんこんぼうしきのものの] (連体) 平らな棒式のものの。

ひらたんこんぼうしきのものもの [平たんこんぼうしきのものもの] (名) 平らな棒式のものも

つかはす-すだす[使]（他さ四）❶さしだす。おくる。❷たまふ。あたふ。❸命じて行かす。さしむく。「に同じ。

つかはれ-め[被使者]（名）「つかはれもの」に同じ。

つかひ[使]（名）❶つかふもの。もちふるもの。❷役に立たず、行かうとする人。正使（副使）。——**-ごころ**[使心]（名）使用の法。——**-かた**[使方]（名）つかふ方法。——**-こと**[使事]（名）❶

いきおい—**いきなり**

いきおい[勢い]（名）①物体が動くときの力。「―をつけて走る」「―よく飛び出す」②物事の進む力。「―に乗る」「―が衰える」③勢力。「―を得る」「―を張る」④成り行き。「―上やむを得ない」⑤気力。「―がない」⑥威勢。「―のいい声」⑦（副詞的に）…の―で」の形で）…の成り行きで。「―泳ぐ」「―泳ぐ」「―泳ぐ」

ひかり[光]（名）[理]（物）エネルギーの一種で、電磁波のうち、波長が約0.4ミクロンから0.8ミクロンまでの範囲のもの。人間の目に感じる。

つくつくし [蟬](名) 蟬の一種。体は黒く、翅は透明で、夏の末に「つくつくし、つくつくし」と鳴く。

つくづく [副] ❶念を入れて。よく。「—と考える」❷しみじみと。「—と思う」

つくづくし [土筆](名) 【植】杉菜の地下茎より生ずる茎。群生の種。其形態は杉菜に似て節あり。食用とす。

ひだり [左] (名) 東西南北の西に当たる方向。「―に曲がる」 ⇔右

ひだりあい [左合い] (名) 左前に着物を着ること。 ⇔右合い

ひだりうえ [左上] (名) 左の上の方。 ⇔右上

ひだりがわ [左側] (名) 左の方。 ⇔右側

ひだりき [左利き] (名) 左手を右手より自由に使うこと。また、その人。 ⇔右利き

ひだりきき [左利き] (名) 左利き。

ひだりした [左下] (名) 左の下の方。 ⇔右下

ひだりて [左手] (名) 左の方の手。 ⇔右手

ひだりどなり [左隣] (名) 左側の隣。 ⇔右隣

ひだりのて [左の手] (名) 左手。

ひだりまえ [左前] (名) 着物を着るとき、左の衽が右の衽の上になること。 ⇔右前

ひだりまき [左巻き] (名) 左に巻くこと。また、巻いたもの。 ⇔右巻き

ひだりまわり [左回り] (名) 左の方へ回ること。 ⇔右回り

ひだりみぎ [左右] (名) 左と右。

ひだりむき [左向き] (名) 左の方を向くこと。 ⇔右向き

ひだりやく [左厄] (名) 男は四十二歳、女は三十三歳の厄年。

ひだりよせ [左寄せ] (名) 文字列などを左に寄せること。 ⇔右寄せ

ひだりりょう [左利] (名) 左利き。

ひだりわき [左脇] (名) 左の脇。

ひだるい [ひだるい] (形) 空腹で力が出ない。

ひだるま [ひだるま] (名) 空腹で動けなくなること。

ひだるまがし [ひだるま貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやくがし [ひだるま役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやく [ひだるま役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくがし [ひだるま役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくしゃ [ひだるま役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくしゃがし [ひだるま役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくしゃやく [ひだるま役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくしゃやくがし [ひだるま役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやく [ひだるま役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくがし [ひだるま役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくしゃ [ひだるま役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやく [ひだるま役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃ [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃがし [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者貸し] (名) 空腹で動けなくなった人に食物を与えること。

ひだるまやくしゃやく [ひだるま役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役役者

ひかり【十】(名) 土中に住む小さな虫。「白—」

ひかり【光】(名) 日・月・星・電灯などから出て、物を明るく照らすもの。「—を放つ」「—が差す」

ひかり【光】(名) 光線の明暗によって生じる物の形。「—と影」

ひかり【光】(名) 光線の速さ。「—の速度」

ひかり【光】(名) 光線のように速いこと。「—の速さ」

ひかり【光】(名) 光線のように速いこと。「—の速さ」

ひかり【光】(名) 光線のように速いこと。「—の速さ

ひかり [光] (名) 光線の波の型(パターン)を利用して、写真・印刷・通信などに応用する技術。

ひかりかいろ [光回路] (名) 光ファイバーなどの光導波路を用いて光信号を処理する回路。

ひかりがく [光学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりがくげんしょう [光学現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりかこう [光加工] (名) 光を利用して行う加工。

ひかりかんじゅせい [光感受性] (名) 光に対する感受性。

ひかりきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうがく [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

ひかりこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

ひかりこう [光工学] (名) 光の本質・現象・性質などを研究する物理学の一分野。

ひかりこうがくレンズ [光学レンズ] (名) 光学機器に用いるレンズ。

ひかりこうかん [光交換] (名) 光信号のまま交換すること。

ひかりこうきょく [光曲] (名) 光の屈折・反射・干渉などを利用して、光の変化を楽しむ装置。

ひかりこうきょくせん [光曲線] (名) 光の強さを時間の経過に沿って表した曲線。

ひかりこうきょり [光距離] (名) 光が真空中を一年間に進む距離を単位とした距離。

ひかりこうけいさんき [光計算機] (名) 光を利用して計算を行う装置。

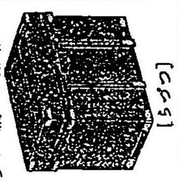
ひかりこうけいそ [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうけいそく [光計測] (名) 光を利用して物体の形状・位置・速度などを測定すること。

ひかりこうげんしょう [光現象] (名) 光の干渉・回折・偏光などの現象。

**ひかりこう

つうら [窓帷] (名) もとは、あをかづらの葛(かづら)をもて編りたる帷(とばり)の類、今は、もめんに竹又は檜(ひのき)の薄板などにて作り、上に紙を貼(は)りて、衣服を納(をさ)めに用ふる箱。(柳箱)。


[つづら]

十**つうら** [皿] (名) つづらかに同じ。「目を一にさし出(だ)さば」

つうら-おり [窓笠] (名) 明暦の頃に流行せし笠。あかさや女の被(かづ)りしものにして、形は市女笠に似て、中のふくれ稍々低し。「同じ。

十**つうら-かづら** [窓蔓] (名) [皿]「あをかづら」に同じ。

十**つうら-こ** [窓籠] (名) 「つづらこ」に同じ。

十**つうら-つくり** [窓籠造] (名) つづらを造ること、又、其業の人。「じ。

つうら-ふじ [窓藤] (名) [皿]「あをかづら」に同じ。

つうら-をり [窓折] (名) 葛のつるの如く折れ曲がれる様。❶直ぐに折れ曲(ま)がりたる坂路。(羊腸、九折坂)。❷馬術にて、幾度となく折り返して、馬を乗り廻(まは)すこと。

つうり [綴] (名) ❶つづること。❷つづりあはして仕立たる衣服。(袷衣)。❸古つづれ。「じ。——**あはせ** [綴合] (名) つづりあはすること。——**あはせる** [綴合] (他)(下二) つづりてこれにまとむ。——**かた** [綴方] (名) 文章又は言語をつづる方法。

十**つうり-させ** (名) きりくすの叫ぶ声。「——ふりくすなくく。

つう-る [綴] (他)(ら四) ❶つなぎ合はす。つづりあはす。❷ことばを連ねて文章を作る。「詩歌を——。❸アルバムなどを連ねて冒頭を作る。

つうる [綴] (名) 多くの布片をつづりあはせたるぼろ。(襤褸、百結衣)。——の。

つうるし [綴錦] (名) 花鳥人物などの模様を織りなしたる錦。(金襴錦)。

つう-る [筒非] (名) 円く刳りたる非、——**つう** [筒非筒] (名) 筒非の非筒。

つえ [杖] (名) ❶ことうて、ひとうて、「——に田く、❷てうぢえんびきだより。

十**つえ** [杖] (他)「つたふ」の変化なる「つたく」の命令言葉。「上古歌の風」。——**ごと** [杖言] (名) いひつたふることば。(流言、飛語)。

つえ-だて [笹] (名) ❶葉ながきにて、つゝみに作りたるもの。あらづゝみ。❷竹の子、其土地の産物などを、「かれいひの一」。❸掛くく行く其土地の産物。❹いくづ。かやげ。

つえ [杖] (名)「たばに」に同じ。

つえ-ぎ (副) ❶曲がりたるに、ぎゝと、「——伸びる。❷[急]に身を曲かして、「一去来る。「毎。

つえ-ぎ [都度] (名)(副) 其たびごとに、まいく、毎。

つえ-がみ [髷髪] (名) たばの髪。

つえ-ぎし [髷差] (名)「たばさし」に同じ。

つえ-どうふ [笹豆腐] (名) 葛などに入れたる豆腐。笹くまばりたるもの。「豆。

つえ-なっとう [笹納豆] (名) 笹に入れたる納豆。

つえ-に [風] (副) ❶時はやく、もしたに、「一乗夜夜(よるよる)。❷幼時に、ことものときに、「一大志を抱く。❸其前に、早く、「我一此事あるを知れり。

つえ-ぶ [集] (自)(は四) 寄り集まる。寄り合ふ。よりあつまる。(衆)。

つえ-ぶ [集] (他)(は下二) つどはしる。

つえ-ぶえ [集笛] (名) 一種の遊戯、組の用意を数人にて吹(ふ)き合ひて勝負を争ふもの。❷人力車などに乗りて急行するとき、屈様に綱をつけ、屈様などこれらものと綱を引かるもの、両人に挽(ひ)かしむるもの。❸牛馬などが引かゝり方に寄らしと意地を張るもの。

つえび-く [綱比] (自)(か四) ❶繋(つな)ぎたる綱をひく。❷牛馬などの引かゝり方に寄らしと意地を張る。

つえ-ばし [津浪] (名)「かいせう」(海嘯)に同じ。

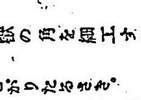
十**つえ-ばみ** [常止] (名) 常住一処、常住一様。

つえ-ばら [常] (副) 手生に。ふだんに。

つえ-びと [常人] (名) なみ〳〵の人。つねのひと。たゞのひと。凡人。

つえ-る [抓] (他)(ら四)「つねる」に同じ。

つえ [角] (名) ❶生物の頭上にある突起物の称。乳類のは堅質にして骨質又は皮質より成る。「骨頭」ともいふ。「つの」といふはもと此を指す。❷屋の棟(むね)の両端に高く出でたるもの。❸[婚人が帽子(ラシャ)の表面の左右に出でたるもの。——**だたいてうしをころす** [諺] 角殺牛] 欠点をたゞなほさんとして、手段其度を過ぎたるに其物其をして殺物となるしおおきをいふ。


[しくかのつの]

つの-かくし [角隠] (名) 昔時、婚人が帽子のごときなどに用ひし一種の帽子。

つの-かみ [角紙] (名) ちゞめ(縮緬)。

つの-きり [角切] (名) かいものの賀。

十**つの-ぐ** [自](ま四) つの、如くむ。「——もしの兄さみ兄さすみ」(催馬楽)。

つの-ぐ-る [仙](ら四) 婚人の髪を結ふに、束ねて角の出でたるやうになす。

つの-ざいく [角細工] (名) 獣の角を細工する、又、其細工したる物。

つの-さき [角尖] (名) 角のとがりたるさき。

つの-ぢぼり [角鉄] (名) つの立ちたる鹿子鉄。

つの-だ-つ [角立] (自)(た四) ❶角だちてある。

(名)。❷より縒(よ)りてたるつゝなもの「命の一」、❸一種の遊戯、綱の用途を数人にて互(たが)ひに合ひて勝負を争ふもの。❹人力車などに乗りて急行するとき、屈様に綱をつけ、屈様などこれらものと綱を引かるもの、両人に挽(ひ)かしむるもの。❺牛馬などが引かゝり方に寄らしと意地を張るもの。

つねび-く [綱比] (自)(か四) ❶繋(つな)ぎたる綱をひく。❷牛馬などの引かゝり方に寄らしと意地を張る。

つね-ばみ [津浪] (名)「かいせう」(海嘯)に同じ。

十**つねば-む** [常止] (名) 常住一処、常住一様。

つねば-むだし [綱渡] (名) 早瀬の河などにて大なる綱を両岸に渡し、繋(つな)ぎ、それに縋(すが)りて船を渡すこと。又、其渡場。

つねば-わたり [綱渡] (名) 空中に張りたる綱を、傘などを持ちながら渡り行く軽業。(綱渡)。

十**つぬ** [角] (名)「つの」の古称。

つぬ-ぬけ [圓抜] (名) つぬけること。なみはづれ。

つぬ-ぬける [圓抜] (自)(か下一) なみにはづれる。

つね [常] (名) ❶何時も其まゝにてあること。ことに変ぜざること。恒。❷一定して動かざる理義。普通なる道。❸ふだん。平日。平素。❹よのつねなること。❺[副]たびたびなること。普通。毎常。——**なし** [無常] 定まりなきこと。かはりやすし。——**ならず** [不常] いつもとことなり。

十**つね-ことばどり** [常言葉鳥] (名) [皿]ほとゝぎすの異称。

つね-づつ [頭熱] (名) 逆上して頭の熱気をもつこと。のぼせ。

つねづね [常常] (名)(副) ふだん。平生。

つねて-いた [常畳] (名) ❶なみのさゝ。❷ふだん

り。❸かどだつ。❹きはだつ。

つの-だ・つ[角立](他・た下二)❶角をふこしたつ。❷かどをふこす。❸きはだ・ツ。

つのだ-ひびイ[角盥](名)左右に角の如く柄の出でたる盥。多くは漆器にして、口又は手を洗ふに用ふ。たらひ。(匝盥)。

つのだる[角樽](名)こえだる(柄樽)に同じ。

つのづき[角突](名)❶角をもて突を合ふこと。❷[仲間]しく相衝突すること。

つの-つきあひイ[角突合](名)加様(三)に同じ。

つの-で・る[角出](自・ら四)獣の角を現はす。轉じて、敵の加害を圖ふ。

つの-ばし[角箸](名)角細工の箸。

つのの-はずせ[角筈](名)昔、盛裝婦人(宮廷の思圖)

つのの-ふでや[角筆](名)手さしレ又は字突の類。

つのの-まだ[角俣](名)[俗]紅色深に屬する混色。ふのりに似て大きく、乾せば色黒し。食用にも供せらるれど、多くは糊(ノリ)を製するに用ふ。(赤菜)。

つのの-むし[蟲](名)[動]「おふさむし」の一名。(蟲名)。

つのの-めかす(自・さ四)次條に同じ。

つのの-な・つきあひイ[角目立](自・た四)❶かどだつ。❷目角を立つ。

つのめ-つきあひイ[角目突合](名)互に惡みあふこと。感情の衝突。「弓(弦)」。

つのの-ゆみ[角弓](名)角にて弓弭を作りたる弓。

つのの-り[海](名)求め安きこと。粗末なること。

つの-ま・る[末](他・ら四)ひろく求め安くす。まれく用ふる意。

つの-ま・る[末](自・ら四)ます〳〵並しくなる。いよ〳〵はげしくなる。「病ー」。

つのる[募](他・ら四)❶ますます甚しくす。❷ますます甚しくなる。

つば[唾](名)口中の粘液。

つば[鍔](名)刀劍の柄と刀身との間に挿むもの。鐔(ツバ)くして孔あり、これに刀身を貫きて柄頭に入れ、柄を握る手のふせぐところなり。刀劍の形は圓若しくは方にして、大小種々あり。(刀鍔劍鍔)。❷釜の胴のまはりに庇(ひさし)の如く差出でたるもの。❸傘の周邊に庇の如く差出でたるもの。

つばいちイ[椿餅](名)「つばきもち」の音便。

つばいもち[椿餅](名)[俗]「つばきもち」の音便。

つば-うち[唾打](名)舌尖を唾にてぬれ、指にて打ち、共飛び去りし方を吉なる方向と占ひしこと。

つばおかた[鍔刀](名)「つばかたな」に同じ。

つば-おき[唾](名)口中の唾液の分泌する粘液を消化液、つば。(口液、口涎)。

つばき[椿](名)❶[植]山茶科に屬する大喬木。葉は茶に似て硬く、常緑にして光澤多し。花はもも、赤、白等、大小形色種類多けれどもすべて美し。果實より油を搾る。(山茶)。❷かきの色。❸衣服の配劑にして夜の赤きもの。「ー」。

つばき-あぶら[椿油](名)椿の果實より搾りたる油。婦人の頭髪などにつくるもの。「所」。

つばき-ぜりあひ[鍔際](名)刀身と鍔との相接する處。

つばき-おし[唾垢](名)[動]「あぶらむし」に同じ。

つばきもち[椿餅](名)椿の葉につつみたる餅。物場などに用ふるもの。

つばくろ[燕](名)[動]「つばめ」の音便。

つばくらぐち[燕口](名)「つばくろぐち」に同じ。

つばくろ[燕](名)❶鳥の名。背は羽毛生じ、飛行の用をなすもの。はね。(翅)。❷左右のたすけ又はそなへ。「ー—たかぢり」(名)[動]鷹の異稱。

つばぜり[唾汁](名)つばき。つば。

つばは-つばね(名)[植]「ぬけ」。

つば-はつぶれ[圖外](名)なみをはづれてあること。

つば-はなれ[茶花](名)❶茶(チヤ)の花。❷茶の異稱。

つばみ-かすみ(仙・さ四)掴みひらげて、つばを「綿を—」。

つばめ[燕](名)[動]「つばくろ」の古稱。

つばめびらげ-し[詳](形・ク)「つばなびらけし」に同じ。

つばめびらこ[燕](名)[動]「つばくろ」に同じ。

つばめ-ぶき(名)[植]茅科に屬する草。葉は圓狀窄形にして脇の如く、深緑色にして光澤あり。夏は淡紅色にして花は黒紫色なり。開花用として栽

つばもち-もめん[椿糀](名)[植]棉の一種、果實に毛なく、熟すれば赤くして光澤あり。

つばや-く(自・か四)[唾]「つばきをはく」

つばやくら[悪口](名)[動]携帯用の袋。布帛にて製し、口を兩方は猫の尾の如きものをなすもの。

つばくらめ[燕](名)[動]燕雀類中つばめ科に屬するもの。嘴短く、扁平にして口圍(ヒロ)く、翅(ツバサ)と尾とは紫黒色にして、翅と尾とに長く、尾は分叉せり、喉(ノド)は赤褐色、腹は白色なり。春分の頃、暖地より來りて人家の軒などに巣をかけ、雛(ヒナ)を養ふ。つばくろ。つばくら。つばめ。(乙鳥、玄鳥)。

つばくろ[悪口](名)「つばくらめ」に同じ。

つばくろぐち[悪口](名)「つばくらぐち」に同じ。

つばさ[翼](名)❶鳥の左右の腋、羽毛生じ、飛行の用をなすもの。はね。(翅)。❷左右のたすけ又はそなへ。「ー—たかぢり」(名)[動]鷹の異稱。

つばさ-まぐる[唾汁](名)つばき。つば。

つばは-つばね(名)[植]「ぬけ」。

つば-はつぶれ[圖外](名)なみをはづれてあること。

つば-はなれ[茶花](名)❶茶(チヤ)の花。❷茶の異稱。

つばみ-かすみ(仙・さ四)掴みひらげて、つばを「綿を—」。

つばめ[燕](名)[動]「つばくろ」の古稱。

つばめびらげ-し[詳](形・ク)「つばなびらけし」に同じ。

つばめびらこ[燕](名)[動]「つばくらめ」に同じ。

つばめ-ぶき(名)[植]茅科に屬する草。葉は圓狀窄形にして脇の如く、深緑色にして光澤あり。夏は淡紅色にして花は黒紫色なり。開花用として栽

培す。

つばめ[燕](名)[動]「つばくろ」の古稱。

つばめびらげ-し[詳](形・ク)「つばなびらけし」に同じ。

つばめびらこ[燕](名)[動]「つばくらめ」に同じ。

つばめ-ぶき(名)[植]茅科に屬する草。葉は圓狀窄形にして脇の如く、深緑色にして光澤あり。夏は淡紅色にして花は黒紫色なり。開花用として栽培す。

つばめ-もち[燕](名)[植]「つばめぶき」の異稱。

つばら[委曲](名)[形動]くはしく。つまびらか。

つばら-つばら[委曲委曲](名)[形動]くはしくつまびらかなるさま。

つばらか[委曲](名)[形動]「つばら」に同じ。

つばらか-なり[委曲](名)[形動]「つばらか」に同じ。

つばり[悪口](名)[俗]「つばくろ」に同じ。

つび(名)[動]「いもり」(蠑螈)の轉。

つびえ[螺](名)螺類の總稱。つぶ。

つびえ[蛩](名)❶くさむしの類をいふ。❷くさむしの如き蟲。❸無用の人。無用のものの稱。

つびえる(自)「つひゆる」の訛。

つび-ひき[圖引](名)❶圖を引くこと。圖を作ること。❷圖を引く人。「ー—がみ」[圖引紙](名)圖引に使用する紙。「ー—きかい」[圖引機械](名)圖引に使用する器具。即ち製圖用定規・コンパスなどをいふ。

つびく(名)[動]「いもり」(蠑螈)の轉。

つびら[螺](名)螺類の總稱。つぶ。

つびらえ[螺](名)❶くさむしの如き蟲。❷くさむしの如き蟲。❸無用の人。無用のものの稱。

つびらえる(自)「つひゆる」の訛。

つび-ひき[圖引](名)❶圖を引くこと。圖を作ること。❷圖を引く人。「ー—がみ」[圖引紙](名)圖引に使用する紙。「ー—きかい」[圖引機械](名)圖引に使用する器具。即ち製圖用定規・コンパスなどをいふ。

つびる(名)[動]「いもり」(蠑螈)の轉。

つびる[螺](名)螺類の總稱。つぶ。

つびえ[螺](名)❶くさむしの如き蟲。❷くさむしの如き蟲。❸無用の人。無用のものの稱。

つびえる(自)「つひゆる」の訛。

つび-ひき[圖引](名)❶圖を引くこと。圖を作ること。❷圖を引く人。「ー—がみ」[圖引紙](名)圖引に使用する紙。「ー—きかい」[圖引機械](名)圖引に使用する器具。即ち製圖用定規・コンパスなどをいふ。

つびる(名)[動]「いもり」(蠑螈)の轉。

つびる[螺](名)螺類の總稱。つぶ。

つびえ[螺](名)❶くさむしの如き蟲。❷くさむしの如き蟲。❸無用の人。無用のものの稱。

つびえる(自)「つひゆる」の訛。

つび-ひき[圖引](名)❶圖を引くこと。圖を作ること。❷圖を引く人。「ー—がみ」[圖引紙](名)圖引に使用する紙。「ー—きかい」[圖引機械](名)圖引に使用する器具。即ち製圖用定規・コンパスなどをいふ。

つぶ[粒](名)[圓]の轉。❶螺類の總稱。「栄の一」(原)。❷小さき谷圓。❸つぶ貝の略言。❹一個を形成せる

一」。❶圓くして小さき物。「球數の一」(原)。❷粒の球。❸つぶ貝の略言。❹一個を形成せる小さき谷圓。

つぶ[螺](名)螺類の總稱。つび。

つぶ(接頭)「すぶ」に同じ。

つぶさ-きる[粒切](名)こまかくきれること。

つぶさぎん[粒銀](名)ぎんだまの異稱。

つぶさき[悪具備](名)おもなくそなはりてあること。

つぶさぎめ(名)老人の異稱。

つぶし[潰](名)❶ふしくうこと。❷ふしくうこと。「目ー」。❸はるばすこと。たやすこと。❹諸物になりてある金高を錠(上)かして地金にすること。又其地金。❺一定の役目又は地位にふかがしてたの人としてのはたらき。「一の利かぬ人間」。——ア[潰陥](名)赤豆(ヅ)を擂(ス)りつぶして漉(コ)さずに團せる團。——きん[潰金](名)つぶして地金となしたる金圓。

つぶ-あんたけ(仁)[粒椎茸](名)椎茸の細くして粒狀をなしたるもの。

つぶ-おうみ[陰頭](名)[動]陰部の毛に生ずるはえらみ。つびえらみ。

つぶ-すイ[潰](仙・さ四)❶ふしくうす。くはす。❷ふしくうす。❸はるばす。たやす。❹諸物になりたる金圓を錠(上)かして地金にす。「身上を—」。❺地金にす。

つぶ-だ・つ[粒起](自・た四)❶粒狀に立つ。❷粒狀に立てり。❸粒狀に立てり。

つぶつぶ[山山](名・副)つまびらかなるさまにいふ語。

つぶつぶ[皿皿](名)❶まさらかなるさまにいふ語。

つぼむ【蕾】(自五四)つぼみを持つ。つぼむ。

つぼめる【窄】(他下一)つぼむ。すぼめる。

つぼやき【壺屋】(名)古昔、人家に附屬せし物置の一名。

つぼやき【壺焼】(名)ホヤなどのつぼやき。

つぼやきまぼろし【壺焼幻】(名)表裏の區別なく入れたる圓形の幻燈。

つぼやね【壺矢】(名)筒狀を成せる矢。

つま(名)❶つれ。夫婦の互に呼びあふ語。❷(夫婦)。❸雄雌にもいふ。つれあひ。(夫妻)。❹獸類の特稱。にようばう。❺轉じて、修飾に吸物の吸口などを添へて附ける野菜の稱。

つま【端】(名)❶くりやは、はしの一。軒の一。❷てびさ。ふちびさ。いとぐち。道もの出づる一となやかなど。

つま【褄】(名)衣服の裾の左右の下のくり。

一をとる　褄をとりて左右へ分かつ。又、妓者となる。

つまー【爪】(接頭)「つめの略」「一先」

つまーいり【踏歩】(名)爪入りの彫牛馬の蹄(ひづめ)の模樣。

つまーおと【爪音】(名)❶琴爪の音。即ち、琴を彈(ひ)く音。❷馬の蹄(ひづめ)の音。

つまーおくし【爪櫛】(名)草履の初、江戸吉原にて流行せし草履、京草履の前の結(ゆ)の所を上に反(そ)らしたる。

つまーおと【妻】(名)❶ふさはしき妻。❷(妻)。❸(妻)。

つまーおと【爪

すること。「謂詞ヲ—ト為ス」　**つまはづれ**[爪外]（名）取リ扱ヒノ程度、身ノ分ニ過ギタルコト。「—ノ事ヲスルニ」

†**つまはじき**[爪弾]（名）「つまびき」ニ同ジ。「—ニ弾ク」

つまびき[爪弾]（名）琴ノ絃ヲ、指ノ爪ニテ弾クコト。

†**つまびらか**[詳]（名）事ノ委シクナルサマ。「—ニ知ル」　「—ニ申シ上ゲマス」

†**つまびらか・し**[詳]（形シク）委シクナリ。「—ク述ベル」

つまみ[摘]（名）❶ツマムコト。❷ツマミ取ッタ物ノ量。「一ノ土」　❸ツマミ取ッタ如ニ附ケタル物。「印ノ—」　——**あらひ**[摘洗]（名）よごれた食器ナドヲ、ツマミ取ルヤウニシテ洗フコト。——**だし**[摘出]（名）❶必要ナ分ヲ取ルコト。——**ぢ**[摘食]（名）箸ヲ用ヒズ指先ニテツマミテ食フコト。（雅語）　❶必要ナ分ヲ取ルコト。——**こ・む**[摘込]（他ム四）❶ツマミテ入レコム。❷無造作ニ入レコム。——**だ・す**[摘出]（他サ四）❶ツマミテ出ス。——**だ・る**[摘取]（他ラ四）❶ツマミテ取ル。❷ヨリヨキヲ選ビ取ル。——**な**[摘菜]（名）摘ミ採リタル野生ノ菜。——**ヤウカン**[摘羊羹]（名）一種ノ菓子。

つまみ・おほ[摘]（他ハ四）❶指ヲ以テ挟ミ持ツ。指先ニテ挟ミ取ル。❷眼鏡ヲ掛ケ、物ヲ拡ク。❸一種ノ遊戯ヲ為ス。（図）　❹{えらびとる}ヨリヌク。❺無造作ニ作ル。一気ニトリカタヅケル。❻一時ノ出来心ヨリ、目下ノ女ナドヲ盗ム。❼瓦燈ナドヲ人ヲ捕カフ。

†**つまもの**[爪木]（名）爪ノモトノ、つまは。

†**つまやう**[妻養]（名）妻ヲ養フコト。

†**つまやしろ**[妻屋]（名）夫婦ノ住居。

†**つまやうじ**[爪楊枝]（名）小楊枝。

†**つまやしろ**[妻社]（名）昔ハ、ハシノ小サキヲ言ヒシモノ。

つまやうじ[爪楊枝]（名）「つまやうじ」ニ同ジ。

つまよ・る[爪寄]（他ラ四）つまを上ニ寄セル。

つまよび[妻呼]（他ハ四）つまヲ呼ブ。

つまよ・る[爪寄]（他ラ四）矢ヲ左手ノ爪ノ上ニノセ、右手ニテ弦ヲ引キ、矢ヲ曲直ヲ試ス。

つまらな・い[詰]（形イ）ねうちヲシ、興味ナシ。役ニ立タヌ、取ルニ足ラヌ。「あ極ッ」

つまり[詰]（名）❶つまるコト。「身ノ—」　❷はて。つまり。

つまりは[詰]（副）終ニ。はては。到底。（雅語）

つまる[詰]（自ラ四）❶ふさがりて通ヒ、ツカエテ止マル。ふさがる。「煙突ガ—」（図）　❷せまりもはまる。くるしみなやむ。きゅうつ。「金銭ニ—」（図）　❸極所ニとどこほる。終局ニ至ル。❹短クなる。小さくなる。ちぢまる。「目ガ—」　❺一ハいたに物ノ語ヲ終ヘテいふ。——**ところ**[詰所]（副）せんずる所。つまりは。

つまをり[端折]（名）つまをること。——**がさね**[端折重]（名）骨ノ端ヲ内ヘ折リカヘシタル屋根ノ棟。古昔、官人ノ用ヒシもの。

つまを・る[端折]（他ラ四）はしを折る。

†**つみ**[罪]（名）「つみ」（罪過）に同ジ。

†**つみ**[積]（名）「つむ」ヨリ。

†**つみ**[雀鷂]（名）「ツミ」ノ古称。

つみ[罪]（名）❶人ニつみカクすべきこと。❷道徳又ハ規則ヲ破リタル所業。悪事。❸[法]犯罪。

†**つまや**[廂屋]（名）夫婦ノ住居ヲ言ヒシモノ。

†**つまやうじ**[爪楊枝]（名）小楊枝。

†**つまやしろ**[妻社]（名）昔ハ、ハシノ小サキヲ言ヒシモノ。「つまやしろ」ニ同ジ。

つまよ・る[爪寄]（他ラ四）つまを上ニよるニ同ジ。

つまよ・ぶ[妻呼]（他ハ四）つまヲ呼ブ。

つまよ・る[爪寄]（他ラ四）矢ヲ左手ノ爪ノ上ニノセ、右手ニテ弦ヲ引キ、矢ヲ曲直ヲ試ス。

つまらな・い[詰]（形イ）ねうちヲシ、興味ナシ。役ニ立タヌ、取ルニ足ラヌ。「あ極ッ」

つまり[詰]（名）❶つまるコト。「身ノ—」　❷はて。つまり。

つまりは[詰]（副）終ニ。はては。到底。（雅語）

つまる[詰]（自ラ四）❶ふさがりて通ヒ、ツカエテ止マル。ふさがる。「煙突ガ—」（図）　❷せまりもはまる。くるしみなやむ。きゅうつ。「金銭ニ—」（図）　❸極所ニとどこほる。終局ニ至ル。❹短クなる。小さくなる。ちぢまる。「目ガ—」　❺一ハいたに物ノ語ヲ終ヘテいふ。——**ところ**[詰所]（副）せんずる所。つまりは。

つまを・る[端折]（名）つまをること。——**がさね**[端折重]（名）骨ノ端ヲ内ヘ折リカヘシタル屋根ノ棟。古昔、官人ノ用ヒシもの。

つまを・る[端折]（他ラ四）はしを折る。

†**つみ**[愆]（名）「つみ」（罪過）に同ジ。

†**つみ**[柘]（名）「つみ」ヨリ。

†**つみ**[雀鷂]（名）「ツミ」ノ古称。

つみ[罪]（名）❶人ニつみカクすべきこと。❷道徳又ハ規則ヲ破リタル所業。悪事。❸[法]犯罪。

つみ[積]（名）❶古昔、論語ノ「積土成山」ノ積土ノ如キ、一種ノ遊戯、種々ノ木切ヲ積ミ、ソレヲ一ツ一ツ形ヲ変ヘテ取ルモノ。❷積ミタル木、石ナドノ量。「ソノ材木ハ—ガ幾ラアルカ」

つみ-き[積木]（名）❶古昔、論語ノ「積土成山」ノ積土ノ如キ、一種ノ遊戯、種々ノ木切ヲ積ミ、ソレヲ一ツ一ツ形ヲ変ヘテ取ルモノ。❷積ミタル木、石ナドノ量。「ソノ材木ハ—ガ幾ラアルカ」

つみ-き・る[積切]（他ラ四）❶積ミタル木、石ナドヲ全ク積ム。❷ことごとくつむ。

つみ-きん[積金]（名）金銭ヲ積ミ貯ヘタル金銭。貯金。

つみ-くさ[摘草]（名）春ノ野ナドニテ、草花ナドヲ摘ッミ取ルコト。（雅語）

つみ-こみ[積込]（名）つみこむこと。「ゑ」

つみ-こ・む[積込]（他マ四）中ニ積ミ入レル。

†**つみ-あろ**[罪人]（名）つみのあるひと。

つみ-すてぶち[罪]（他ダ下二）❶罪ナリトシテ刑ニ行フ。つみなふ。これをせむ。❷罪ヲ免ヲシテ刑ニ行フ。つみなふ。

つみ-た[摘田]（名）別ニ苗代ヲ設ケテ、直ニ殻ヲ蒔ケル、其苗ノ育チテ尺余トナレル頃、多キニ過ギル穂ヲ摘ミ去リ、其余ヲ育ツル水深キ田。

つみ-だか[積高]（名）積ミタル物ノ量。「一百」

つみ-だ・す[積出]（他サ四）貨物ヲ船・車ナドニ積ミテ、遠ニ出ス。

つみ-た・つ[積立]（他タ下二）順次ニ積ミテ貯フ。次第ニ積ミテ多クス。

つみ-た・て[積立]（名）つみたつること。又、つみたてきん。——**きん**[積立金]（名）つみたてゝ、積ミ貯ヘタル金銭。貯金。

つみ-つくり[罪作]（名）道徳上許ス可カラザル所業。罪悪。

つみ-とが[罪咎]（名）つみとがと。罪悪。

つみ-な[摘菜]（名）「つみな」ニ同ジ。

†**つみ-ぶか**[罪深]（形シク）罪ノ重キサマ。

つみ-ぶか・し[罪深]（形シク）罪ノ重キサマ。

つみ-ぶかさ[罪深]（名）罪ノ重キコト。

つみ-ぶかし[罪深]（形シク）罪ノ重キサマ。

つみ-ぶかさ[罪深]（名）罪ノ重キコト。

つみ-ほろぼし[罪滅]（名）❶罪ヲ滅ボスコト。❷[仏]罪ヲ滅ボスコト。

つみ-ほろぼし-ごと[罪滅事]（名）罪ヲ滅ボスコト。

つみ-やな[積夜具]（名）❶つみかさねた夜具。❷音信ナドニテ、大臣ノ女房ニ通ヒ遊ビナドシタル男ノ、新シキ夜具ヲ調ヘ贈ルコト。

つみ-ん-ど[罪人]（名）「つみびと」ノ音便。

つむ[紡錘]（名）古昔、つむの図。綿ヲ紡ギ糸ヲ績ム時ノ附属具。木ヲ鍵ノ針ニシテ、これニ円キ石ヲ通シ、ソノ上ニ綿ヲ引キ出シテ糸ヲつむぎ巻キ取ル。（図）

つ・む（名）[動]「うまのあしのつむじ」ノ一。

つ・む[積]（他マ四）❶ふさぢてあるものゝ上ニかさぬ。❷重ネテ多クス。❸過ギ越シ（ノ）年ニ—」「船ニ—」　❹ふやす。「年ヲ—」　❺たくはふ。「金銭ヲ—」

つ・む[抓]（他マ四）つまむ。つねる。

つ・む[摘]（他マ四）❶指先又ハ爪先ニテ挟ミ持ツ。指先ニテ挟ミ取ル。❷眼鏡ヲ掛ケ、物ヲ拡ク。❸一種ノ遊戯ヲ為ス。（図）　❹{えらびとる}ヨリヌク。❺無造作ニ作ル。一気ニトリカタヅケル。❻一時ノ出来心ヨリ、目下ノ女ナドヲ盗ム。❼瓦燈ナドヲ人ヲ捕カフ。

つみ[積]（名）❶古昔、論語ノ「積土成山」ノ積土ノ如キ、一種ノ遊戯、種々ノ木切ヲ積ミ、ソレヲ一ツ一ツ形ヲ変ヘテ取ルモノ。❷積ミタル木、石ナドノ量。「ソノ材木ハ—ガ幾ラアルカ」

つみ-き[積木]（名）❶古昔、論語ノ「積土成山」ノ積土ノ如キ、一種ノ遊戯、種々ノ木切ヲ積ミ、ソレヲ一ツ一ツ形ヲ変ヘテ取ルモノ。❷積ミタル木、石ナドノ量。「ソノ材木ハ—ガ幾ラアルカ」

つみ-き・る[積切]（他ラ四）❶積ミタル木、石ナドヲ全ク積ム。❷ことごとくつむ。

つみ-きん[積金]（名）金銭ヲ積ミ貯ヘタル金銭。貯金。

つみ-くさ[摘草]（名）春ノ野ナドニテ、草花ナドヲ摘ッミ取ルコト。（雅語）

つみ-こみ[積込]（名）つみこむこと。「ゑ」

つみ-こ・む[積込]（他マ四）中ニ積ミ入レル。

†**つみ-あろ**[罪人]（名）つみのあるひと。

つみ-すてぶち[罪]（他ダ下二）❶罪ナリトシテ刑ニ行フ。つみなふ。これをせむ。❷罪ヲ免ヲシテ刑ニ行フ。つみなふ。

つみ-た[摘田]（名）別ニ苗代ヲ設ケテ、直ニ殻ヲ蒔ケル、其苗ノ育チテ尺余トナレル頃、多キニ過ギル穂ヲ摘ミ去リ、其余ヲ育ツル水深キ田。

つみ-だか[積高]（名）積ミタル物ノ量。「一百」

つみ-だ・す[積出]（他サ四）貨物ヲ船・車ナドニ積ミテ、遠ニ出ス。

つみ-た・つ[積立]（他タ下二）順次ニ積ミテ貯フ。次第ニ積ミテ多クス。

つみ-た・て[積立]（名）つみたつること。又、つみたてきん。——**きん**[積立金]（名）つみたてゝ、積ミ貯ヘタル金銭。貯金。

つみ-つくり[罪作]（名）道徳上許ス可カラザル所業。罪悪。

つみ-とが[罪咎]（名）つみとがと。罪悪。

つみ-な[摘菜]（名）「つみな」ニ同ジ。

†**つみ-ぶか**[罪深]（形シク）罪ノ重キサマ。

つみ-ぶか・し[罪深]（形シク）罪ノ重キサマ。

つみ-ぶかさ[罪深]（名）罪ノ重キコト。

つみ-ほろぼし[罪滅]（名）❶罪ヲ滅ボスコト。❷[仏]罪ヲ滅ボスコト。

つみ-ほろぼし-ごと[罪滅事]（名）罪ヲ滅ボスコト。

つみ-やな[積夜具]（名）❶つみかさねた夜具。❷音信ナドニテ、大臣ノ女房ニ通ヒ遊ビナドシタル男ノ、新シキ夜具ヲ調ヘ贈ルコト。

つみ-ん-ど[罪人]（名）「つみびと」ノ音便。

つむ[紡錘]（名）古昔、論語ノ「積土成山」ノ積土ノ如キ、一種ノ遊戯、種々ノ木切ヲ積ミ、ソレヲ一ツ一ツ形ヲ変ヘテ取ルモノ。

つ・む（名）[動]「うまのあしのつむじ」ノ一。

つ・む[積]（他マ四）❶ふさぢてあるものゝ上ニかさぬ。❷重ネテ多クス。❸過ギ越シ（ノ）年ニ—」「船ニ—」　❹ふやす。「年ヲ—」　❺たくはふ。「金銭ヲ—」

つ・む[抓]（他マ四）つまむ。つねる。

つ・む[摘]（他マ四）❶指先又ハ爪先ニテ挟ミ持ツ。指先ニテ挟ミ取ル。❷眼鏡ヲ掛ケ、物ヲ拡ク。❸一種ノ遊戯ヲ為ス。（図）　❹{えらびとる}ヨリヌク。❺無造作ニ作ル。一気ニトリカタヅケル。❻一時ノ出来心ヨリ、目下ノ女ナドヲ盗ム。❼瓦燈ナドヲ人ヲ捕カフ。

つむ[詰]（名）終ニテ、王将ガ包囲セラレテ動キ得ザルコト。

つむ-あ・く[積上]（他カ下二）❶積ミ重ネ置ク。❷積ミ重ネテ貯フ。

†**つむ-あ・ぐ**[摘上]（他カ下二）つまみあげて」ノ意ノナマリ。「ツマアゲ」ナド。

つむ-あげ[積上]（名）つみあぐること。

つむ-いし[積石]（名）❶つみかさねたる石。❷土木ニ、柱礎。

つむ-いれ[摘入]（名）一種ノ料理。捏ネタル蕎麦粉又ハ麺ヲ薄ク延ベタル魚肉ナドヲ、少シ大ク、適ニ切リ取リ、汁ニ入レテ煮タルモノ。「鍋ノ—」

はんぺん[摘入半片]（名）一種ノ料理。魚肉ヲ擂リ鉢ニテ擂リテ、団子ノ如クニまるめ、味噌汁ノ中ニ入レタルもの。

つむ-いれ[摘入]（名）一種ノ料理。捏ネタル蕎麦粉又ハ麺ヲ薄ク延ベタル魚肉ナドヲ、少シ大ク、適ニ切リ取リ、汁ニ入レテ煮タルモノ。「鍋ノ—」

はんぺん[摘入半片]（名）一種ノ料理。魚肉ヲ擂リ鉢ニテ擂リテ、団子ノ如クニまるめ、味噌汁ノ中ニ入レタルもの。

つむ-おくり[積送]（名）荷物ヲつみおくること。

つむ-おく・る[積送]（他ラ四）荷物ヲ積ミテ先方ヘおくりやる。

つむ-かさ・なる[積重]（自ラ四）積モリテ多クなる。

つむ-かさ・ぬ[積重]（他ナ下二）積ミテ重ナラシム。つみかさぬ。

つむ-かさね[積重]（名）つみかさねたるもの。又、つみかさねたるもの。

つむ-かた[積方]（名）つみかさぬる方法。

つむ-かへ・す[積返]（他サ四）更ニ改メテ積ム。つみなほす。

つむ-かへ[積替]（名）つみかふること。又、つみかへたるもの。

つむ-かた[積方]（名）つみかさぬる方法。

つむ-かへ・す[積返]（他サ四）更ニ改メテ積ム。つみなほす。

つむ-かへ[積替]（名）つみかふること。又、つみかへたるもの。

つむ-がき[積荷]（名）船・車ナドニ積ム荷。

つむ-がさ・なる[積重]（自ラ四）積モリテ多クなる。

つむ-がさ・ぬ[積重]（他ナ下二）積ミテ重ナラシム。つみかさぬ。

つむ-がさね[積重]（名）つみかさねたるもの。又、つみかさねたるもの。

つむ-がた[積方]（名）つみかさぬる方法。

つむ-がへ・す[積返]（他サ四）更ニ改メテ積ム。つみなほす。

つむ-がへ[積替]（名）つみかふること。又、つみかへたるもの。

つむ-がき[積荷]（名）船・車ナドニ積ム荷。

つむ-ぎ[紬]（名）蚕ノ繭ヲ紡ギテ製シタル絹ヲ用ヰテ織リタル綿布。

つむ-ぐ[紡]（他カ四）綿又ハ麻ヲつむにかケテ引キ出シテ糸トナス。

つむぐるま[紡車]（名）「こま」ノ古称。

つむじ[辻]（名）「つじ」ノ古称。

つむじ[旋毛]（名）渦ノ如ク巻キ旋リテ生ヒタル毛。つじ。（逆毛）。——**がぜ**[旋風]（名）「つむじかぜ」ノ略言。——**かぜ**[旋風]（名）「つむじかぜ」ニ同ジ。

†**つむ-つむ-と**[副]のどかニふるまふさまニいふ語。「風ヲ—引ク」

つむり[頭]（名）つぶり。かしら。「坊主ノ—」

つめ[爪]（名）❶指ノさきニ生ヅル堅キ角ノ如キもの。

いみ-ぶかい[形]　意味深い。

いみ-ぶん[名]　意味文。

いみ-ぼそ[名]　意味素。

いみ-もじ[名]　意味文字。

いみ-もち[名]　意味持ち。

いみ-もん[名]　意味文。

いみ-ゆえ[名]　意味故。

いみ-よう[名]　意味用。

いみ-りょう[名]　意味量。

いみ-るい[名]　意味類。

いみ-わく[名]　意味枠。

いみ-わけ[名]　意味分け。

いみ-わり[名]　意味割り。

いみん[名]　移民。

いみん-ぎょう[名]　移民業。

いみん-しゃ[名]　移民者。

いみん-ち[名]　移民地。

いみん-ほう[名]　移民法。

いむ[名]　医務。

いむ[名]　異夢。

いむ[名]　異霧。

いむ[名]　異無。

いむ[名]　異務

つるよ-ゆみ [弦弓] (名) 弦(ゲン)の張り強くして引きやすからざる弓。

つるよ-ろ [弱] (自ラ四) つよくなる。

†つるら [嘴] (名) 鳥の嘴。俗に口。

つるら [面] (名) ❶もと「かほ」(顔)。❷物の表面。「水の一」「山一に煙たつ家あり」

つるら [連列] (名) ❶つらなり。つらび。なみ。(行)。❷なかま。連中。

†つるら [寛] (名) 「つるに」に同じ。

†つるら [弦] (名) 「つるに」に同じ。

つるら-あかり [面燈火] (名) 古昔、芝居の楽屋にて、後面に役者の面を見物人によく見えるため、其人に対し且つ、燈火。つらび。

つるら-あて [面当] (名) 其人の面前に於て、其人に對する怒を他のものに寄してあらはすこと。又、怒(イカ)りと思ふ其人に對して、これ見よがしの態度をとること。

†つるら-かまち [輔] (名) かほ。(顔)。

つるら-がまえ [面構] (名) かほつき。つらつき。(面相、面相)。

†つるら-き [列樹] (名) ならび。

†つるら-ざし [面描] (名) 畑を前髪にさすこと。

つるら-しげし [形ク] ❶表ちうつれなし。とりつくしまなし。❷讎嫌なり。境(サカヒ)かたしくるし。

つるら-だましい [面魂] (名) 面色につねなみ。(面相)。

つるら-つき [面付] (名) かほつき。

†つるら-つくり [面作] (名) 顔のかたち。「おやまもレたる一レて」

つるら [熟] (副) 念入れて、ねんごろに。つくづく。

つるり [連] (名) 「つらなり」の略。

つるり [弦] (名) 「つるに」に同じ。

つるり-あかり [面燈火] (名) 古昔、芝居の楽屋にて、後面に役者の面を見物人によく見えるため、其人に対し且つ、燈火。つらび。

つるり-あて [面当] (名) 其人の面前に於て、其人に對する怒を他のものに寄してあらはすこと。又、怒(イカ)りと思ふ其人に對して、これ見よがしの態度をとること。

†つるり-かまち [輔] (名) かほ。(顔)。

つるり-がまえ [面構] (名) かほつき。(面相、面相)。

†つるり-き [列樹] (名) ならび。

†つるり-ざし [面描] (名) 畑を前髪にさすこと。

つるり-しげし [形ク] ❶表ちうつれなし。とりつくしまなし。❷讎嫌なり。境(サカヒ)かたしくるし。

つるり-だましい [面魂] (名) 面色につねなみ。(面相)。

つるり-つき [面付] (名) かほつき。

†つるり-つくり [面作] (名) 顔のかたち。「おやまもレたる一レて」

つるり [熟] (副) 念入れて、ねんごろに。つくづく。

つるり-ね [連] (名) 「つらなり」の略。

つるり-ぶち [面縁] (名) 「つらぶち」に同じ。

つるり-ぼね [頬骨] (名) 「つらぼね」に同じ。

†つるり-まくし [形シク] 「つらまくし」に同じ。

つるり-まくら [面枕] (名) 「つらまくら」に同じ。

つるり-みず [面水] (名) 「つらみず」に同じ。

つるり-むき [面向] (名) 「つらむき」に同じ。

つるり-よごし [面汚] (名) 「つらよごし」に同じ。

つるり [氷] (名) 「こほり」に同じ。

つるり-ばし [氷柱] (名) 「つらら」に同じ。

つるり-ばら [氷柱] (名) 「つらら」に同じ。

つるり-ばり [氷柱] (名) 「つらら」に同じ。

つるり-ぼね [頬骨] (名) 「つらぼね」に同じ。

†つるり-まくし [形シク] 「つらまくし」に同じ。

つるり-まくら [面枕] (名) 「つらまくら」に同じ。

つるり-みず [面水] (名) 「つらみず」に同じ。

つるり-むき [面向] (名) 「つらむき」に同じ。

つるり-よごし [面汚] (名) 「つらよごし」に同じ。

つるり [氷] (名) 「こほり」に同じ。

つるり-ばし [氷柱] (名) 「つらら」に同じ。

つるり-ばら [氷柱] (名) 「つらら」に同じ。

**つるり-ばり

つるべ―つるみ

つるべ-の-はし [鶴喙]（名）「つるはし」に同じ。

つるべ-はやし [釣瓶]（名）❶秋季、年尼が理髪に入りたる沙羅樹園の林の異称。其時期色園の毛の如く白くなりたるといふに出づ。❷[転]人の来訪にいふ語。

つるべ-の-ひざこぞう [鶴ノ膝]（名）其場に於て直ぐ目上の人又は役ある人の召出でたる者、又は役ある人の召出でたる者、又は役ある人の召出でたる者、又は役ある人の召出でたる者。

つるべ-の-まる [鶴丸]（名）紋所の名。鶴の姿を図案的に描きたる形を、理の如くに描(ゑが)けるもの。

つるべ-はぎ [鶴脛]（名）❶つるのごとく「一もものべからず」鳥のはぎもつべからず」❷甚短くして醜(みにく)きの形容。現はれたるを「加茂川を一にて渡るかな」。

つるべ-ばし [鶴喙]（名）土地を掘るに用ふる具、鍬にてつくり形鳥の喙の如し、これに柄をつけたるもの。

つるべ-はしこき [弦調]（名）ゆがけ。「の」

つるべ-はしり [弦走]（名）弓にかけたる弦の自然に切るゝこと。

つるべ-ばみ [隼]（名）❶[植]「こんぐり」の古称。❷つるばみの袂(たもと)を煮(に)たる汁にて染めたる染色、にびいろ。

つるべ [弦]（名）つるのこと。つるもと。（證考）

つるべ-ぶくろ [弦袋]（名）狩猟の弓弦を入れおく皮ぶくろ。

つるべ [釣瓶]（名）縄又は竹をつけて、井戸の水をつり上げて汲む桶。「両桶」汲瓶。——**おとし** [釣瓶落]（名）釣瓶をおとすが如く、急に落つること。「一の秋の日」——**ざお** [釣瓶竿]（名）釣瓶につけて水を汲む竿。——**なわ** [釣瓶縄]（名）釣瓶につけて水を汲む縄。つるべなわ。（慶應）

つるべ-うち [弦打]（名）物産(ぶんぱん)などを退治するに「ゆかけをかけ弓をもちて」。

つるべ-うり [弦売]（名）ゆがけをうる人。

つるべ-おと [弦音]（名）弓室(ゆみむろ)にてつがひたる矢をきって放したるときのつるのおと。

つるべ-おち [鶴柿]（名）[植]柿の一種、果頂は形長くして早く熟す。

つるべ-かけ [弦掛]（名）弦を弓室(ゆみむろ)にかくること。

つるべ-かめ [弦亀]（名）（つるとかめと共に吉祥なりとて）ながくいきてたきものとの意ふるに出づ。縁起をいはひていふ語。

つるぎ [剣]（名）（「つるぎ」の略音）「けん」に同じ。——**の-まい** [剣舞]（名）剣をもちて

つるぎ-ぐさ [剣草]（名）[植]ゆりはの異名。

つるぎ-だち [剣太刀]（名）剣と太刀。

つるぎ-の-たち [剣太刀]（名）「つるぎだち」に同じ。

つるぎ-の-まい [剣舞]（名）「つるぎのまい」に同じ。

つるぎ-の-みや [剣宮]（名）剣を神体として祭りたる社。

つるぎ-の-やま [剣山]（名）[地]理想的に剣の如く鋭くとがりたる山。——**ば** [剣羽根]（名）「つるぎば」に同じ。

つるぐさ [蔓草]（名）蔓の出づるたちの草。

つるくび [鶴頸]（名）❶[植]ゆりはの異名。❷[転]鶴の頸(くび)の如く細長きもの。❶[植]ゆりはの一種、果実は花穂なすの如く細長くして棒状をなす尺余の緑色あり。❷類の長き人。「同じ。」

つるげる [自下一]「つるける」に同じ。

つるし [吊]（名）つるすこと。——**おき** [吊柿]（名）えだがき、くしがき（自柿、指柿）。——**ぎり** [吊切]（名）❶つるし置きて切ること。❷もんかう瓜を、縄にてつるし、昼に水を注ぎたる後、皮・帯を去りて料理すること。——**だいこん** [吊大根]（名）つるしおきて乾したる大根。

つるす [吊]（他サ四）つりてたれ下ぐ。つり下ぐ。「つるもの。」

つるだち [蔓立]（名）草の蔓の茎になりて生ずること。

つるだつ [蔓立]（自タ四）つるを生ず。

つるつる [副]（名）すべるさまにいふ語。

つるつるで-あり（名）[植]「つるもどき」に同じ。

つるで-なし [蔓無]（名）[植]蔓なき草に属する草、郷村に自生す。花は雌雄異形にして黄緑色の毬あり、根は食用に供せらる。

つるに-がね [鉱鍋]（名）つるのとってのある鍋。

つるに-がゆ [蔓苦菜]（名）[植]「つるぢしゃ」の一名。（別刀説）

つるに-んじん [蔓人参]（名）[植]桔梗科に属する草、山中に生ず、茎は他物に纏繞す、花は小形白色にして秋の切開く。

つるね [連子]（名）「つれこ」に同じ。

つるね-つるね（名）❶つくづくと物を思ひつづくること。❷なすこともなくものさびしくあること。徒然、無聊。——**が-る**（自ラ四）つれづれがる。

つるねば [頑顔]（名）つれなさ。

つるねば-し [頑顔]（形シク）❶心強くしてものにおそれざるさまをなす。❷なさけ心なし。頑劣なり、無恥なり。——**づく-る**（頑顔作）（自ラ四）つれなきさまになす。

つるび-き [連弾]（名）琴・三味線などを、人の調(しら)べにつれあひて弾くこと。相共に弾くこと。（令義）

つるぶし [連節]（名）相共に謡ふこと。つれうたふこと。（令義）

つるべ-ぞこ [連子]（名）「つれこ」に同じ。

つるべ-つるべ（名）❶つくづくと物を思ひつづくること。❷なすこともなくものさびしくあること。徒然、無聊。——**が-る**（自ラ四）つれづれがる。

つるべ-ね [頑顔]（名）つれなさ。

つるべ-ねば-し [頑顔]（形シク）❶心強くしてものにおそれざるさまをなす。❷なさけ心なし。頑劣なり、無恥なり。——**づく-る**（頑顔作）（自ラ四）つれなきさまになす。

つるび-き [連弾]（名）琴・三味線などを、人の調(しら)べにつれあひて弾くこと。相共に弾くこと。（令義）

つるぶし [連節]（名）相共に謡ふこと。つれうたふこと。（令義）

つるべ-ぞこ [連子]（名）「つれこ」に同じ。

つるべ-つるべ（名）❶つくづくと物を思ひつづくること。❷なすこともなくものさびしくあること。徒然、無聊。——**が-る**（自ラ四）つれづれがる。

つるべ-ね [頑顔]（名）つれなさ。

つるべ-ねば-し [頑顔]（形シク）❶心強くしてものにおそれざるさまをなす。❷なさけ心なし。頑劣なり、無恥なり。——**づく-る**（頑顔作）（自ラ四）つれなきさまになす。

つるび-き [連弾]（名）琴・三味線などを、人の調(しら)べにつれあひて弾くこと。相共に弾くこと。（令義）

つるぶし [連節]（名）相共に謡ふこと。つれうたふこと。（令義）

つるべ-ぞこ [連子]（名）「つれこ」に同じ。

つるべ-つるべ（名）❶つくづくと物を思ひつづくること。❷なすこともなくものさびしくあること。徒然、無聊。——**が-る**（自ラ四）つれづれがる。

つるべ-ね [頑顔]（名）つれなさ。

つるべ-ねば-し [頑顔]（形シク）❶心強くしてものにおそれざるさまをなす。❷なさけ心なし。頑劣なり、無恥なり。——**づく-る**（頑顔作）（自ラ四）つれなきさまになす。

つるび-き [連弾]（名）琴・三味線などを、人の調(しら)べにつれあひて弾くこと。相共に弾くこと。（令義）

つるぶし [連節]（名）相共に謡ふこと。つれうたふこと。（令義）

つるべ-ぞこ [連子]（名）「つれこ」に同じ。

つるべ-つるべ（名）❶つくづくと物を思ひつづくること。❷なすこともなくものさびしくあること。徒然、無聊。——**が-る**（自ラ四）つれづれがる。

つるべ-ね [頑顔]（名）つれなさ。

つるべ-ねば-し [頑顔]（形シク）❶心強くしてものにおそれざるさまをなす。❷なさけ心なし。頑劣なり、無恥なり。——**づく-る**（頑顔作）（自ラ四）つれなきさまになす。

つるび-き [連弾]（名）琴・三味線などを、人の調(しら)べにつれあひて弾くこと。相共に弾くこと。（令義）

つるぶし [連節]（名）相共に謡ふこと。つれうたふこと。（令義）

つるべ-の-はし [鶴喙]（名）「つるはし」に同じ。

つるべ-はやし [釣瓶]（名）❶秋季、年尼が理髪に入りたる沙羅樹園の林の異称。其時期色園の毛の如く白くなりたるといふに出づ。❷[転]人の来訪にいふ語。

つるべ-の-ひざこぞう [鶴ノ膝]（名）其場に於て直ぐ目上の人又は役ある人の召出でたる者、又は役ある人の召出でたる者、又は役ある人の召出でたる者、又は役ある人の召出でたる者。

つるべ-の-まる [鶴丸]（名）紋所の名。鶴の姿を図案的に描きたる形を、理の如くに描(ゑが)けるもの。

つるべ-はぎ [鶴脛]（名）❶つるのごとく「一もものべからず」鳥のはぎもつべからず」❷甚短くして醜(みにく)きの形容。現はれたるを「加茂川を一にて渡るかな」。

つるべ-ばし [鶴喙]（名）土地を掘るに用ふる具、鍬にてつくり形鳥の喙の如し、これに柄をつけたるもの。

つるべ-はしこき [弦調]（名）ゆがけ。「の」

つるべ-はしり [弦走]（名）弓にかけたる弦の自然に切るゝこと。

つるべ-ばみ [隼]（名）❶[植]「こんぐり」の古称。❷つるばみの袂(たもと)を煮(に)たる汁にて染めたる染色、にびいろ。

つるべ [弦]（名）つるのこと。つるもと。（證考）

つるべ-ぶくろ [弦袋]（名）狩猟の弓弦を入れおく皮ぶくろ。

つるべ [釣瓶]（名）縄又は竹をつけて、井戸の水をつり上げて汲む桶。「両桶」汲瓶。——**おとし** [釣瓶落]（名）釣瓶をおとすが如く、急に落つること。「一の秋の日」——**ざお** [釣瓶竿]（名）釣瓶につけて水を汲む竿。——**なわ** [釣瓶縄]（名）釣瓶につけて水を汲む縄。つるべなわ。（慶應）

つるべ-うち [弦打]（名）物産(ぶんぱん)などを退治するに「ゆかけをかけ弓をもちて」。

つるべ-うり [弦売]（名）ゆがけをうる人。

つるべ-おと [弦音]（名）弓室(ゆみむろ)にてつがひたる矢をきって放したるときのつるのおと。

つるべ-おち [鶴柿]（名）[植]柿の一種、果頂は形長くして早く熟す。

つるべ-かけ [弦掛]（名）弦を弓室(ゆみむろ)にかくること。

つるべ-かめ [弦亀]（名）（つるとかめと共に吉祥なりとて）ながくいきてたきものとの意ふるに出づ。縁起をいはひていふ語。

つるぎ [剣]（名）（「つるぎ」の略音）「けん」に同じ。——**の-まい** [剣舞]（名）剣をもちて

つるぎ-ぐさ [剣草]（名）[植]ゆりはの異名。

つるぎ-だち [剣太刀]（名）剣と太刀。

つるぎ-の-たち [剣太刀]（名）「つるぎだち」に同じ。

つるぎ-の-まい [剣舞]（名）「つるぎのまい」に同じ。

つるぎ-の-みや [剣宮]（名）剣を神体として祭りたる社。

つるぎ-の-やま [剣山]（名）[地]理想的に剣の如く鋭くとがりたる山。——**ば** [剣羽根]（名）「つるぎば」に同じ。

つるぐさ [蔓草]（名）蔓の出づるたちの草。

つるくび [鶴頸]（名）❶[植]ゆりはの異名。❷[転]鶴の頸(くび)の如く細長きもの。❶[植]ゆりはの一種、果実は花穂なすの如く細長くして棒状をなす尺余の緑色あり。❷類の長き人。「同じ。」

つるげる [自下一]「つるける」に同じ。

つるし [吊]（名）つるすこと。——**おき** [吊柿]（名）えだがき、くしがき（自柿、指柿）。——**ぎり** [吊切]（名）❶つるし置きて切ること。❷もんかう瓜を、縄にてつるし、昼に水を注ぎたる後、皮・帯を去りて料理すること。——**だいこん** [吊大根]（名）つるしおきて乾したる大根。

つるす [吊]（他サ四）つりてたれ下ぐ。つり下ぐ。「つるもの。」

つるだち [蔓立]（名）草の蔓の茎になりて生ずること。

つるだつ [蔓立]（自タ四）つるを生ず。

つるつる [副]（名）すべるさまにいふ語。

つるで-あり（名）[植]「つるもどき」に同じ。

つるで-なし [蔓無]（名）[植]蔓なき草に属する草、郷村に自生す。花は雌雄異形にして黄緑色の毬あり、根は食用に供せらる。

つるに-がね [鉱鍋]（名）つるのとってのある鍋。

つるに-がゆ [蔓苦菜]（名）[植]「つるぢしゃ」の一名。（別刀説）

つるに-んじん [蔓人参]（名）[植]桔梗科に属する草、山中に生ず、茎は他物に纏繞す、花は小形白色にして秋の切開く。

つるね [連子]（名）「つれこ」に同じ。

つるね-つるね（名）❶つくづくと物を思ひつづくること。❷なすこともなくものさびしくあること。徒然、無聊。——**が-る**（自ラ四）つれづれがる。

つるべ-ね [頑顔]（名）つれなさ。

つるべ-ねば-し [頑顔]（形シク）❶心強くしてものにおそれざるさまをなす。❷なさけ心なし。頑劣なり、無恥なり。——**づく-る**（頑顔作）（自ラ四）つれなきさまになす。

つるび-き [連弾]（名）琴・三味線などを、人の調(しら)べにつれあひて弾くこと。相共に弾くこと。（令義）

つるぶし [連節]（名）相共に謡ふこと。つれうたふこと。（令義）

つるべ-ぞこ [連子]（名）「つれこ」に同じ。

つるべ-つるべ（名）❶つくづくと物を思ひつづくること。❷なすこともなくものさびしくあること。徒然、無聊。——**が-る**（自ラ四）つれづれがる。

つるべ-ね [頑顔]（名）つれなさ。

つるべ-ねば-し [頑顔]（形シク）❶心強くしてものにおそれざるさまをなす。❷なさけ心なし。頑劣なり、無恥なり。——**づく-る**（頑顔作）（自ラ四）つれなきさまになす。

つるび-き [連弾]（名）琴・三味線などを、人の調(しら)べにつれあひて弾くこと。相共に弾くこと。（令義）

つるぶし [連節]（名）相共に謡ふこと。つれうたふこと。（令義）

ひきう [引受] (名) 引き受けること。「—手形」

ひきうけにん [引受人] (名) 引き受ける人。

ひきうす [挽臼] (名) 穀物などをひいて粉にする臼。

ひきうつし [引写し] (名) 写すこと。

ひきうつす [引写す] (他五) 写す。

ひきうり [引売り] (名) 行商。

ひきえ [引換え] (名) 交換すること。「—券」

ひきおこす [引起す] (他五) 引いて起こす。

ひきおこす [引起す] (他五) 病気などを発生させる。

ひきおこす [引起す] (他五) 事件などを発生させる。

ひきおこす [引起す] (他五) 倒れたものを起こす。

ひきおこす [引起す] (他五) 横になっているものを起こす。

ひきおこす [引起す] (他五) 寝ているものを起こす。

ひきおこす [引起す] (他五) 座っているものを起こす。

ひきおこす [引起す] (他五) 立っているものを起こす。

ひきおこす [引起す] (他五) 倒れている

てーあらい [手洗] (名) ❶手をあらふ。❷湯水の器。❸てうづばち。——**ばち** [手洗鉢] (名) てうづばち。——**みづ** [手洗水] (名) 手をあらふための水。「ひゃくど」(圏)

てーあらひ・ふだ [ハヲフダ] [手洗] (白は四) 手をあらふ。

ていー [帝] (名) ❶天地萬物の主宰者。かみ。ざうぶつ。

ていー [體] (名) 「たいに同じ。

ていー [政] (名) ❶やまと朝廷。❷地方の諸侯又は官吏のために、官より京地に設けたるやどや。

ていー [恊] (名) ❶よく兄に事(つか)へて孝順なること。又、よく年長者に事へて孝順なること。❷兄弟又は長幼の間の相親厚なること。

ていー [貞] (名) ❶婦人定まりて操はざること。節(上)に同じ。❷婦人の節操正しきこと。

ていー [禘] (名) 支那にて、帝王の祖先の大祭。

ていー [氏] (名) 士人相の一つ。とも。

ていー [庭] (名) ❶朝廷。❷法廷。❸やくそ。よ。

ていー [程] (名) ❶はど。程度。❷のり。法式。❸ものの、道程。❹たび。道中。

ていー [延] (名) こぶねはやふね。はしけ。「ボート」に同じ。

ていー [底] (名) そこ。ふだ。

ていー [学] (名) ❶あつまやチン。❷料理屋。又、茶屋。❸政事の談會。

ていー [丁] (名) ❶十干の一。ひのと。「一友」。❷壯年の男。一人前の男。一人前のもの。❸兵役にあたれるもの。

でいー [泥] (名) ❶どろ。ひぢり。❷醫水に溶解して、ねばりあるもの。

でいー [泥] (名) ❶どろ。ひぢり。❷醫水に溶解して、ねばりあるもの。

ていーあらひ [手洗] (名) ❶手をあらふ水などをもりて手をあらふ器。❷てをあらふための湯又は水。——**ばち** [手洗鉢] (名) てうづばち。——**みづ** [手洗水] (名) 手をあらふための水。「ひゃくど」(圏)

ていーあらひ・ふだ [ハヲフダ] [手洗] (白は四) 手をあらふ。

ていー [帝] (名) ❶天地萬物の主宰者。かみ。ざうぶつ。

ていー [體] (名) 「たいに同じ。

ていー [政] (名) ❶やまと朝廷。❷地方の諸侯又は官吏のために、官より京地に設けたるやどや。

ていー [恊] (名) ❶よく兄に事(つか)へて孝順なること。又、よく年長者に事へて孝順なること。❷兄弟又は長幼の間の相親厚なること。

ていー [貞] (名) ❶婦人定まりて操はざること。節(上)に同じ。❷婦人の節操正しきこと。

ていー [禘] (名) 支那にて、帝王の祖先の大祭。

ていー [氏] (名) 士人相の一つ。とも。

ていー [庭] (名) ❶朝廷。❷法廷。❸やくそ。よ。

ていー [程] (名) ❶はど。程度。❷のり。法式。❸ものの、道程。❹たび。道中。

ていー [延] (名) こぶねはやふね。はしけ。「ボート」に同じ。

ていー [底] (名) そこ。ふだ。

ていー [学] (名) ❶あつまやチン。❷料理屋。又、茶屋。❸政事の談會。

ていー [丁] (名) ❶十干の一。ひのと。「一友」。❷壯年の男。一人前のもの。一人前のもの。❸兵役にあたれるもの。

でいー [泥] (名) ❶どろ。ひぢり。❷醫水に溶解して、ねばりあるもの。

ていーおん [低音] (名) ひくきこゑ。「ね」

ていーかー [定額] (名) 定まりたる額。

ていーかー [低下] (名) ひくもること。さがること。

ていーかー [逓加] (名) 等を追ひて次第に加へまさること。

ていーかー [定着] (名) 【植】頂芽又は腋芽等の如く一定の場所に生ずること。

ていーかー [締交] (名) まじはりをむすぶこと。「ていかう」

ていーかー [訂校] (名) 文章中のあやまりをただすこと。

ていーかー [逓更] (名) たがひにかはりおこること。

ていーかー [丁香] (名) 【植】丁子。「ちやう」

ていーかー [抵抗] (名) ❶はりかひ。❷【理】甲の物體が乙の物體にふれてもかひ。

ていーかー [低圧] (名) 低度の圧力。——**ぶ** [低圧部] (名) 【電】低氣壓の部分。

ていーあん [定安] (名) さだまりもちつくること。又、さだまりやすんずること。

ていーあん [定案] (名) 定まれる案。

ていーあん [提案] (名) さし出だす案。

ていーいう [朔友] (名) 兄弟又は長幼の間の相親厚なること。

ていーいう [丁憂] (名) 親の喪中にあること。

ていーいん [帝胤] (名) 帝室のちすぢ。

ていーいん [低音] (名) 「ていおんに同じ。

ていーえつ [提契] (名) 要領をかいつまむこと。

ていーえき [定役] (名) 一定の未殺又は苦役。

ていーおん [低音] (名) ひくきこゑ。「ね」

ていーか [定価] (名) 定まりたる直段。きまりの

ていーか [低価] (名) やすき直段。廉價。

ていーか [低下] (名) ひくもること。さがること。

ていーか [逓加] (名) 等を追ひて次第に加へまさること。「てい」

ていーか [定着] (名) 【植】頂芽又は腋芽等の如く一定の場所に生ずること。

ていーかう [締交] (名) まじはりをむすぶこと。「ていかう」

ていーかう [訂校] (名) 文章中のあやまりをただすこと。

ていーかう [逓更] (名) たがひにかはりおこること。

ていーかう [丁香] (名) 【植】丁子。「ちやう」

ていーかう [抵抗] (名) ❶はりかひ。❷【理】甲の物體が乙の物

たる金銀の粉末「金一」——**のごとし** [如泥] いたく酔ひて正體なきさまにいふ。

ていーあつ [低壓] (名) 低度の壓力。——**ぶ** [低壓部] (名) 【電】低氣壓の部分。

ていーあん [定安] (名) さだまりもちつくること。又、さだまりやすんずること。

ていーあん [定案] (名) 定まれる案。

ていーあん [提案] (名) さし出だす案。

ていーいう [朔友] (名) 兄弟又は長幼の間の相親厚なること。

ていーいう [丁憂] (名) 親の喪中にあること。

ていーいん [帝胤] (名) 帝室のちすぢ。

ていーいん [低音] (名) 「ていおんに同じ。

ていーえき [提契] (名) 要領をかいつまむこと。

ていーえき [定役] (名) 一定の未殺又は苦役。

ていーおん [低音] (名) ひくきこゑ。「ね」

ていーか [定価] (名) 定まりたる直段。きまりの

ていーか [低価] (名) やすき直段。廉價。

ていーか [低下] (名) ひくもること。さがること。

ていーか [逓加] (名) 等を追ひて次第に加へまさること。「てい」

ていーか [定着] (名) 【植】頂芽又は腋芽等の如く一定の場所に生ずること。

ていーかう [締交] (名) まじはりをむすぶこと。「ていかう」

ていーかう [訂校] (名) 文章中のあやまりをただすこと。

ていーかう [逓更] (名) たがひにかはりおこること。

ていーかう [丁香] (名) 【植】丁子。「ちやう」

ていーかう [抵抗] (名) ❶はりかひ。❷【理】甲の物體が乙の物體に作用さば、乙はこれに等しき作用を甲に及ぼすこと。❸【理】物體が配當の運動を担(にな)ふ性質の總稱。

ていーかう [抵抗箱] (名) 【理】抵抗の異なる針金を纏(まと)きたるもの數多を作りて抵抗の標準とし、これを箱に入れたるもの。抵抗を測(はか)るに用ふ。

ていーがく [停学] (名) 學校より其學生の登校を停止すること。

ていーがく [定額] (名) 定まりたるたか。——**ぜい** [定額税] (名) 【法】會計法にて、歳入歳出の定額を翌年度に繰越すこと。——**もどし** [定額戻入] (名) 【法】繰越などの返納金を歳出の定額に戻し入るゝこと。

ていーき [定期] (名) ❶定まりたる期限。❷定期預金又は定期引落しくは定期米等の略言。

ていーき [定規] (名) 一定の規則。

ていーき [提起] (名) ❶あげおこすこと。もちだすこと。❷もちだすこと。さしだすこと。「訴訟を—す」。

ていーき [定議] (名) 一事物に關する意念の範圍を説明すること。

ていーき [定識] (名) 朝廷の許諾。

ていーき [程儀] (名) はなむけ。「しなる言語。

ていーき [提議] (名) 言語を提出すること。又、提出したる言語。

ていーきあつ [低氣壓] (名) ❶【理】温度の増加又は水蒸氣の多量なる等のために、大氣の壓力の低くなること。大氣は高氣壓より低氣壓に向つて流動して風を生ず。❷轉じて、社會のさまざまの變化をいふ。

ていきあつかぜ [低氣風] (名) 【理】低氣壓の起こるときの烈風にいふ語。

ていきうけ [定期預] (名) 定期預金をあづかり主の方より見ての稱。

ていきうけ [定期預] (名) 定期預金をあづけ

ていけつ [締結] (名) ❶むすぶこと。❷約束をとりきめること。

ていけつ [提訣] (名) ひきあげおくること。

ていけん [定見] (名) 一定の意見。

ていけん [低減] (名) ❶へること。又、へらすこと。❷価のやすくなること。又、価を安くすること。

ていけん [定款] (名) 私團法人の組織及其業務執行の方法の規定。

ていけん [天氣] (名) てんきのようす。てんきの模様。「一のことについていのる」

ていけん [手活] (名) ❶うから手を下して花などを花瓶に挿入すること。❷轉じて、技芸などを習得して、わが藝となすこと。

ていけい [提携] (名) ❶さげたずさえること。❷共同して事をなすこと。

ていけい [定型] (名) 一定のかた。

ていけい [定形] (名) 一定のかたち。

ていけい [梯形] (名) 【數】一雙の相對する邊が互に平行なる四邊形。

ていけい [帝京] (名) ていきょうに同じ。

ていけい [帝系] (名) 皇帝の血統。

ていけい [汽艦] (名) 【定繫港】 (名) 其船舶をつなぎおく一定の場所と定められた港(こう)。

ていけい [定繫場] (名) 其船舶をつなぎおく一定の場所。

ていけつ [定決] (名) きだめきわめること。又、きだまりきわまること。「りそうをまもること。」

ていけつ [締結] (名) ❶むすぶこと。❷約束をとりむすぶこと。❸互にたすけあうこと。

ていけつ [提訣] (名) ❶ひきさげおくること。❷かえりみること。

ていけつ [提訣] (名) ❶ひきさげおくること。❷かえりみること。

ていけん [諦觀] (名) 「ちゃうさつ」に同じ。

ていけん [帝倦] (名) ❶てんわうきょに(御居)に同じ。❷上帝のすまひ。「と。」

ていけい [提供] (名) さし出すこと。もち出すこと。

ていけい [胸脇] (名) 「きょうきょう」に同じ。

ていけい [定期預金] (名) 銀行が期限を定めてあづかる預金。普通は三個月又は六個月若しくは一年等を期限と定め、其中途には拂(はら)戻(もど)に引出すことを得ざるものとす。利子の割合は普通預金よりも高し。「こ。」

ていけん [庭訓] (名) 家庭の教訓。「にのをしえ」

ていけん [提琴] (名) 樂器に用ふる胡弓。

ていけん [低吟] (名) こえひくくうたふこと。

ていけい [停會] (名) ❶會議を一時休止すること。❷帝國議會の議事を一時休止すること。又、衆議院解散の場合に、貴族院の議事を閉止すること。

ていけい [低徊] (名) たちもとほること。

ていけい-がん [泥灰岩] (名) 【鑛】粘土と石灰との合成して成りたる岩。

ていけい-ど [泥灰土] (名) 【鑛】粘土に多量の石灰質が入りて燒結に適する土壤。

ていけい [非謙] (名) ❶わるしのあるかなくこと。わるしのなきかなくこと。❷古昔、支那にて極刑の一つ。罪囚を素裸にして、柱にくくりつけ、鞭にて極刑にいふ語。「一を加ふ」も轉じて、

ていこ [締固] (名) ❶ひきしめかためること。

ていこ [帝居] (名) ❶てんわうきょに(御居)に同じ。❷上帝のすまひ。「と。」

ていこ [低語] (名) こえひくくかたること。ささやき。

ていこ [抵牾] (名) 相たがふこと。相容(い)れざること。

ていこ [亭午] (名) 正午。まひる。(午)「と。」

ていこう [帝京] (名) 皇帝の宮居のある所。帝都。

ていこう [定期刊行物] (名) 一定の時期に刊行する文書・圖畫など。

ていこう-ぶつ [定期刊行] (名) 一定の時期に刊行する文書・圖畫。

ていこう-かんこう [定期刊行] (名) 文書・圖畫など一定の時期に刊行すること。

ていこう-かんこうぶつ [定期刊行物] (名) 一定の時期に刊行する文書・圖畫。

ていこう-きょく [帝國大學] (名) 國家の需要に應じ文武百官の養成と學術の蘊奥を攻究するを目的となす我國の最高の學校。大學院及分科大學を置く。

ていこく [帝國] (名) ❶皇帝の統治する元首の君臨せる國。❷天皇陛下のおしめす我日本國。

ていこく-がくしいん [帝國學士院] (名) 文部大臣の管理に屬し、學術の奬勵を圖る爲、會員は六十名を以て定員となし、勅旨によりて命ぜらる。

ていこく-ぎかい [帝國議會] (名) 【法】天皇の立法行爲に參與し之を協賛する憲法上の合議機關。貴族院と衆議院とより成る。

ていこく-しゅぎ [帝國主義] (名) 國家の許す限りの國力は其國の領土を擴張し、苦しくも必要に應ずる軍備を擴張し、以て國家の威嚴を發揚し、進んで世界の經營に從事し、或は他國を壓迫して其國の領土を自己のものとなさんとする主義。

ていこく-だいがく [帝國大學] (名) 國家の需要に應じ文武百官の養成と學術の蘊奥を攻究するを目的となす我國の最高の學校。大學院及分科大學を置く。

ていこく-ぶんかいん [帝國美術院] (名) 美術の發達を圖る爲、會員は六十名を以て定員となし、勅旨によりて命ぜらる

ていせつ—ていとう

ていせつ【定説】(名) 一定の説明。「―を守る」

ていせつ【定節】(名) 一定の節。

ていせつ【定席】(名) ❶決まった席。❷寄席・劇場などで、一年中興行すること。

ていせつ【定説】(名) 一定の説。「―を守る」

ていせつ【定節】(名) 一定の節。

ていせつ【定着】(名) ❶一定の場所に落ち着くこと。「―地」❷写真で、現像した画像を薬品で処理して安定させること。❸(化)気体・液体・固体の物質が、他の物質の表面に吸着されること。❹(心)ある刺激に対して一定の反応が繰り返されること。

ていちゃく【停着】(名) 停車すること。

ていちゃく【定着】(名) ❶一定の場所に落ち着くこと。「―地」❷写真で、現像した画像を薬品で処理して安定させること。❸(化)気体・液体・固体の物質が、他の物質の表面に吸着されること。❹(心)ある刺激に対して一定の反応が繰り返されること。

ていちゃくえき【定着液】(名) 写真で、現像した画像を安定させるための薬品。

ていちゃくえき【定着液】(名) 写真で、現像した画像を安定させるための薬品。

ていちゃくざい【定着剤】(名) 写真で、現像した画像を安定させるための薬品。

ていちゃくざい【定着剤】(名) 写真で、現像した画像を安定させるための薬品。

ていちゃくしゃ【定着者】(名) ❶一定の場所に落ち着いて住んでいる人。❷(心)ある刺激に対して一定の反応が繰り返されること。

ていちゃくしゃ【定着者】(名) ❶一定の場所に落ち着いて住んでいる人。❷(心)ある刺激に対して一定の反応が繰り返されること。

ていちゃくせい【定着性】(名) ❶一定の場所に落ち着いて住んでいる性質。❷(心)ある刺激に対して一定の反応が繰り返されること。

ていちゃくせい【定着性】(名) ❶一定の場所に落ち着いて住んでいる性質。❷(心)ある刺激に対して一定の反応が繰り返されること。

ていちゃくち【定着地】(名) 一定の場所に落ち着いて住んでいる土地。

ていちゃくち【定着地】(名) 一定の場所に落ち着いて住んでいる土地。

ていちゃくど【定着度】(名) ❶一定の場所に落ち着いて住んでいる程度。❷(心)ある刺激に対して一定の反応が繰り返されること。

ていちゃくど【定着度】(名) ❶一定の場所に落ち着いて住んでいる程度。❷(心)ある刺激に対して一定の反応が繰り返されること。

ていちゃくぶつ【定着物】(名) 一定の場所に落ち着いて住んでいる物。

ていちゃくぶつ【定着物】(名) 一定の場所に落ち着いて住んでいる物。

ていちゃくりょう【定着量】(名) ❶一定の場所に落ち着いて住んでいる量。❷(心)ある刺激に対して一定の反応が繰り返されること。

ていちゃくりょう【定着量】(名) ❶一定の場所に落ち着いて住んでいる量。❷(心)ある刺激に対して一定の反応が繰り返されること。

ていちゅう【定宙】(名) 一定の宙。

ていちゅう【定宙】(名) 一定の宙。

ていちょう【定長】(名) 一定の長さ。

ていちょう【定長】(名) 一定の長さ。

ていちょう【定調】(名) 一定の調子。

ていちょう【定調】(名) 一定の調子。

ていちょう【定潮】(名) 一定の潮。

ていちょう【定潮】(名) 一定の潮。

ていちょう【定鳥】(名) 一定の鳥。

ていちょう【定鳥】(名) 一定の鳥。

ていちょう【定腸】(名) 一定の腸。

ていちょう【定腸】(名) 一定の腸

ていおう—ていかん

ていおう【帝王】(名) 国を統治する最高の地位にある人。皇帝。

ていおうがく【帝王学】(名) 帝王が国家を統治していく際の心得や方法などについての学問。

ていおうせっかい【帝王切開】(名) 妊婦の腹壁と子宮壁を切開して胎児を取り出す手術。

ていおく【邸宅】(名) 大きな構えの家。

ていおん【低温】(名) ❶低い温度。❷体温が平熱より低いこと。

ていおんどうぶつ【低温動物】(名) 体温が外界の温度の変化に応じて変わる動物。

ていか【低下】(名) ❶程度が下がること。❷(「体力の低下」などの形で)体の機能が弱まること。

ていか【定価】(名) ❶決まった値段。❷(「定価がある」の形で)価値が一定していること。

ていか【定家】(名) 藤原定家。

ていか【帝家】(名) 帝王の家。帝室。王室。

ていか【帝都】(名) 帝国の首都。

ていか【提起】(名) ❶問題などを取り上げること。❷訴訟を起こすこと。

ていか【提督】(名) 艦隊の司令官。

ていか【提琴】(名) バイオリン。

ていか【堤下】(名) 堤防の下。

ていか【艇下】(名) 艇庫の下。

ていか【艇架】(名) ボートを陸上に置くための台。

ていか【艇庫】(名) ボートを収容しておく建物。

ていかい【低回】(名) ❶低い所を行ったり来たりすること。❷(「低回趣味」の形で)現実から離れて空想にふけること。

ていかい【定会】(名) 定期的に開く会合。

ていかい【定回】(名) 決まった回数。

ていかい【提会】(名) 提案して会議を開くこと。

ていかい【提灰】(名) 石灰を入れた堤防。

ていかい【提灰】(名) 石灰を入れた堤防。

ていかい【提携】(名) 協力して物事をすること。

ていかい【提撕】(名) 目上の人が目下の人を教え導くこと。

ていかい【提撕】(名) 目上の人が目下の人を教え導くこと。

ていかい【提醒】(名) 目上の人が目下の人を教え導くこと。

ていかい【提醒】(名) 目上の人が目下の人を教え導くこと。

ていかい【提撕

ヤクソク　約束　[名]　将来のある事柄について、当事者の間で取り決めること。また、その取り決めた事柄。「―を守る」「―を破る」「―を交わす」「―を果たす」「―を反故にする」「―を取り付ける」「―を取り消す」「―を履行する」「―を違える」「―を無効にする」「―を解除する」「―を更新する」「―を延長する」「―を短縮する」「―を撤回する」「―を変更する」「―を保留する」「―を留保する」「―を放棄する」「―を譲渡する」「―を担保する」「―を保証する」「―を仲介する」「―を斡旋する」「―を媒介する」「―を代行する」「―を委託する」「―を請け負う」「―を発注する」「―を受注する」「―を契約する」「―を締結する」「―を破棄する」「―を解約する」「―を更改する」「―を延期する」「―を猶予する」「―を免除する」「―を減額する」「―を増額する」「―を値引きする」「―を割引する」「―を割増する」「―を手付金で払う」「―を内金で払う」「―を前金で払う」「―を後金で払う」「―を分割で払う」「―を一括で払う」「―を現金で払う」「―を小切手で払う」「―を手形で払う」「―を為替で払う」「―を振込で払う」「―を口座引落で払う」「―を代金引換で払う」「―を着払いで送る」「―を元払いで送る」「―を運賃込みで送る」「―を運賃別で送る」「―を配達証明で送る」「―を書留で送る」「―を速達で送る」「―を普通郵便で送る」「―を航空便で送る」「―を船便で送る」「―を陸送で送る」「―を鉄道便で送る」「―を宅配便で送る」「―を引越荷物で送る」「―を引越荷物で運ぶ」「―を引越荷物で輸送する」「―を引越荷物で配送する」「―を引越荷物で搬送する」「―を引越荷物で運搬する」「―を引越荷物で移送する」「―を引越荷物で転送する」「―を引越荷物で回送する」「―を引越荷物で発送する」「―を引越荷物で着荷する」「―を引越荷物で受取する」「―を引越荷物で受領する」「―を引越荷物で検収する」「―を引越荷物で検品する」「―を引越荷物で開梱する」「―を引越荷物で梱包する」「―を引越荷物で荷造りする」「―を引越荷物で荷解きする」「―を引越荷物で荷ほどきする」「―を引越荷物で荷作りする」「―を引越荷物で荷下ろしする」「―を引越荷物で荷積みする」「―を引越荷物で荷揚げする」「―を引越荷物で荷降ろしする」「―を引越荷物で荷入れする」「―を引越荷物で荷出しする」「―を引越荷物で荷受けする」「―を引越荷物で荷渡しする」「―を引越荷物で荷扱いする」「―を引越荷物で荷役する」「―を引越荷物で荷捌きする」「―を引越荷物で荷造りする」「―を引越荷物で荷解きする」「―を引越荷物で荷ほどきする」「―を引越荷物で荷作りする」「―を引越荷物で荷下ろしする」「―を引越荷物で荷積みする」「―を引越荷物で荷揚げする」「―を引越荷物で荷降ろしする」「―を引越荷物で荷入れする」「―を引越荷物で荷出しする」「―を引越荷物で荷受けする」「―を引越荷物で荷渡しする」「―を引越荷物で荷扱いする」「―を引越荷物で荷役する」「―を引越荷物で荷捌きする」

ヤクソクテガタ　約束手形　[名]　振出人が受取人に対して一定の金額を一定の期日に支払うことを約束した有価証券。

ヤクソクヒン　約束品　[名]　売買契約において、売主が買主に引き渡すことを約束した商品。

ヤクソクボウエキ　約束貿易　[名]　輸出入業者が、あらかじめ輸出先または輸入先と契約を結んで行う貿易。

ヤクソクリョク　約束力　[名]　約束を守らせる力。

ヤクソクレイ　約束令　[名]　約束を守らせるための命令。

ヤクソクレイジョウ　約束令状　[名]　約束を守らせるための令状。

ヤクソクレイショ　約束令書　[名]　約束を守らせるための令書

ていおう【帝王】(名) 国家の統治権を総攬する君主。皇帝。「―学」

ていおうせっかい【帝王切開】(名) 妊婦の腹壁と子宮壁とを切開して胎児を取り出す手術。

ていおうしき【帝王式】(名) 帝王のような威厳のある様子。「―に構える」

ていおうだい【帝王台】(名) 帝王のように威厳のある様子。

てがき【手書き】(名) 手で書くこと。また、書いたもの。

てがき【手垣】(名) 手すりのある垣。

てがき【手柄】(名) ❶ 自分の力で成し遂げた立派な行為。功績。「—を立てる」 ❷ 自分の力で成し遂げた行為を誇っていう語。「—顔」

てがき【手蹟】(名) 筆跡。

てがき【手懸】(名) 手がかり。

てがき【手籠】(名) 手さげのかご。

てがき【手書】(名) 手紙。

てがき【手掻】(名) 手で掻くこと。

てがき【手蠣】(名) 手で掻くこと。

てがき【手鍵】(名) 手で掻くこと。

てがき【手鍵】(名) 手で掻くこと。

てがき【手鍵

てきそ-ぐん [敵中] (名) 敵のなか。
てきそ-ちゅう [敵中] (名) まさにあたること。
てきそ-ちゅう [的中] (名) まさにあたること。
てきそ-ちゅう [適中] (名) 正しくあたること。
てきそ-ちゅうもう [適虫] (名) 【動】水中に生じ、繊毛により、または、しばしば遊泳する原生動物。つりがねむしの類これなり。
てきぜ-ぎょ [漸除] (名) ❶あらひのぞくこと。❷【法】抵当となれる不動産の所有権又は地上権等を得たる第三者が、規定に従ひ、其価格の全額を抵当権者に提供して、抵当権を消滅せしむること。
てきぜ-ちょくご [適説] (名) ❶【理】「つうこと」に同じ。❷たゞちにさとること。❸あしぶかきこと。
てきぜ-ちょくご [千言] (名) たゞちにさとること。
てきぜ-ぞん [敵陣] (名) 敵の陣営。
てきぜ-でん [適傳] (名) 「ちゃくでん」に同じ。
てきぜ-ど [適度] (名) 程度にかなふこと。又、適當の程度。
てきぜ-にん [適任] (名) 任務に適當なること。又、其。
てきぜ-ばら [手枠] (名) 中央を手にとりて燒(つ)くすもの。
てきぜ-はば [手際] (名) ❶てぎはがよいこと。❷うまくわざ。手腕。
できぜ-はば [出際] (名) 出てたつときは。「てしなに」
てきぜ-はい [敵背] (名) 敵軍の背面。「かひ。」
てきぜ-はうへき [敵壁] (名) 敵軍のとりで。
できぜ-ばえ [出来映] (名) ❶出来あがりてはえあること。❷出来あがりたる品。出来たるさま。
てきぜ-はぎ (名) 【副】すばやくなすさま又はかひ〳〵しくなすさまにいふ語。
できぜ-はじめ [出来初] (名) 出来たるはじめ。

てきそ-ぐん [敵軍] (名) 敵兵のこと。「ぐん」
てきそ-さいけつ [敵裁決] (名) かってつまんでかきのごとく。
てきそ-さいけつ [摘裁決] (名) つまむこと。つまみとること。
てきそ-さつ [的殺] (名) 陰陽家にて、其年の歳しその方角の神を「てきさつ」。
できそ-さる [出来猿] (名) 出来あがりのさる。
てきそ-し [摘子] (名) 「ちゃくし」に同じ。
てきそ-し [敵矢] (名) かぶらや。「し」
てきそ-し [敵視] (名) 敵となみすこと。敵とみなすこと。
てきそ-し [摘視] (名) 本草綱目に出生したるようす。
できそ-し [溺死] (名) 水におぼれて死ぬること。(水「死」)
てきそ-しょう [敵情] (名) あだながたき。
てきそ-しょう [摘要] (名) 本草綱目、正要。
てきそ-しょう [的實] (名) たゞしきこと。たしかなること。
てきそ-しょう [敵將] (名) 敵の大將。「しょう」
てきそ-しょう [敵情] (名) 敵のやうす。
てきそ-じょう [敵城] (名) 敵のしろ。
てきそ-じょう [適淨] (名) あらひきよむること。
てきそ-しゅ [敵手] (名) 相手。好一「しゅ」
てきそ-じゅう [適從] (名) よりしたがふこと。あるひはしたがふこと。「出すこと。」
てきそ-だし [摘出] (名) つまみ出すこと。おはぎ。
てきそ-だし [摘出] (名) 「ちゃくそつ」に同じ。
——-だし [摘出子] (名) 「ちゃくそつこ」に同じ。
てきそ-だんしょう [的證] (名) たしかなる證據。(論)
てきそ-だんじん [敵人] (名) あだたる人。「じん」
てきそ-すいだ [敵] (自「さ變」) 對抗す。抵抗す。はりあふこと。
てきそ-すいだ [適] (自「さ變」) ❶かなふこと。❷あたること。てきすること。
てきそ-すいだ [手削] (名) たゞかひにて受けたる創。

できそ-ち [敵地] (名) 敵の出ざる土地。又、敵のうつ陣九。「占領地」
できそ-だん [敵彈] (名) 敵のうつ彈丸。
てきそ-ちょう [敵潮] (名) 敵のうつ潮。
てきそ-ちょう [敵潮] (名) 敵のいきほひ。又、敵の形勢。
てきそ-つい [適性] (名) 性質にかなふこと。「ふ。」
てきそ-つい [敵對] (名) 敵のいきほひ。又、敵の形勢。
てきそ-つう [適切] (名) いとよく適合すること。いとよくあてはまること。
てきそ-てん [敵船] (名) 敵のふね。
てきそ-てん [的然] (名)【副】はたしてたしかなるさまにいふ語。
できそ-てん [個然] (名)【副】すでに出てたるさまにいふ語。「く。」
てきそ-でん [敵前] (名) 敵のまへ。敵陣のまへ。
てきそ-でん [摘宗] (名) 「ちゃくそう」に同じ。
できそ-でんぴょう [出来手形] (名) ❶出来の不完全なること。出来の缺點あること。❷かたは。不具者。
できそ-でんぴょう [出来手形] (自「は四」) 不完全に出来あがる。出来あがり十分ならず。
てきそ-とん [摘頓] (名) 「ちゃくとん」に同じ。
てきそ-ない [敵對] (名) てきたふこと。はむかひ。はりあひ。抵抗。
てきそ-なら [適當] (名) かなふこと。ふさふこと。あてはまること。あたること。
てきそ-なら [適當] (名) 「てきとう」に同じ。
てきそ-なら [適當] (名) 「てきとう」に同じ。
てきそ-なら [適當] (名) 「てきとう」に同じ

てんきょ【転居】(名)　住む家を変えること。引っ越し。

てんきょく【転極】(名)　電池の陽極と陰極とを入れ換えること。

てんきょく【転局】(名)　❶官職を変えること。転官。❷碁・将棋で、局面を変えること。

てんきょく【転曲】(名)　❶曲がること。❷地層が曲がること。

てんきょく【天極】(名)　天球上で、地軸の延長と交わる点。北極星に近い。

てんきょく【電極】(名)　電気分解や放電のために、電流を導入する導体。

てんきょく【電局】(名)　電信局

ヤンキー（やんきー）[名] 不調法なさま。「―ですが、お許し願います」

やんきょ（やんきょ）[名] 「雅」（俗）やさしい心。

やんごとなき（やんごとなき）[連体] 「雅」（俗）身分が高くて尊い。「―お方」

やんごとなし（やんごとなし）[形ク] 「雅」（俗）身分が高くて尊い。

やんちゃ（やんちゃ）[名・形動] ❶（俗）子供などが、いたずらで手に負えないこと。また、そのさま。「―な子供」❷（俗）男女関係などで、だらしないこと。また、そのさま。「―な関係」

やんちゃ坊主（やんちゃぼうず）[名] 「やんちゃ❶」な子供。

やんちゃ盛り（やんちゃざかり）[名] 「やんちゃ❶」な子供が、いたずらをする盛りの年ごろ。

やんちゃ娘（やんちゃむすめ）[名] 「やんちゃ❶」な女の子。

やんぬるかな（やんぬるかな）[連語] 「雅」（俗）ああ、もう終わりだ

てつ-うつ［手筒］(名) 普通、大砲分の使用したる小銃の一種。

てつ-うま［手綱］(名) 馬をなし行ふ順序、てづなばかり。——**-はふ**［手綱法］(名)【法】馬を活用する手綱を規定する法則、即ち馬術馬法の如きこれなり。

てつ-うる［鐵鎚］(名) 大なるかなづち。(鐵槌)

てつ-ていし［鐵底］(名) 底までつちぬきとはるゝ。

てつ-ていし［鐵蹄］(名) ❶かなづち。❷厩馬の蹄。

てつ-ていし［鐵挺］(名) かなてこ。

てつ-でら［鐵條網］(名) 鐵製の矢きはりがね。——**-まう**［鐵條網］(名) 鐵次に立てたる杭などに鐵條を網狀にまげくかゝりわたして敵兵の突進を防禦するもの。

てつ-とき［鐵笛］(名) 鐵製のふえ。

てつ-とふ［鐵砧］(名) 鐵製の砧。(鐵鉄來)

てつ-どう［鐵道］(名) 鐵製の線路にて車輪を導き、汽車、電車を運轉する交通機關。

てつ-どう［鐵銅］(名) 鐵製の銅。

てつ-どう［鐵瞳］(名) 鐵製の瞳。

てつ-どう［鐵童］(名) 鐵のごとき強健なる男子。

てつ-どう［鐵瞳］(名) 鐵のごとき強健なる婦人。

てつ-とう［鐵鍬］(名) 鐵製の鍬。

てつ-とう［鐵鍬］(名) 鐵製の鍬。

**てつ-ど

ヤシホ-ヤシホ [名] 手風琴。

ヤシホ-ヤシホ [名] 手風琴。

ヤシホ-ヤシホ [名] 手風琴。

てまえ [手前] (名) ❶手の前方。❷自分の前。自己。❸自分の利益。❹自分の身の上。❺自分の技量。❻自分の領分。❼自分の家。❽自分の所有。❾自分の作。❿自分の好み。⓫自分の方。⓬自分の方の人。⓭自分の方の軍勢。⓮自分の方の兵士。⓯自分の方の船。⓰自分の方の城。⓱自分の方の国。⓲自分の方の地。⓳自分の方の土地。⓴自分の方の領地。㉑自分の方の領分。㉒自分の方の家。㉓自分の方の家族。㉔自分の方の親族。㉕自分の方の親戚。㉖自分の方の仲間。㉗自分の方の味方。㉘自分の方の人。㉙自分の方の兵士。㉚自分の方の軍勢。㉛自分の方の船。㉜自分の方の城。㉝自分の方の国。㉞自分の方の地。㉟自分の方の土地。㊱自分の方の領地。㊲自分の方の領分。㊳自分の方の家。㊴自分の方の家族。㊵自分の方の親族。㊶自分の方の仲間。㊷自分の方の味方。㊸自分の方の人。㊹自分の方の兵士。㊺自分の方の軍勢。㊻自分の方の船。㊼自分の方の城。㊽自分の方の国。㊾自分の方の地。㊿自分の方の土地。(51)自分の方の領地。(52)自分の方の領分。(53)自分の方の家。(54)自分の方の家族。(55)自分の方の親族。(56)自分の方の仲間。(57)自分の方の味方。(58)自分の方の人。(59)自分の方の兵士。(60)自分の方の軍勢。(61)自分の方の船。(62)自分の方の城。(63)自分の方の国。(64)自分の方の地。(65)自分の方の土地。(66)自分の方の領地。(67)自分の方の領分。(68)自分の方の家。(69)自分の方の家族。(70)自分の方の親族。(71)自分の方の仲間。(72)自分の方の味方。(73)自分の方の人。(74)自分の方の兵士。(75)自分の方の軍勢。(76)自分の方の船。(77)自分の方の城。(78)自分の方の国。(79)自分の方の地。(80)自分の方の土地。(81)自分の方の領地。(82)自分の方の領分。(83)自分の方の家。(84)自分の方の家族。(85)自分の方の親族。(86)自分の方の仲間。(87)自分の方の味方。(88)自分の方の人。(89)自分の方の兵士。(90)自分の方の軍勢。(91)自分の方の船。(92)自分の方の城。(93)自分の方の国。(94)自分の方の地。(95)自分の方の土地。(96)自分の方の領地。(97)自分の方の領分。(98)自分の方の家。(99)自分の方の家族。(100)自分の方の親族。(101)自分の方の仲間。(102)自分の方の味方。(103)自分の方の人。(104)自分の方の兵士。(105)自分の方の軍勢。(106)自分の方の船。(107)自分の方の城。(108)自分の方の国。(109)自分の方の地。(110)自分の方の土地。(111)自分の方の領地。(112)自分の方の領分。(113)自分の方の家。(114)自分の方の家族。(115)自分の方の親族。(116)自分の方の仲間。(117)自分の方の味方。(118)自分の方の人。(119)自分の方の兵士。(120)自分の方の軍勢。(121)自分の方の船。(122)自分の方の城。(123)自分の方の国。(124)自分の方の地。(125)自分の方の土地。(126)自分の方の領地。(127)自分の方の領分。(128)自分の方の家。(129)自分の方の家族。(130)自分の方の親族。(131)自分の方の仲間。(132)自分の方の味方。(133)自分の方の人。(134)自分の方の兵士。(135)自分の方の軍勢。(136)自分の方の船。(137)自分の方の城。(138)自分の方の国。(139)自分の方の地。(140)自分の方の土地。(141)自分の方の領地。(142)自分の方の領分。(143)自分の方の家。(144)自分の方の家族。(145)自分の方の親族。(146)自分の方の仲間。(147)自分の方の味方。(148)自分の方の人。(149)自分の方の兵士。(150)自分の方の軍勢。(151)自分の方の船。(152)自分の方の城。(153)自分の方の国。(154)自分の方の地。(155)自分の方の土地。(156)自分の方の領地。(157)自分の方の領分。(158)自分の方の家。(159)自分の方の家族。(160)自分の方の親族。(161)自分の方の仲間。(162)自分の方の味方。(163)自分の方の人。(164)自分の方の兵士。(165)自分の方の軍勢。(166)自分の方の船。(167)自分の方の城。(168)自分の方の国。(169)自分の方の地。(170)自分の方の土地。(171)自分の方の領地。(172)自分の方の領分。(173)自分の方の家。(174)自分の方の家族。(175)自分の方の親族。(176)自分の方の仲間。(177)自分の方の味方。(178)自分の方の人。(179)自分の方の兵士。(180)自分の方の軍勢。(181)自分の方の船。(182)自分の方の城。(183)自分の方の国。(184)自分の方の地。(185)自分の方の土地。(186)自分の方の領地。(187)自分の方の領分。(188)自分の方の家。(189)自分の方の家族。(190)自分の方の親族。(191)自分の方の仲間。(192)自分の方の味方。(193)自分の方の人。(194)自分の方の兵士。(195)自分の方の軍勢。(196)自分の方の船。(197)自分の方の城。(198)自分の方の国。(199)自分の方の地。(200)自分の方の土地。(201)自分の方の領地。(202)自分の方の領分。(203)自分の方の家。(204)自分の方の家族。(205)自分の方の親族。(206)自分の方の仲間。(207)自分の方の味方。(208)自分の方の人。(209)自分の方の兵士。(210)自分の方の軍勢。(211)自分の方の船。(212)自分の方の城。(213)自分の方の国。(214)自分の方の地。(215)自分の方の土地。(216)自分の方の領地。(217)自分の方の領分。(218)自分の方の家。(219)自分の方の家族。(220)自分の方の親族。(221)自分の方の仲間。(222)自分の方の味方。(223)自分の方の人。(224)自分の方の兵士。(225)自分の方の軍勢。(226)自分の方の船。(227)自分の方の城。(228)自分の方の国。(229)自分の方の地。(230)自分の方の土地。(231)自分の方の領地。(232)自分の方の領分。(233)自分の方の家。(234)自分の方の家族。(235)自分の方の親族。(236)自分の方の仲間。(237)自分の方の味方。(238)自分の方の人。(239)自分の方の兵士。(240)自分の方の軍勢。(241)自分の方の船。(242)自分の方の城。(243)自分の方の国。(244)自分の方の地。(245)自分の方の土地。(246)自分の方の領地。(247)自分の方の領分。(248)自分の方の家。(249)自分の方の家族。(250)自分の方の親族。(251)自分の方の仲間。(252)自分の方の味方。(253)自分の方の人。(254)自分の方の兵士。(255)自分の方の軍勢。(256)自分の方の船。(257)自分の方の城。(258)自分の方の国。(259)自分の方の地。(260)自分の方の土地。(261)自分の方の領地。(262)自分の方の領分。(263)自分の方の家。(264)自分の方の家族。(265)自分の方の親族。(266)自分の方の仲間。(267)自分の方の味方。(268)自分の方の人。(269)自分の方の兵士。(270)自分の方の軍勢。(271)自分の方の船。(272)自分の方の城。(273)自分の方の国。(274)自分の方の地。(275)自分の方の土地。(276)自分の方の領地。(277)自分の方の領分。(278)自分の方の家。(279)自分の方の家族。(280)自分の方の親族。(281)自分の方の仲間。(282)自分の方の味方。(283)自分の方の人。(284)自分の方の兵士。(285)自分の方の軍勢。(286)自分の方の船。(287)自分の方の城。(288)自分の方の国。(289)自分の方の地。(290)自分の方の土地。(291)自分の方の領地。(292)自分の方の領分。(293)自分の方の家。(294)自分の方の家族。(295)自分の方の親族。(296)自分の方の仲間。(297)自分の方の味方。(298)自分の方の人。(299)自分の方の兵士。(300)自分の方の軍勢。(301)自分の方の船。(302)自分の方の城。(303)自分の方の国。(304)自分の方の地。(305)自分の方の土地。(306)自分の方の領地。(307)自分の方の領分。(308)自分の方の家。(309)自分の方の家族。(310)自分の方の親族。(311)自分の方の仲間。(312)自分の方の味方。(313)自分の方の人。(314)自分の方の兵士。(315)自分の方の軍勢。(316)自分の方の船。(317)自分の方の城。(318)自分の方の国。(319)自分の方の地。(320)自分の方の土地。(321)自分の方の領地。(322)自分の方の領分。(323)自分の方の家。(324)自分の方の家族。(325)自分の方の親族。(326)自分の方の仲間。(327)自分の方の味方。(328)自分の方の人。(329)自分の方の兵士。(330)自分の方の軍勢。(331)自分の方の船。(332)自分の方の城。(333)自分の方の国。(334)自分の方の地。(335)自分の方の土地。(336)自分の方の領地。(337)自分の方の領分。(338)自分の方の家。(339)自分の方の家族。(340)自分の方の親族。(341)自分の方の仲間。(342)自分の方の味方。(343)自分の方の人。(344)自分の方の兵士。(345)自分の方の軍勢。(346)自分の方の船。(347)自分の方の城。(348)自分の方の国。(349)自分の方の地。(350)自分の方の土地。(351)自分の方の領地。(352)自分の方の領分。(353)自分の方の家。(354)自分の方の家族。(355)自分の方の親族。(356)自分の方の仲間。(357)自分の方の味方。(358)自分の方の人。(359)自分の方の兵士。(360)自分の方の軍勢。(361)自分の方の船。(362)自分の方の城。(363)自分の方の国。(364)自分の方の地。(365)自分の方の土地。(366)自分の方の領地。(367)自分の方の領分。(368)自分の方の家。(369)自分の方の家族。(370)自分の方の親族。(371)自分の方の仲間。(372)自分の方の味方。(373)自分の方の人。(374)自分の方の兵士。(375)自分の方の軍勢。(376)自分の方の船。(377)自分の方の城。(378)自分の方の国。(379)自分の方の地。(380)自分の方の土地。(381)自分の方の領地。(382)自分の方の領分。(383)自分の方の家。(384)自分の方の家族。(385)自分の方の親族。(386)自分の方の仲間。(387)自分の方の味方。(388)自分の方の人。(389)自分の方の兵士。(390)自分の方の軍勢。(391)自分の方の船。(392)自分の方の城。(393)自分の方の国。(394)自分の方の地。(395)自分の方の土地。(396)自分の方の領地。(397)自分の方の領分。(398)自分の方の家。(399)自分の方の家族。(400)自分の方の親族。(401)自分の方の仲間。(402)自分の方の味方。(403)自分の方の人。(404)自分の方の兵士。(405)自分の方の軍勢。(406)自分の方の船。(407)自分の方の城。(408)自分の方の国。(409)自分の方の地。(410)自分の方の土地。(411)自分の方の領地。(412)自分の方の領分。(413)自分の方の家。(414)自分の方の家族。(415)自分の方の親族。(416)自分の方の仲間。(417)自分の方の味方。(418)自分の方の人。(419)自分の方の兵士。(420)自分の方の軍勢。(421)自分の方の船。(422)自分の方の城。(423)自分の方の国。(424)自分の方の地。(425)自分の方の土地。(426)自分の方の領地。(427)自分の方の領分。(428)自分の方の家。(429)自分の方の家族。(430)自分の方の親族。(431)自分の方の仲間。(432)自分の方の味方。(433)自分の方の人。(434)自分の方の兵士。(435)自分の方の軍勢。(436)自分の方の船。(437)自分の方の城。(438)自分の方の国。(439)自分の方の地。(440)自分の方の土地。(441)自分の方の領地。(442)自分の方の領分。(443)自分の方の家。(444)自分の方の家族。(445)自分の方の親族。(446)自分の方の仲間。(447)自分の方の味方。(448)自分の方の人。(449)自分の方の兵士。(450)自分の方の軍勢。(451)自分の方の船。(452)自分の方の城。(453)自分の方の国。(454)自分の方の地。(455)自分の方の土地。(456)自分の方の領地。(457)自分の方の領分。(458)自分の方の家。(459)自分の方の家族。(460)自分の方の親族。(461)自分の方の仲間。(462)自分の方の味方。(463)自分の方の人。(464)自分の方の兵士。(465)自分の方の軍勢。(466)自分の方の船。(467)自分の方の城。(468)自分の方の国。(469)自分の方の地。(470)自分の方の土地。(471)自分の方の領地。(472)自分の方の領分。(473)自分の方の家。(474)自分の方の家族。(475)自分の方の親族。(476)自分の方の仲間。(477)自分の方の味方。(478)自分の方の人。(479)自分の方の兵士。(480)自分の方の軍勢。(481)自分の方の船。(482)自分の方の城。(483)自分の方の国。(484)自分の方の地。(485)自分の方の土地。(486)自分の方の領地。(487)自分の方の領分。(488)自分の方の家。(489)自分の方の家族。(490)自分の方の親族。(491)自分の方の仲間。(492)自分の方の味方。(493)自分の方の人。(494)自分の方の兵士。(495)自分の方の軍勢。(496)自分の方の船。(497)自分の方の城。(498)自分の方の国。(499)自分の方の地。(500)自分の方の土地。(501)自分の方の領地。(502)自分の方の領分。(503)自分の方の家。(504)自分の方の家族。(505)自分の方の親族。(506)自分の方の仲間。(507)自分の方の味方。(508)自分の方の人。(509)自分の方の兵士。(510)自分の方の軍勢。(511)自分の方の船。(512)自分の方の城。(513)自分の方の国。(514)自分の方の地。(515)自分の方の土地。(516)自分の方の領地。(517)自分の方の領分。(518)自分の方の家。(519)自分の方の家族。(520)自分の方の親族。(521)自分の方の仲間。(522)自分の方の味方。(523)自分の方の人。(524)自分の方の兵士。(525)自分の方の軍勢。(526)自分の方の船。(527)自分の方の城。(528)自分の方の国。(529)自分の方の地。(530)自分の方の土地。(531)自分の方の領地。(532)自分の方の領分。(533)自分の方の家。(534)自分の方の家族。(535)自分の方の親族。(536)自分の方の仲間。(537)自分の方の味方。(538)自分の方の人。(539)自分の方の兵士。(540)自分の方の軍勢。(541)自分の方の船。(542)自分の方の城。(543)自分の方の国。(544)自分の方の地。(545)自分の方の土地。(546)自分の方の領地。(547)自分の方の領分。(548)自分の方の家。(549)自分の方の家族。(550)自分の方の親族。(551)自分の方の仲間。(552)自分の方の味方。(553)自分の方の人。(554)自分の方の兵士。(555)自分の方の軍勢。(556)自分の方の船。(557)自分の方の城。(558)自分の方の国。(559)自分の方の地。(560)自分の方の土地。(561)自分の方の領地。(562)自分の方の領分。(563)自分の方の家。(564)自分の方の家族。(565)自分の方の親族。(566)自分の方の仲間。(567)自分の方の味方。(568)自分の方の人。(569)自分の方の兵士。(570)自分の方の軍勢。(571)自分の方の船。(572)自分の方の城。(573)自分の方の国。(574)自分の方の地。(575)自分の方の土地。(576)自分の方の領地。(577)自分の方の領分。(578)自分の方の家。(579)自分の方の家族。(580)自分の方の親族。(581)自分の方の仲間。(582)自分の方の味方。(583)自分の方の人。(584)自分の方の兵士。(585)自分の方の軍勢。(586)自分の方の船。(587)自分の方の城。(588)自分の方の国。(589)自分の方の地。(590)自分の方の土地。(591)自分の方の領地。(592)自分の方の領分。(593)自分の方の家。(594)自分の方の家族。(595)自分の方の親族。(596)自分の方の仲間。(597)自分の方の味方。(598)自分の方の人。(599)自分の方の兵士。(600)自分の方の軍勢。(601)自分の方の船。(602)自分の方の城。(603)自分の方の国。(604)自分の方の地。(605)自分の方の土地。(606)自分の方の領地。(607)自分の方の領分。(608)自分の方の家。(609)自分の方の家族。(610)自分の方の親族。(611)自分の方の仲間。(612)自分の方の味方。(613)自分の方の人。(614)自分の方の兵士。(615)自分の方の軍勢。(616)自分の方の船。(617)自分の方の城。(618)自分の方の国。(619)自分の方の地。(620)自分の方の土地。(621)自分の方の領地。(622)自分の方の領分。(623)自分の方の家。(624)自分の方の家族。(625)自分の方の親族。(626)自分の方の仲間。(627)自分の方の味方。(628)自分の方の人。(629)自分の方の兵士。(630)自分の方の軍勢。(631)自分の方の船。(632)自分の方の城。(633)自分の方の国。(634)自分の方の地。(635)自分の方の土地。(636)自分の方の領地。(637)自分の方の領分。(638)自分の方の家。(639)自分の方の家族。(640)自分の方の親族。(641)自分の方の仲間。(642)自分の方の味方。(643)自分の方の人。(644)自分の方の兵士。(645)自分の方の軍勢。(646)自分の方の船。(647)自分の方の城。(648)自分の方の国。(649)自分の方の地。(650)自分の方の土地。(651)自分の方の領地。(652)自分の方の領分。(653)自分の方の家。(654)自分の方の家族。(655)自分の方の親族。(656)自分の方の仲間。(657)自分の方の味方。(658)自分の方の人。(659)自分の方の兵士。(660)自分の方の軍勢。(661)自分の方の船。(662)自分の方の城。(663)自分の方の国。(664)自分の方の地。(665)自分の方の土地。(666)自分の方の領地。(667)自分の方の領分。(668)自分の方の家。(669)自分の方の家族。(670)自分の方の親族。(671)自分の方の仲間。(672)自分の方の味方。(673)自分の方の人。(674)自分の方の兵士。(675)自分の方の軍勢。(676)自分の方の船。(677)自分の方の城。(678)自分の方の国。(679)自分の方の地。(680)自分の方の土地。(681)自分の方の領地。(682)自分の方の領分。(683)自分の方の家。(684)自分の方の家族。(685)自分の方の親族。(686)自分の方の仲間。(687)自分の方の味方。(688)自分の方の人。(689)自分の方の兵士。(690)自分の方の軍勢。(691)自分の方の船。(692)自分の方の城。(693)自分の方の国。(694)自分の方の地。(695)自分の方の土地。(696)自分の方の領地。(697)自分の方の領分。(698)自分の方の家。(699)自分の方の家族。(700)自分の方の親族。(701)自分の方の仲間。(702)自分の方の味方。(703)自分の方の人。(704)自分の方の兵士。(705)自分の方の軍勢。(706)自分の方の船。(707)自分の方の城。(708)自分の方の国。(709)自分の方の地。(710)自分の方の土地。(711)自分の方の領地。(712)自分の方の領分。(713)自分の方の家。(714)自分の方の家族。(715)自分の方の親族。(716)自分の方の仲間。(717)自分の方の味方。(718)自分の方の人。(719)自分の方の兵士。(720)自分の方の軍勢。(721)自分の方の船。(722)自分の方の城。(723)自分の方の国。(724)自分の方の地。(725)自分の方の土地。(726)自分の方の領地。(727)自分の方の領分。(728)自分の方の家。(729)自分の方の家族。(730)自分の方の親族。(731)自分の方の仲間。(732)自分の方の味方。(733)自分の方の人。(734)自分の方の兵士。(735)自分の方の軍勢。(736)自分の方の船。(737)自分の方の城。(738)自分の方の国。(739)自分の方の地。(740)自分の方の土地。(741)自分の方の領地。(742)自分の方の領分。(743)自分の方の家。(744)自分の方の家族。(745)自分の方の親族。(746)自分の方の仲間。(747)自分の方の味方。(748)自分の方の人。(749)自分の方の兵士。(750)自分の方の軍勢。(751)自分の方の船。(752)自分の方の城。(753)自分の方の国。(754)自分の方の地。(755)自分の方の土地。(756)自分の方の領地。(757)自分の方の領分。(758)自分の方の家。(759)自分の方の家族。(760)自分の方の親族。(761)自分の方の仲間。(762)自分の方の味方。(763)自分の方の人。(764)自分の方の兵士。(765)自分の方の軍勢。(766)自分の方の船。(767)自分の方の城。(768)自分の方の国。(769)自分の方の地。(770)自分の方の土地。(771)自分の方の領地。(772)自分の方の領分。(773)自分の方の家。(774)自分の方の家族。(775)自分の方の親族。(776)自分の方の仲間。(777)自分の方の味方。(778)自分の方の人。(779)自分の方の兵士。(780)自分の方の軍勢。(781)自分の方の船。(782)自分の方の城。(783)自分の方の国。(784)自分の方の地。(785)自分の方の土地。(786)自分の方の領地。(787)自分の方の領分。(788)自分の方の家。(789)自分の方の家族。(790)自分の方の親族。(791)自分の方の仲間。(792)自分の方の味方。(793)自分の方の人。(794)自分の方の兵士。(795)自分の方の軍勢。(796)自分の方の船。(797)自分の方の城。(798)自分の方の国。(799)自分の方の地。(800)自分の方の土地。(801)自分の方の領地。(802)自分の方の領分。(803)自分の方の家。(804)自分の方の家族。(805)自分の方の親族。(806)自分の方の仲間。(807)自分の方の味方。(808)自分の方の人。(809)自分の方の兵士。(810)自分の方の軍勢。(811)自分の方の船。(812)自分の方の城。(813)自分の方の国。(814)自分の方の地。(815)自分の方の土地。(816)自分の方の領地。(817)自分の方の領分。(818)自分の方の家。(819)自分の方の家族。(820)自分の方の親族。(821)自分の方の仲間。(822)自分の方の味方。(823)自分の方の人。(824)自分の方の兵士。(825)自分の方の軍勢。(826)自分の方の船。(827)自分の方の城。(828)自分の方の国。(829)自分の方の地。(830)自分の方の土地。(831)自分の方の領地。(832)自分の方の領分。(833)自分の方の家。(834)自分の方の家族。(835)自分の方の親族。(836)自分の方の仲間。(837)自分の方の味方。(838)自分の方の人。(839)自分の方の兵士。(840)自分の方の軍勢。(841)自分の方の船。(842)自分の方の城。(843)自分の方の国。(844)自分の方の地。(845)自分の方の土地。(846)自分の方の領地。(847)自分の方の領分。(848)自分の方の家。(849)自分の方の家族。(850)自分の方の親族。(851)自分の方の仲間。(852)自分の方の味方。(853)自分の方の人。(854)自分の方の兵士。(855)自分の方の軍勢。(856)自分の方の船。(857)自分の方の城。(858)自分の方の国。(859)自分の方の地。(860)自分の方の土地。(861)自分の方の領地。(862)自分の方の領分。(863)自分の方の家。(864)自分の方の家族。(865)自分の方の親族。(866)自分の方の仲間。(867)自分の方の味方。(868)自分の方の人。(869)自分の方の兵士。(870)自分の方の軍勢。(871)自分の方の船。(872)自分の方の城。(873)自分の方の国。(874)自分の方の地。(875)自分の方の土地。(876)自分の方の領地。(877)自分の方の領分。(878)自分の方の家。(879)自分の方の家族。(880)自分の方の親族。(881)自分の方の仲間。(882)自分の方の味方。(883)自分の方の人。(884)自分の方の兵士。(885)自分の方の軍勢。(886)自分の方の船。(887)自分の方の城。(888)自分の方の国。(889)自分の方の地。(890)自分の方の土地。(891)自分の方の領地。(892)自分の方の領分。(893)自分の方の家。(894)自分の方の家族。(895)自分の方の親族。(896)自分の方の仲間。(897)自分の方の味方。(898)自分の方の人。(899)自分の方の兵士。(900)自分の方の軍勢。(901)自分の方の船。(902)自分の方の城。(903)自分の方の国。(904)自分の方の地。(905)自分の方の土地。(906)自分の方の領地。(907)自分の方の領分。(908)自分の方の家。(909)自分の方の家族。(910)自分の方の親族。(911)自分の方の仲間。(912)自分の方の味方。(913)自分の方の人。(914)自分の方の兵士。(915)自分の方の軍勢。(916)自分の方の船。(917)自分の方の城。(918)自分の方の国。(919)自分の方の地。(920)自分の方の土地。(921)自分の方の領地。(922)自分の方の領分。(923)自分の方の家。(924)自分の方の家族。(925)自分の方の親族。(926)自分の方の仲間。(927)自分の方の味方。(928)自分の方の人。(929)自分の方の兵士。(930)自分の方の軍勢。(931)自分の方の船。(932)自分の方の城。(933)自分の方の国。(934)自分の方の地。(935)自分の方の土地。(936)自分の方の領地。(937)自分の方の領分。(938)自分の方の家。(939)自分の方の家族。(940)自分の方の親族。(941)自分の方の仲間。(942)自分の方の味方。(943)自分の方の人。(944)自分の方の兵士。(945)自分の方の軍勢。(946)自分の方の船。(947)自分の方の城。(948)自分の方の国。(949)自分の方の地。(950)自分の方の土地。(951)自分の方の領地。(952)自分の方の領分。(953)自分の方の家。(954)自分の方の家族。(955)自分の方の親族。(956)自分の方の仲間。(957)自分の方の味方。(958)自分の方の人。(959)自分の方の兵士。(960)自分の方の軍勢。(961)自分の方の船。(962)自分の方の城。(963)自分の方の国。(964)自分の方の地。(965)自分の方の土地。(966)自分の方の領地。(967)自分の方の領分。(968)自分の方の家。(969)自分の方の家族。(970)自分の方の親族。(971)自分の方の仲間。(972)自分の方の味方。(973)自分の方の人。(974)自分の方の兵士。(975)自分の方の軍勢。(976)自分の方の船。(977)自分の方の城。(978)自分の方の国。(979)自分の方の地。(980)自分の方の土地。(981)自分の方の領地。(982)自分の方の領分。(983)自分の方の家。(984)自分の方の家族。(985)自分の方の親族。(986)自分の方の仲間。(987)自分の方の味方。(988)自分の方の人。(989)自分の方の兵士。(990)自分の方の軍勢。(991)自分の方の船。(992)自分の方の城。(993)自分の方の国。(994)自分の方の地。(995)自分の方の土地。(996)自分の方の領地。(997)自分の方の領分。(998)自分の方の家。(999)自分の方の家族。(1000)自分の方の親族。(1001)自分の方の仲間。(1002)自分の方の味方。(1003)自分の方の人。(1004)自分の方の兵士。(1005)自分の方の軍勢。(1006)自分の方の船。(1007)自分の方の城。(1008)自分の方の国。(1009)自分の方の地。(1010)自分の方の土地。(1011)自分の方の領地。(1012)自分の方の領分。(1013)自分の方の家。(1014)自分の方の家族。(1015)自分の方の親族。(1016)自分の方の仲間。(1017)自分の方の味方。(1018)自分の方の人。(1019)自分の方の兵士。(1020)自分の方の軍勢。(1021)自分の方の船。(1022)自分の方の城。(1023)自分の方の国。(1024)自分の方の地。(1025)自分の方の土地。(1026)自分の方の領地。(1027)自分の方の領分。(1028)自分の方の家。(1029)自分の方の家族。(1030)自分の方の親族。(1031)自分の方の仲間。(1032)自分の方の味方。(1033)自分の方の人。(1034)自分の方の兵士。(1035)自分の方の軍勢。(1036)自分の方の船。(1037)自分の方の城。(1038)自分の方の国。(1039)自分の方の地。(1040)自分の方の土地。(1041)自分の方の領地。(1042)自分の方の領分。(1043)自分の方の家。(1044)自分の方の家族。(1045)自分の方の親族。(1046)自分の方の仲間。(1047)自分の方の味方。(1048)自分の方の人。(1049)自分の方の兵士。(1050)自分の方の軍勢。(1051)自分の方の船。(1052)自分の方の城。(1053)自分の方の国。(1054)自分の方の地。(1055)自分の方の土地。(1056)自分の方の領地。(1057)自分の方の領分。(1058)自分の方の家。(1059)自分の方の家族。(1060)自分の方の親族。(1061)自分の方の仲間。(1062)自分の方の味方。(1063)自分の方の人。(1064)自分の方の兵士。(1065)自分の方の軍勢。(1066)自分の方の船。(1067)自分の方の城。(1068)自分の方の国。(1069)自分の方の地。(1070)自分の方の土地。(1071)自分の方の領地。(1072)自分の方の領分。(1073)自分の方の家。(1074)自分の方の家族。(1075)自分の方の親族。(1076)自分の方の仲間。(1077)自分の方の味方。(1078)自分の方の人。(1079)自分の方の兵士。(1080)自分の方の軍勢。(1081)自分の方の船。(1082)自分の方の城。(1083)自分の方の国。(1084)自分の方の地。(1085)自分の方の土地。(1086)自分の方の領地。(1087)自分の方の領分。(1088)自分の方の家。(1089)自分の方の家族。(1090)自分の方の親族。(1091)自分の方の仲間。(1092)自分の方の味方。(1093)自分の方の人。(1094)自分の方の兵士。(1095)自分の方の軍勢。(1096)自分の方の船。(1097)自分の方の城。(1098)自分の方の国。(1099)自分の方の地。(1100)自分の方の土地。(1101)自分の方の領地。(1102)自分の方の領分。(1103)自分の方の家。(1104)自分の方の家族。(1105)自分の方の親族。(1106)自分の方の仲間。(1107)自分の方の味方。(1108)自分の方の人。(1109)自分の方の兵士。(1110)自分の方の軍勢。(1111)自分の方の船。(1112)自分の方の城。(1113)自分の方の国。(1114)自分の方の地。(1115)自分の方の土地。(1116)自分の方の領地。(1117)自分の方の領分。(1118)自分の方の家。(1119)自分の方の家族。(1120)自分の方の親族。(1121)自分の方の仲間。(1122)自分の方の味方。(1123)自分の方の人。(1124)自分の方の兵士。(1125)自分の方の軍勢。(1126)自分の方の船。(1127)自分の方の城。(1128)自分の方の国。(1129)自分の方の地。(1130)自分の方の土地。(1131)自分の方の領地。(1132)自分の方の領分。(1133)自分の方の家。(1134)自分の方の家族。(1135)自分の方の親族。(1136)自分の方の仲間。(1137)自分の方の味方。(1138)自分の方の人。(1139)自分の方の兵士。(1140)自分の方の軍勢。(1141)自分の方の船。(1142)自分の方の城。(1143)自分の方の国。(1144)自分の方の地。(1145)自分の方の土地。(1146)自分の方の領地。(1147)自分の方の領分。(1148)自分の方の家。(1149)自分の方の家族。(1150)自分の方の親族。(1151)自分の方の仲間。(1152)自分の方の味方。(1153)自分の方の人。(1154)自分の方の兵士。(1155)自分の方の軍勢。(1156)自分の方の船。(1157)自分の方の城。(1158)自分の方の国。(1159)自分の方の地。(1160)自分の方の土地。(1161)自分の方の領地。(1162)自分の方の領分。(1163)自分の方の家。(1164)自分の方の家族。(1165)自分の方の親族。(1166)自分の方の仲間。(1167)自分の方の味方。(1168)自分の方の人。(1169)自分の方の兵士。(1170)自分の方の軍勢。(1171)自分の方の船。(1172)自分の方の城。(1173)自分の方の国。(1174)自分の方の地。(1175)自分の方の土地。(1176)自分の方の領地。(1177)自分の方の領分。(1178)自分の方の家。(1179)自分の方の家族。(1180)自分の方の親族。(1181)自分の方の仲間。(1182)自分の方の味方。(1183)自分の方の人。(1184)自分の方の兵士。(1185)自分の方の軍勢。(1186)自分の方の船。(1187)自分の方の城。(1188)自分の方の国。(1189)自分の方の地。(1190)自分の方の土地。(1191)自分の方の領地。(1192)自分の方の領分。(1193)自分の方の家。(1194)自分の方の家族。(1195)自分の方の親族。(1196)自分の方の仲間。(1197)自分の方の味方。(1198)自分の方の人。(1199)自分の方の兵士。(1200)自分の方の軍勢。(1201)自分の方の船。(1202)自分の方の城。(1203)自分の方の国。(1204)自分の方の地。(1205)自分の方の土地。(1206)自分の方の領地。(1207)自分の方の領分。(1208)自分の方の家。(1209)自分の方の家族。(1210)自分の方の親族。(1211)自分の方の仲間。(1212)自分の方の味方。(1213)自分の方の人。(1214)自分の方の兵士。(1215)自分の方の軍勢。(1216)自分の方の船。(1217)自分の方の城。(1218)自分の方の国。(1219)自分の方の地。(1220)自分の方の土地。(1221)自分の方の領地。(1222)自分の方の領分。(1223)自分の方の家。(1224)自分の方の家族。(1225)自分の方の親族。(1226)自分の方の仲間。(1227)自分の方の味方。(1228)自分の方の人。(1229)自分の方の兵士。(1230)自分の方の軍勢。(1231)自分の方の船。(1232)自分の方の城。(1233)自分の方の国。(1234)自分の方の地。(1235)自分の方の土地。(1236)自分の方の領地。(1237)自分の方の領分。(1238)自分の方の家。(1239)自分の方の家族。(1240)自分の方の親族。(1241)自分の方の仲間。(1242)自分の方の味方。(1243)自分の方の人。(1244)自分の方の兵士。(1245)自分の方の軍勢。(1246)自分の方の船。(1247)自分の方の城。(1248)自分の方の国。(1249)自分の方の地。(1250)自分の方の土地。(1251)自分の方の領地。(1252)自分の方の領分。(1253)自分の方の家。(1254)自分の方の家族。(1255)自分の方の親族。(1256)自分の方の仲間。(1257)自分の方の味方。(1258)自分の方の人。(1259)自分の方の兵士。(1260)自分の方の軍勢。(1261)自分の方の船。(1262)自分の方の城。(1263)自分の方の国。(1264)自分の方の地。(1265)自分の方の土地。(1266)自分の方の領地。(1267)自分の方の領分。(1268)自分の方の家。(1269)自分の方の家族。(1270)自分の方の親族。(1271)自分の方の仲間。(1272)自分の方の味方。(1273)自分の方の人。(1274)自分の方の兵士。(1275)自分の方の軍勢。(1276)自分の方の船。(1277)自分の方の城。(1278)自分の方の国。(1279)自分の方の地。(1280)自分の方の土地。(1281)自分の方の領地。(1282)自分の方の領分。(1283)自分の方の家。(1284)自分の方の家族。(1285)自分の方の親族。(1286)自分の方の仲間。(1287)自分の方の味方。(1288)自分の方の人。(1289)自分の方の兵士。(1290)自分の方の軍勢。(1291)自分の方の船。(1292)自分の方の城。(1293)自分の方の国。(1294)自分の方の地。(1295)自分の方の土地。(1296)自分の方の領地。(1297)自分の方の領分。(1298)自分の方の家。(1299)自分の方の家族。(1300)自分の方の親族。(1301)自分の方の仲間。(1302)自分の方の味方。(1303)自分の方の人。(1304)自分の方の兵士。(1305)自分の方の軍勢。(1306)自分の方の船。(1307)自分の方の城。(1308)自分の方の国。(1309)自分の方の地。(1310)自分の方の土地。(1311)自分の方の領地。(1312)自分の方の領分。(1313)自分の方の家。(1314)自分の方の家族。(1315)自分の方の親族。(1316)自分の方の仲間。(1317)自分の方の味方。(1318)自分の方の人。(1319)自分の方の兵士。(1320)自分の方の軍勢。(1321)自分の方の船。(1322)自分の方の城。(1323)自分の方の国。(1324)自分の方の地。(1325)自分の方の土地。(1326)自分の方の領地。(1327)自分の方の領分。(1328)自分の方の家。(1329)自分の方の家族。(1330)自分の方の親族。(1331)自分の方の仲間。(1332)自分の方の味方。(1333)自分の方の人。(1334)自分の方の兵士。(1335)自分の方の軍勢。(1336)自分の方の船。(1337)自分の方の城。(1338)自分の方の国。(1339)自分の方の地。(1340)自分の方の土地。(1341)自分の方の領地。(1342)自分の方の領分。(1343)自分の方の家。(1344)自分の方の家族。(1345)自分の方の親族。(1346)自分の方の仲間。(1347)自分の方の味方。(1348)自分の方の人。(1349)自分の方の兵士。(1350)自分の方の軍勢。(1351)自分の方の船。(1352)自分の方の城。(1353)自分の方の国。(1354)自分の方の地。(1355)自分の方の土地。(1356)自分の方の領地。(1357)自分の方の領分。(1358)自分の方の家。(1359)自分の方の家族。(1360)自分の方の親族。(1361)自分の方の仲間。(1362)自分の方の味方。(1363)自分の方の人。(1364)自分の方の兵士。(1365)自分の方の軍勢。(1366)自分の方の船。(1367)自分の方の城。(1368)自分の方の国。(1369)自分の方の地。(1370)自分の方の土地。(1371)自分の方の領地。(1372)自分の方の領分。(1373)自分の方の家。(1374)自分の方の家族。(1375)自分の方の親族。(1376)自分の方の仲間。(1377)自分の方の味方。(1378)自分の方の人。(1379)自分の方の兵士。(1380)自分の方の軍勢。(1381)自分の方の船。(1382)自分の方の城。(1383)自分の方の国。(1384)自分の方の地。(1385)自分の方の土地。(1386)自分の方の領地。(1387)自分の方の領分。(1388)自分の方の家。(1389)自分の方の家族。(1390)自分の方の親族。(1391)自分の方の仲間。(1392)自分の方の味方。(1393)自分の方の人。(1394)自分の方の兵士。(1395)自分の方の軍勢。(1396)自分の方の船。(1397)自分の方の城。(1398)自分の方の国。(1399)自分の方の地。(1400)自分の方の土地。(1401)自分の方の領地。(1402)自分の方の領分。(1403)自分の方の家。(1404)自分の方の家族。(1405)自分の方の親族。(1406)自分の方の仲間。(1407)自分の方の味方。(1408)自分の方の人。(1409)自分の方の兵士。(1410)自分の方の軍勢。(1411)自分の方の船。(1412)自分の方の城。(1413)自分の方の国。(1414)自分の方の地。(1415)自分の方の土地。(1416)自分の方の領地。(1417)自分の方の領分。(1418)自分の方の家。(1419)自分の方の家族。(1420)自分の方の親族。(1421)自分の方の仲間。(1422)自分の方の味方。(1423)自分の方の人。(1424)自分の方の兵士。(1425)自分の方の軍勢。(1426)自分の方の船。(1427)自分の方の城。(1428)自分の方の国。(1429)自分の方の地。(1430)自分の方の土地。(1

ヤスデ【馬陸】(名) ●体節が多く，歩脚の多い節足動物．

やすね【安値】(名) ●安い値段．

やすね【休値】(名) ●休日の相場

ぐんまご（ぐんまご・ぐんまこ）【群馬県】（名）群馬県で話されている方言。

ぐんまけん（ぐんまけん）【群馬県】（名）関東地方北西部の内陸県。県庁所在地は前橋市。

ぐんまこ（ぐんまこ）【群馬県】（名）群馬県で話されている方言。

ぐんまべん（ぐんまべん）【群馬弁】（名）群馬県で話されている方言。

ぐんまん（ぐんまん）【群馬県】（名）群馬県で話されている方言。

ぐんまんべ（ぐんまんべ）【群馬弁】（名）群馬県で話されている方言。

ぐんまんべん（ぐんまんべん）【群馬弁】（名）群馬県で話されている方言。

ぐんまんべんご（ぐんまんべんご）【群馬弁】（名）群馬県で話されている方言。

ぐんまんべんこ（ぐんまんべんこ

てんき【天気】(名)（気象）大気の状態。晴・曇・雨・雪・風・雷・霧などの総称。「―予報」「―図」「―が悪い」「―が回復する」

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんき【天気】(名)（気象）大気の状態。晴・曇・雨・雪・風・雷・霧などの総称。「―予報」「―図」「―が悪い」「―が回復する」

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんきゅう【転宮】(名)（天）太陽が黄道上を移動して、春分点から秋分点へ、秋分点から春分点へ移ること。

てんきゅう【転球】(名)（スポ）ボールを転がすこと。

てんきゅう【転求】(名)（仏）仏法を求めて諸国を遍歴すること。

てんきゅう【転級】(名)（教）学年が進んで、上の級に移ること。

てんきゅう【転給】(名)（経）給与が増すこと。

てんきゅう【転休】(名)（経）休業していた商店などが営業を再開すること。

てんまい-せん【天米】(名) 陳倉の穀倉地帯。

てんまく【天幕】(名) 陣営・行楽などの際に、布などを張って作る仮の小屋。テント。

てんまつ【顚末】(名) 事件などの始めから終わりまでの経過。

てんまつ-しょ【顚末書】(名) 顚末を書いた書類。

てんまつ-ぼう【天秤棒】(名) 荷物をかつぐ棒。

てんまつ-ぼし【天秤星】(名) 天秤座の主星。

てんまつ-ぼん【天秤盆】(名) 天秤の皿。

てんまつ-ゆ【天秤湯】(名) 天秤棒で運ぶ湯。

てんまつ-ゆり【天秤揺り】(名) 天秤棒で荷物をかついで揺り動かすこと。

てんまつ-わり【天秤割】(名) 天秤棒で荷物を運ぶ賃金。

てんまる【天丸】(名) 丸薬。

てんまん【天満】(名) 天満宮。

てんまん-ぐう【天満宮】(名) 菅原道真を祭った神社。

てんまん-ぐう-まいり【天満宮参り】(名) 天満宮に参詣すること。

てんまん-ぐう-もうで【天満宮詣で】(名) 天満宮に参詣すること。

てんまん-ぐう-もうで【天満宮詣

てんそく【垣塞】(名) つつみふさぐこと。又、つつみふさぐもの。

てんそく【垣足】(名) つつみたすこと。ふさぎなびた

てんそんそん【天孫】(名) ❶神の御子孫。❷天孫族

てんたい【天台】(名)【佛】「てんだい」に同じ。

てんだいしゅう【天台宗】(名)【佛】我が日本の佛教の一派。法華經を根本の所依となし、法華經を基として、宗祖智者大師以後其宗の傳燈相續せる天台山の名にちなみて

でんわ[天和]（名）天和の略。

でんわ[殿話]（名）殿様と家来が話すような、堅苦しい言葉遣い。

でんわ[殿輪]（名）車輪の一種。

でんわ[電話]（名）電気信号を利用して、遠隔地の人と話をする装置。

でんわ[電話]（名）電話機を使って話をすること。

でんわ[電話]（名）電話機。

でんわ[電話]（名）電話機。

でんわ[電話]（名）電話機

ページ-ジ索引

ページ-ジ索引

ページ-ジ索引

ページ（名）［page］書物・帳面などの一枚一枚。また、その一面。「―を繰る」「―をめくる」「―をとばす」「―を開く」「―を破る」「―を汚す」「―を折る」「―を読む」「―を書く」「―を飾る」「―を埋める」「―を増やす」「―を減らす」「―を白紙にする」「―を真っ黒にする」「―を真っ赤にする」「―を真っ青にする」「―を真っ白

ちのかみ【地神】(名)「地の神」に同じ。

ちのくち【乳の口】(名)乳房の先端の、乳汁の出る口。乳首。

ちのけ【血の気】(名)❶血液の循環。——が引く　恐怖・驚きなどのために顔色が青ざめる。——が多い　血気盛んである。❷血液の色。

ちのけ【地の気】(名)地面から発する気。

ちのけ【地の毛】(名)❶頭髪。❷地肌に生えている毛。

ちのこ【乳の子】(名)乳飲み子。

ちのこ【血の子】(名)月経。

ちのこ【地の粉】(名)小麦粉。

ちのこ【地の子】(名)❶土地の人。❷土地の産物。

ちのこ【稚の子】(名)幼い子。

ちのこ【智の子】(名)知恵のある人。

ちのこ【智の粉】(名)「ちのこ(地の粉)」に同じ。

ちのこ【血の粉】(名)月経。

ちのこ【乳の粉】(名)乳汁。

ちのこ【稚の粉】(名)「ちのこ(稚の子)」に同じ。

ちのこ【智の粉】(名)「ちのこ(智の子)」に同じ。

ちのこ【血の粉】(名)「ちのこ(血の子)」に同じ。

ちのこ【乳の粉】(名)「ちのこ(乳の子)」に同じ

たちば

立場（名）①立っている場所。「―に困る」②物事を見る時の基準となる位置。「審判の―」③地位。「社長の―」④境遇。「苦しい―」

たちばな

橘（名）①ミカン科の常緑小高木。②紋所の名。

たちばなし

立話（名）立ったままする話。

たちはだかる

立ちはだかる（動ラ五）①立ちふさがる。「行く手に―」②反抗する。「権力に―」

たちばなり

立場（名）「たちば」に同じ。

たちばら

立腹（名）腹を立てること。

たちばん

立番（名）立って番をすること。

たちばんしょ

立番所（名）立番をする人のいる番所。

たちはんぶん

立ち半分（名）①立ったままで半分ほどの姿勢をとること。②相撲で、腰を十分に下ろさないこと。

たちひざ

立ち膝（名）①膝を立てること。②膝を立てた姿勢。

たちびけ

立ち引け（名）①客が帰ること。②芸者などが客の座敷から帰ること。

たちひばち

立ち火鉢（名）立ったままで使う火鉢。

たちびらき

立開き（名）①立ったままで開くこと。②立ったままで開く本。

たちふさがる

立ちふさがる（動ラ五）①立って通れないようにする。「行く手に―」②反抗する。「権力に―」

たちふさぐ

立ちふさぐ（動ガ五）立ちふさがる。

たちふるまい

立ち振る舞い（名）①立ったままでする動作。②身のこなし。態度。

たちぶるまう

立ち振る舞う（動ワ五）①立ったままで動作をする。②身のこなしをする。態度をとる。

たちへん

立ち偏（名）漢字の偏の一。「彳」「辶」などの称。

たちまち

忽ち（副）①すぐに。「―売り切れる」②急に。「―雨が降り出す」

たちまわり

立ち回り（名）①立ったままで動き回ること。②芝居で、殺陣。③警察などの捜査。④相撲で、土俵の中を動き回ること。

たちまわる

立ち回る（動ラ五）①立ったままで動き回る。②芝居で、殺陣をする。③警察などが捜査する。④相撲で、土俵の中を動き回る。

たちみ

立ち見（名）①立ったままで見ること。②劇場などで、立ったままで見る客。

たちみせ

立ち見せ（名）①立ったままで見ること。②劇場などで、立ったままで見る客。

たちむかう

立ち向かう（動ワ五）①立ったままで向かう。②反抗する。「困難に―」

たちもち

立ち持ち（名）①立ったままで持つこと。②立ったままで持つ人。

たちもどる

立ち戻る（動ラ五）①立ったままで戻る。②元の状態に戻る。

たちもの

立ち物（名）①立ったままで演じる芝居。②芝居で、武具。③植木。

たちやく

立役（名）①芝居で、立ったままで演じる役。②芝居で、男の役。

たちゆく

立ち行く（動カ五）①立ったままで行く。②物事がうまくいく。「経営が―」

たちよみ

立ち読み（名）①立ったままで読むこと。②本屋で、買う前に立ったままで本を読むこと。

たちよる

立ち寄る（動ラ五）①立ったままで寄る。②ちょっと寄る。「帰りに―」

たつ

立つ（動タ五）①立ち上がる。「席を―」②出発する。「船が―」③始まる。「幕が―」④目立つ。「人目に―」⑤煙などが上がる。「煙が―」⑥波が起こる。「波が―」⑦角ばる。「角が―」⑧役に立つ。「国の―」⑨成り立つ。「生計が―」⑩決まる。「勝負が―」⑪新聞などに載る。「記事が―」⑫刀などが切れる。「よく―」⑬相撲で、力士が土俵の中央で向かい合う。

たつ

辰（名）①十二支の五番目。②時刻の名。今の午前八時ごろ。③方角の名。東南東。④年の名。

たつ

竜（名）①想像上の動物。②天子の象徴。

たつ

建つ（動タ五）建物ができる。

たつ

絶つ（動タ五）①切る。「縁を―」②なくす。「後顧の憂いを―」③死ぬ。「命を―」

たつ

裁つ（動タ五）布を切る。

たつ

経つ（動タ五）①時間が過ぎる。「月日が―」②年をとる。「―につれ」

たつ

達（名）①学問・技芸などに通じていること。②通知。

たつ

竪（名）①縦。②縦糸。

たつ

縦（名）①縦。②縦糸

ページ—ジページ　1112

ひらがな—カタカナ

ひらがな

ひらがな（名）仮名文字の一つ。漢字の草書体から生まれた。

ひらき（名）開くこと。開いたもの。

ひらき-なおる（動ラ五）急に改まった態度をとる。

ひらき-なおる（動ラ五）急に改まった態度をとる。

ひらき-ど（名）開いた戸。

ひらき-ど（名）開いた戸。

ひらき-なおる（動ラ五）急に改まった態度をとる

ちいさい

ちいさな

ちいさめる

ちえ

ちかい

ちかう

ちかく

ちかごろ

ちかづく

ちかづける

ちかづける

ちかみち

ちから

ちからいし

ちからいれる

ちからがみ

ちからこぶ

ちからざけ

ちからぞえ

ちからもち

ちからわざ

ちきゅう

ちきゅうぎ

ちきゅうぎ

**ちきゅうぎ

ちくご 筑後 [国] 旧国名。今の福岡県の南部。

ちくごがわ 筑後川 [地名] 九州北部を流れる川。

ちくさ 千草 [名] ❶ 多くの草。❷ 多くの色。

ちくさ 千種 [名] ❶ 多くの種類。❷ 多くの色。

ちくさ 茅 [名] ❶ 屋根をふくのに用いる草の総称。❷ 茅葺き屋根の家。

ちくさ 蓄財 [名] 財産をたくわえること。

ちくさい 蓄妻 [名] 妻をたくわえること。

ちくさい 蓄財 [名] 財産をたくわえること。

ちくさく 蓄産 [名] 財産をたくわえること。

ちくさく 畜産 [名] 家畜を飼育して、肉・乳・毛皮などを生産すること。

ちくさくぎょう 畜産業 [名] 畜産を営む事業。

ちくさくぶつ 畜産物 [名] 畜産によって得られる物。

ちくさん 蓄産 [名] 財産をたくわえること。

ちくさん 畜産 [名] 家畜を飼育して、肉・乳・毛皮などを生産すること。

ちくさんぎょう 畜産業 [名] 畜産を営む事業。

ちくさんぶつ 畜産物 [名] 畜産によって得られる物。

ちくし 竹刺 [名] 竹のとげ。

ちくし 竹紙 [名] 竹を原料としてすいた紙。

ちくし 竹矢 [名] 竹で作った矢。

ちくし 竹製 [名] 竹で作ること。また、作ったもの。

ちくし 竹篠 [名] 竹と篠。

ちくし 竹糸 [名] 竹で作った糸。

ちくし 竹刺 [名] 竹のとげ。

ちくし 竹紙 [名] 竹を原料としてすいた紙。

ちくし 竹矢 [名] 竹で作った矢。

ちくし 竹製 [名] 竹で作ること。また、作ったもの。

ちくし 竹篠 [名] 竹と篠。

ちくし 竹糸 [名] 竹で作った糸。

ちくし 筑紫 [地名] 九州の古い呼び名。

ちくしき 竹敷 [名] 竹を敷くこと。また、敷いたもの。

ちくしゃ 蓄舎 [名] 家畜を飼う小屋。

ちくしゃ 畜舎 [名] 家畜を飼う小屋。

ちくしゅ 蓄種 [名] 種をたくわえること。

ちくしゅ 畜種 [名] 家畜の種類。

ちくしゅう 蓄積 [名] ❶ 多くのものをたくわえること。❷ 資本主義社会で、剰余価値が資本として再投下されること。

ちくしょ 蓄書 [名] 書物をたくわえること。

ちくしょ 畜書 [名] 家畜に関する書物。

ちくしょう 畜生 [名] ❶ 人間以外の動物。❷ 人をののしっていう語。

ちくしょうどう 畜生道 [名] 仏教で、六道の一つ。畜生に生まれる世界。

ちくしょく 蓄殖 [名] 財産をたくわえふやすこと。

ちくしょく 畜殖 [名] 家畜を飼いふやすこと。

ちくしん 蓄心 [名] 心をたくわえること。

ちくしん 蓄心 [名] 心をたくわえること。

ちくすい 蓄水 [名] 水をたくわえること。

ちくすいち 蓄水池 [名] 水をたくわえておく池。

ちくすいりょう 蓄水量 [名] 蓄水池にたくわえられる水の量。

ちくせき 蓄積 [名] ❶ 多くのものをたくわえること。❷ 資本主義社会で、剰余価値が資本として再投下されること。

ちくせん 蓄銭 [名] 銭をたくわえること。

ちくせん 蓄銭 [名] 銭をたくわえること。

ちくぜん 筑前 [国] 旧国名。今の福岡県の北西部。

ちくぜんに 筑前煮 [名] 鶏肉と野菜を煮た料理。

ちくぞう 蓄蔵 [名] たくわえること。

ちくぞう 蓄蔵 [名] たくわえること。

ちくだい 逐代 [副] 代を追って。

ちくだい 逐代 [副] 代を追って。

ちくだい 竹台 [名] 竹で作った台。

ちくだい 竹台 [名] 竹で作った台。

ちくたく 逐一 [副] 一つ一つ。

ちくたく 逐一 [副] 一つ一つ。

ちくたん 竹炭 [名] 竹を焼いて作った炭。

ちくたん 竹炭 [名] 竹を焼いて作った炭。

ちくちく [副] ❶ 針などで軽く刺すさま。❷ 言葉などで絶えず攻めるさま。

ちくちく [副] ❶ 針などで軽く刺すさま。❷ 言葉などで絶えず攻めるさま。

ちくちく [副] ❶ 針などで軽く刺すさま。❷ 言葉などで絶えず攻めるさま。

ちくちく [副] ❶ 針などで軽く刺すさま。❷ 言葉などで絶えず攻めるさま。

ちくちくする [動] ❶ 針などで軽く刺す。❷ 言葉などで絶えず攻める。

ちくちくする [動] ❶ 針などで軽く刺す。❷ 言葉などで絶えず攻める。

ちくちくする [動] ❶ 針などで軽く刺す。❷ 言葉などで絶えず攻める。

ちくちくする [動] ❶ 針などで軽く刺す。❷ 言葉などで絶えず攻める。

ちくちくと [副] ❶ 針などで軽く刺すさま。❷ 言葉などで絶えず攻めるさま

さかば—**さかみ**

さかば[坂場]（名）坂の多い場所。

さかばえ[逆生]（名）草木の芽が逆に生えること。

さかばしら[逆柱]（名）床の間の柱の一種で、普通の柱と反対に、木の上の方を下にして立てたもの。

さかばしり[逆走]（名）逆に走ること。

さかばしる[逆走]（自ら四）逆に走る。

さかばな[逆鼻]（名）鼻の穴が上を向いていること。

さかばやし[逆林]（名）木理が逆になっていて、種々の用に供せられない木。

さかばら[逆腹]（名）❶逆産。❷継母。

さかばらい[逆払]（名）❶逆風。❷逆に吹き払うこと。

さかばり[逆張]（名）❶逆に張ること。❷逆に張った物。

さかばる[逆張]（自ら四）逆に張る。

さかばん[逆判]（名）逆に押した判。

さかばんぎり[逆半切]（名）半切を逆に用いること。

さかひ[境]（名）❶さかい。❷所。❸国。

さかひがた[境方]（名）境の方。

さかひがたき[境難]（名）境の難所。

さかひがたし[境難]（形ク）境が難しい。

さかひがたなし[境難無]（形ク）境が難しくない。

さかひがたみ[境難]（名）境が難しいこと。

さかひがたやま[境難山]（名）境の難しい山。

さかひがたやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

さかひがたやまみ[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやま[境難山]（名）境の難しい山のようなこと。

さかひがたやまし[境難山]（形ク）境の難しい山のようだ。

**さかひがたやま

ぬかるみ　名　泥濘。

ぬかるみ-どろ　名　泥濘。

ぬかるみ-の-ぬま　名　泥濘の沼。

ぬかるみ-の-みち　名　泥濘の道。

ぬかるみ-の-よう　名　泥濘のよう。

ぬかるみ-の-よう-な　連体　泥濘のような。

ぬかるみ-の-よう-に　副　泥濘のように。

ぬかるみ-の-よう-な-ぬま　名　泥濘のような沼。

ぬかるみ-の-よう-な-みち　名　泥濘のような道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう　名　泥濘のような様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な道。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう　名　泥濘のような様。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-に　副　泥濘のような様に。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な　連体　泥濘のような様な。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-ぬま　名　泥濘のような様な沼。

ぬかるみ-の-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-よう-な-みち　名　泥濘のような様な

ぬくもり【温もり】(名) ほどよい暖かさ。「―のある人柄」

ぬくもる【温もる】(動ラ五) 暖まる。「日光で―・った石」

ぬぐわれる【拭われる】(動ラ下一) 拭われる。「汗が―」

ぬけあな【抜け穴】(名) ❶抜け出るための穴。❷法律などの盲点をついて、違反にならないようにする方法。「―を探す」

ぬけがけ【抜け駆け】(名) 抜け駆けの罪を犯す。

ぬけがら【抜け殻】(名) ❶脱皮した後の虫の殻。❷中身がなくなったもの。「―のような人」

ぬけだす【抜け出す】(動サ五) ❶抜けて出る。「人ごみから―」❷その場を離れる。「会場を―」❸他よりも優れる。「―・して一位になる」

ぬけぬけ(と)(副) 厚かましくも。「―(と)嘘をつく」

ぬけみち【抜け道】(名) ❶抜けて通る道。❷本筋から外れた方法。「―を考える」

ぬけめ【抜け目】(名) 抜け目のない人。

ぬけめない【抜け目ない】(形) 抜け目ない人。

ぬけもぬけ【抜けも抜け】(副) 抜けも抜け。

ぬける【抜ける】(動カ下一) ❶抜けて出る。「穴から―」❷通り過ぎる。「トンネルを―」❸欠ける。「歯が―」❹取り去られる。「力が―」❺漏れる。「ガスが―」❻優れる。「―・けて美しい」❼(…ぬける)すっかり…する。「読み―」

ぬげる【脱げる】(動ガ下一) 脱げる。「靴が―」

ぬし【主】(名) ❶その物の持ち主。❷その場所を支配する者。「山の―」❸その人。「あの―」

ぬしがち【主がち】(形動) 主がちな人。

ぬしがわり【主変わり】(名) 主変わりする。

ぬしなし【主なし】(形) 主なしの家。

ぬしばしょ【主場所】(名) 主場所。

ぬしゃ【主者】(名) 主者。

ぬしゅ【主】(名) 主。

ぬしゅう【主従】(名) 主従関係。

ぬしゅうかんけい【主従関係】(名) 主従関係。

ぬしゅうのかんけい【主従の関係】(名) 主従の関係。

ぬしゅかんけい【主観】(名) 主観。

ぬしゅかんてき【主観的】(形動) 主観的。

ぬしゅかんてきに【主観的に】(副) 主観的に。

ぬしゅかんてきにみて【主観的に見て】(副) 主観的に見て。

ぬしゅかんてきにみると【主観的に見ると】(副) 主観的に見ると。

ぬしゅかんてきにみれば【主観的に見れば】(副) 主観的に見れば

（ことくさ）[古言草]（名）古言に用ゐる語。

（ことくさ）[言種]（名）言ひ出づる事。

（ことくさ）[言草]（名）言ひ出づる事。

（ことくさ）[言種]（名）言ひ出づる事。

（ことくさ）[言種]（名）言ひ出づる事。

（ことくさ）[言種

とくべつ [特別] (名) ❶他に区別して特に扱うこと。❷普通と異なること。

とくべつかいけい [特別会計] (名) 特別の規定によって設けられる会計。

とくべつこうい [特別行為] (名) 特別の資格を有する者でなければ行うことを得ない行為。

とくべつしゅうしょく [特別就職] (名) 特別の資格を有する者でなければ就職することを得ない官職。

とくべつしょぶんけん [特別処分権] (名) 【法】特別の事情ある場合に、法律の規定によらずして処分する権。

とくべつしんぱんしょ [特別審判所] (名) 【法】特別の事件を審判するために設けられた審判所。

とくべつぜい [特別税] (名) 【法】特別の目的のために課する税。

とくべつそしょう [特別訴訟] (名) 【法】特別の事件を審理するために設けられた訴訟。

とくべつほう [特別法] (名) 【法】特別の事項に関する法律。

とくべつほうしゅう [特別報酬] (名) 特別の事情ある場合に与うる報酬。

とくべつほうりつ [特別法律] (名) 【法】特別の事項に関する法律。

とくべつゆうせんけん [特別優先権] (名) 【法】特別の事情ある場合に認むる優先権。

とくべつよさん [特別予算] (名) 特別の事業のために設けられた予算。

とくべつりょう [特別料] (名) 特別の事情ある場合に徴する料金。

とくべつれい [特別例] (名) 特別の事情ある場合に適用する例。

とくべつれんらくかい [特別連絡会] (名) 特別の事情ある場合に開く連絡会。

とくべつれんらくせん [特別連絡船] (名) 特別の事情ある場合に通ずる連絡船。

とくべつろうどうしゃ [特別労働者] (名) 特別の事情ある場合に使用する労働者。

とくべつわり [特別割] (名) 特別の事情ある場合に割り当てること。

とくべん [得分] (名) ❶利益。利得。❷とりぶん。

とくべん [徳風] (名) 人の徳化による教育の効。

とくべつ [特別] (名) 一般とことなること。普通に異なること。

とくべつかじゅう [特別加重] (名) 【法】特別の場合に科する刑罰の加重。即ち再犯加重以外の加重の総称。

とくべつかんし [特別監視] (名) 【法】仮出獄を許された囚人に科する本刑の刑期内の監視。

とくべつきてい [特別規定] (名) 或事項につき特別に適用する規定。

とくべつぎんこう [特別銀行] (名) 勅令銀行・農業銀行・工業銀行等の称。

とくべつけいかく [特別計画] (名) 特別の規定によって取扱う会計。

とくべつけいやく [特別契約] (名) 特別の条件によりてなす契約。

とくべつけいほう [特別刑法] (名) 特別の事項に関する刑法。

とくべつげんしょう [特別減刑] (名) 【法】特別の場合になる刑罰の減軽。即ち身分減軽・自首減軽・酌量減軽及未遂犯と従犯とに対する減軽以外の減軽の称。

とくべつげんてい [特別限定] (名) 【法】特別に附与せられたる制限。

とくべつさいばんしょ [特別裁判所] (名) 【法】特別訴訟を審理するために設けられた裁判所。

とくべつしけん [特別試験] (名) 【法】普通試験に対し特別の場合に規定せられた試験。例へば生徒・徒弟・職工・其他雇用人・商業使用人・農工其他雇傭の性質上一定の地に永く設住するものに対する試験は、其現在地の裁判所に提起するの訴訟に於ての証拠調べ。

とくべつしゅうにゅう [特別収入] (名) 特別の事情ある場合に得る収入。

とくべつしょうこきん [特別証拠金] (名) 【法】特別の事情ある場合に供する証拠金。

とくべつしょぶん [特別処分] (名) 特別の事情ある場合に為す処分。

とくべつしんぱんしょ [特別審判所] (名) 【法】特別の事件を審判するために設けられた審判所。

とくべつせいきゅう [特別請求] (名) 【法】特別の事情ある場合に為す請求。

とくべつぜいりつ [特別税率] (名) 特別の事情ある場合に課する税率。

とくべつそしょう [特別訴訟] (名) 【法】特別の事件に関する訴訟。

とくべつたいほ [特別逮捕] (名) 【法】特別の事情ある場合に為す逮捕。

とくべつちょうさ [特別調査] (名) 特別の事情ある場合に為す調査。

とくべつちょうてい [特別調停] (名) 【法】特別の事情ある場合に為す調停。

とくべつつうじょう [特別通常] (名) 【法】特別の事情ある場合に為す通常。

とくべつてがた [特別手形] (名) 【法】特別の事情ある場合に為す手形。

とくべつでんぽう [特別電報] (名) 普通の取扱によらざる電報。即ち至急電報・書留電報・同文電報等の如きこれなり。

とくべつにんい [特別任意] (名) 特に任意なること。

とくべつにんい [特別任意] (名) 【法】特別の人を以て職務をつかさどらしむること。

とくべつにんいん [特別任員] (名) 特別の事情ある場合に置く役員。

とくべつにんかん [特別任官] (名) 【法】特別の人を以て官吏に任ずること。

とくべつにんしょう [特別任状] (名) 【法】特別の人を以て官吏に任ずる辞令。

とくべつにんめい [特別任命] (名) 【法】特別の人を以て官吏に任ずること。

とくべつのうぜい [特別納税] (名) 特別の事情ある場合に納むる税。

とくべつはいとう [特別配当] (名) 特別の事情ある場合に為す配当。

とくべつはいとうきん [特別配当金] (名) 特別の事情ある場合に為す配当金。

とくべつはいとうりつ [特別配当率] (名) 特別の事情ある場合に為す配当率。

とくべつはいとうりょう [特別配当料] (名) 特別の事情ある場合に為す配当料。

とくべつはいとうりょう [特別配当量] (名) 特別の事情ある場合に為す配当量

ところ-さだめ [床定] (名) 婚礼にて、新夫婦が座所にて盃をとりかはす儀式。

†ところ-しんく [常] (名) ながくかはらざること。ながく一つところにとどまること。永久不変。恒産。

†ところ-ばなれ [床離] (名) 虫のやまひにて虫と虫とが離れて動かざること。(蠶)

†ところ-じく [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

ところ-ずれ [床擦] (名) 久しく病床にありしため、床にあたれる身体の部分の擦れ傷かして疼き腫ること。(醫)

†ところ-つめ [床詰] (名) 前條に同じ。

†ところ-ところなく [何處無] (副) これと指すべからず、いづれとも然かく感ぜられて、なんとなく。

†ところ-どころ [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

†ところ-なかば [床中] (名) ねどこのうち。

ところ-なつ [常夏] (名) ❶いつも夏にてあるごとき地。❷[植] 野生の唇形科(シソ)の草の名。花のさかりは六七月にして、常よりは秋になるまでにいふ。†——つき [常夏月] (名) 陰暦六月の異称。

†ところ-なつかしらず [常樂] (形、二) 常になつかしく、いつまでもなつかしく。

ところなべ [常滑] (名) 「ところなべ」の略音。——やき [常滑燒] (名) 尾張國知多郡常滑村より出だす陶器。そのほとんど茶器なるより、質粗なれども固く、茶褐色、黄色などにて、釉(うわぐすり)をかけたるもの。

†ところ-なべに [常滑] (副) 永くなめらかにいつも圓滿に。

†ところ-にしき [床錦] (名) 錦を床として花をなしたるもの。

ところ-の-たからもの [床置物] (名) ❶床間のかざりにする物。❷[比] 家の寶となるべき人物。

ところ-の-ま [床間] (名) 室内の上座の方の座にやや高く一段を設けたるところ。もと殿所のたゆなりしが、今は普通の室にも設く。掛物を掛けたるなりともいふ。今は多く掛物又は花瓶などを飾り、正面の壁に掛軸などを掛く。

†ところは [常] (名) 「ところは」に同じ。

ところ-はしら [床柱] (名) 床間の前の柱。多くは他と異なる良材を用ふ。

ところばなれ [床離] (自、ら下二) ❶夫婦互に相心にて離縁す。「おひなれたる女やうく〳〵ところばなれてつひに尼となりて」 ❷[醫] 床より起き出づ。「と。

†ところ-はなれ [床離] (名) 病床より起き出づること。

†ところ-ふさぎ [病塞] [訓] (他、は四) のぶさぐ。

ところ-ぶし [常節] (名) [動] 腹足類中おはぐ科に屬する軟體動物。全體はあはびに似て狹く形もまた小なり。「したたかもの。

ところ-ぶち [床縁] (名) 床間の前の下に横に定めたる

†ところ-ふるなれ [床馴] (自、ら四) 夫婦年久しくつれそふ。

ところ-みせ [床店] (名) ❶たゞ品物を並べるばかりにして人の住まざるみせ。❶特に遠びの山家なる小さき店をいふ。(俗語)

†ところ-めづらし [常珍] (形、二) つねに珍しくつまでもめづらし。「しく。

†ところ-めづらし-に [常珍] (副) いつまでもめづらしく。

ところ-や [床屋] (名) ❶かみゆひどこ。❶轉じて、理髮師。理髮店。「もの。

ところ-やま [床山] (名) 相撲(スマヒ)取の頭を結ふ人。

ところ-やまと [常闇] (名) ❶永久に闇黑なること。(後

†ところ-ゆかし [常] (形、シク) 心ゆかしきこと。

ところ-やぶり [床破] (自) 「ところこはし」の訛。

ところ-やぶる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-やぶる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-ゆん [杜鵑] (名) [動] 「ほととぎす」に同じ。——くわ [杜鵑花] (名) [植] 「つつじ」に同じ。

ところ [床] (名) ❶ねどこ。ふしど。❷ゆか。だん。❸座席。❹家の心。土に家を設ける。❺草の屋根。❻川の下流。❼苗をそだつる所。苗しろ。❽ものごとの始まる所。おかゆのこと。「おかゆのところの始音。❾わざとこの始音。——に-つく [座所] 人る。又、やみて臥す。——を-なほす 病床を設く。

ところ [所] (名) 「ここ」に同じ。「ま 座席を設く。

ところ [稱底] (名) からすうりのこと。

ところ-ところ [獨鈷] (名) 「ところこに同じ。

†ところ— [常] (接頭) 感嘆に冠して、「ところなべ」の意を表す。「一夏」「一花」 「師。

—ところ [床] (接尾) 床屋の屋號の下に添ふ用ふる

ところ-ごと [何處] (代) いづれのところ。いづこ。

ところ-ことば [土語] (名) 其地の土人の使用する言語。

ところ-ころう [土公] (名) 「ところえん(土公神)」に同じ。

ところ-ころう [土工] (名) 土地に關する工事。即ち測量師又は造園師の工事の如きこれなり。

ところ-ころう [土壇] (名) 「ところ(土壇)」に同じ。

†ところ-ところえん [土公神] (名) 「ところえん」に同じ。

†ところ-かざり [床飾] (名) 床間のかざり。

†ところ-かまち [床框] (名) 床間又は座敷のかまち。

†ところ-こころう [利心] (名) よく活動する心。すなはち心。

ところ-さだめ [床定] (名) 婚禮にて、新夫婦が座所にて盃をとりかはす儀式。

†ところ-しんく [常] (名) ながくかはらざること。ながく一つところにとどまること。永久不変。恒産。恒業。

†ところ-ばなれ [床離] (名) 虫のやまひにて虫と虫とが離れて動かざること。(蠶)

†ところ-じく [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

ところ-ずれ [床擦] (名) 久しく病床にありしため、床にあたれる身体の部分の擦れ傷かして疼き腫ること。(醫)

†ところ-つめ [床詰] (名) 前條に同じ。

†ところ-ところなく [何處無] (副) これと指すべからず、いづれとも然かく感ぜられて、なんとなく。

†ところ-どころ [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

†ところ-なかば [床中] (名) ねどこのうち。

ところ-なつ [常夏] (名) ❶いつも夏にてあるごとき地。❷[植] 野生の唇形科(シソ)の草の名。花のさかりは六七月にして、常よりは秋になるまでにいふ。†——つき [常夏月] (名) 陰暦六月の異称。

†ところ-なつかしらず [常樂] (形、二) 常になつかしく、いつまでもなつかしく。

ところなべ [常滑] (名) 「ところなべ」の略音。——やき [常滑燒] (名) 尾張國知多郡常滑村より出だす陶器。そのほとんど茶器なるより、質粗なれども固く、茶褐色、黄色などにて、釉(うわぐすり)をかけたるもの。

†ところ-なべに [常滑] (副) 永くなめらかにいつも圓滿に。

†ところ-にしき [床錦] (名) 錦を床として花をなしたるもの。

ところ-の-たからもの [床置物] (名) ❶床間のかざりにする物。❷[比] 家の寶となるべき人物。

ところ-の-ま [床間] (名) 室内の上座の方の座にやや高く一段を設けたるところ。もと殿所のたゆなりしが、今は普通の室にも設く。掛物を掛けたるなりともいふ。今は多く掛物又は花瓶などを飾り、正面の壁に掛軸などを掛く。

†ところは [常] (名) 「ところは」に同じ。

ところ-はしら [床柱] (名) 床間の前の柱。多くは他と異なる良材を用ふ。

ところばなれ [床離] (自、ら下二) ❶夫婦互に相心にて離縁す。「おひなれたる女やうく〳〵ところばなれてつひに尼となりて」 ❷[醫] 床より起き出づ。「と。

†ところ-はなれ [床離] (名) 病床より起き出づること。

†ところ-ふさぎ [病塞] [訓] (他、は四) のぶさぐ。

ところ-ぶし [常節] (名) [動] 腹足類中おはぐ科に屬する軟體動物。全體はあはびに似て狹く形もまた小なり。「したたかもの。

ところ-ぶち [床縁] (名) 床間の前の下に横に定めたる

†ところ-ふるなれ [床馴] (自、ら四) 夫婦年久しくつれそふ。

ところ-みせ [床店] (名) ❶たゞ品物を並べるばかりにして人の住まざるみせ。❶特に遠びの山家なる小さき店をいふ。(俗語)

†ところ-めづらし [常珍] (形、二) つねに珍しくつまでもめづらし。「しく。

†ところ-めづらし-に [常珍] (副) いつまでもめづらしく。

ところ-や [床屋] (名) ❶かみゆひどこ。❶轉じて、理髮師。理髮店。「もの。

ところ-やま [床山] (名) 相撲(スマヒ)取の頭を結ふ人。

ところ-やまと [常闇] (名) ❶永久に闇黑なること。(後

†ところ-ゆかし [常] (形、シク) 心ゆかしきこと。

ところ-やり [床破] (自) 「ところこはし」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-ゆん [杜鵑] (名) [動] 「ほととぎす」に同じ。——くわ [杜鵑花] (名) [植] 「つつじ」に同じ。

ところ [床] (名) ❶ねどこ。ふしど。❷ゆか。だん。❸座席。❹家の心。土に家を設ける。❺草の屋根。❻川の下流。❼苗をそだつる所。苗しろ。❽ものごとの始まる所。おかゆのこと。「おかゆのところの始音。❾わざとこの始音。——に-つく [座所] 人る。又、やみて臥す。——を-なほす 病床を設く。

ところ [所] (名) 「ここ」に同じ。「ま 座席を設く。

ところ [稱底] (名) からすうりのこと。

ところ-ところ [獨鈷] (名) 「ところこに同じ。

†ところ— [常] (接頭) 感嘆に冠して、「ところなべ」の意を表す。「一夏」「一花」 「師。

—ところ [床] (接尾) 床屋の屋號の下に添ふ用ふる

ところ-ごと [何處] (代) いづれのところ。いづこ。

ところ-ことば [土語] (名) 其地の土人の使用する言語。

ところ-ころう [土公] (名) 「ところえん(土公神)」に同じ。

ところ-ころう [土工] (名) 土地に關する工事。即ち測量師又は造園師の工事の如きこれなり。

ところ-ころう [土壇] (名) 「ところ(土壇)」に同じ。

†ところ-ところえん [土公神] (名) 「ところえん」に同じ。

†ところ-かざり [床飾] (名) 床間のかざり。

†ところ-かまち [床框] (名) 床間又は座敷のかまち。

ところ-こころう [利心] (名) よく活動する心。すなはち心。

ところ-さだめ [床定] (名) 婚禮にて、新夫婦が座所にて盃をとりかはす儀式。

†ところ-しんく [常] (名) ながくかはらざること。ながく一つところにとどまること。永久不変。恒産。恒業。

†ところ-ばなれ [床離] (名) 虫のやまひにて虫と虫とが離れて動かざること。(蠶)

†ところ-じく [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

ところ-ずれ [床擦] (名) 久しく病床にありしため、床にあたれる身体の部分の擦れ傷かして疼き腫ること。(醫)

†ところ-つめ [床詰] (名) 前條に同じ。

†ところ-ところなく [何處無] (副) これと指すべからず、いづれとも然かく感ぜられて、なんとなく。

†ところ-どころ [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

†ところ-なかば [床中] (名) ねどこのうち。

ところ-なつ [常夏] (名) ❶いつも夏にてあるごとき地。❷[植] 野生の唇形科(シソ)の草の名。花のさかりは六七月にして、常よりは秋になるまでにいふ。†——つき [常夏月] (名) 陰暦六月の異称。

†ところ-なつかしらず [常樂] (形、二) 常になつかしく、いつまでもなつかしく。

ところなべ [常滑] (名) 「ところなべ」の略音。——やき [常滑燒] (名) 尾張國知多郡常滑村より出だす陶器。そのほとんど茶器なるより、質粗なれども固く、茶褐色、黄色などにて、釉(うわぐすり)をかけたるもの。

†ところ-なべに [常滑] (副) 永くなめらかにいつも圓滿に。

†ところ-にしき [床錦] (名) 錦を床として花をなしたるもの。

ところ-の-たからもの [床置物] (名) ❶床間のかざりにする物。❷[比] 家の寶となるべき人物。

ところ-の-ま [床間] (名) 室内の上座の方の座にやや高く一段を設けたるところ。もと殿所のたゆなりしが、今は普通の室にも設く。掛物を掛けたるなりともいふ。今は多く掛物又は花瓶などを飾り、正面の壁に掛軸などを掛く。

†ところは [常] (名) 「ところは」に同じ。

ところ-はしら [床柱] (名) 床間の前の柱。多くは他と異なる良材を用ふ。

ところばなれ [床離] (自、ら下二) ❶夫婦互に相心にて離縁す。「おひなれたる女やうく〳〵ところばなれてつひに尼となりて」 ❷[醫] 床より起き出づ。「と。

†ところ-はなれ [床離] (名) 病床より起き出づること。

†ところ-ふさぎ [病塞] [訓] (他、は四) のぶさぐ。

ところ-ぶし [常節] (名) [動] 腹足類中おはぐ科に屬する軟體動物。全體はあはびに似て狹く形もまた小なり。「したたかもの。

ところ-ぶち [床縁] (名) 床間の前の下に横に定めたる

†ところ-ふるなれ [床馴] (自、ら四) 夫婦年久しくつれそふ。

ところ-みせ [床店] (名) ❶たゞ品物を並べるばかりにして人の住まざるみせ。❶特に遠びの山家なる小さき店をいふ。(俗語)

†ところ-めづらし [常珍] (形、二) つねに珍しくつまでもめづらし。「しく。

†ところ-めづらし-に [常珍] (副) いつまでもめづらしく。

ところ-や [床屋] (名) ❶かみゆひどこ。❶轉じて、理髮師。理髮店。「もの。

ところ-やま [床山] (名) 相撲(スマヒ)取の頭を結ふ人。

ところ-やまと [常闇] (名) ❶永久に闇黑なること。(後

†ところ-やり [床破] (自) 「ところこはし」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-ゆん [杜鵑] (名) [動] 「ほととぎす」に同じ。——くわ [杜鵑花] (名) [植] 「つつじ」に同じ。

ところ [床] (名) ❶ねどこ。ふしど。❷ゆか。だん。❸座席。❹家の心。土に家を設ける。❺草の屋根。❻川の下流。❼苗をそだつる所。苗しろ。❽ものごとの始まる所。おかゆのこと。「おかゆのところの始音。❾わざとこの始音。——に-つく [座所] 人る。又、やみて臥す。——を-なほす 病床を設く。

ところ [所] (名) 「ここ」に同じ。「ま 座席を設く。

ところ [稱底] (名) からすうりのこと。

ところ-ところ [獨鈷] (名) 「ところこに同じ。

†ところ— [常] (接頭) 感嘆に冠して、「ところなべ」の意を表す。「一夏」「一花」 「師。

—ところ [床] (接尾) 床屋の屋號の下に添ふ用ふる

ところ-ごと [何處] (代) いづれのところ。いづこ。

ところ-ことば [土語] (名) 其地の土人の使用する言語。

ところ-ころう [土公] (名) 「ところえん(土公神)」に同じ。

ところ-ころう [土工] (名) 土地に關する工事。即ち測量師又は造園師の工事の如きこれなり。

ところ-ころう [土壇] (名) 「ところ(土壇)」に同じ。

†ところ-ところえん [土公神] (名) 「ところえん」に同じ。

†ところ-かざり [床飾] (名) 床間のかざり。

†ところ-かまち [床框] (名) 床間又は座敷のかまち。

ところ-こころう [利心] (名) よく活動する心。すなはち心。

ところ-さだめ [床定] (名) 婚禮にて、新夫婦が座所にて盃をとりかはす儀式。

†ところ-しんく [常] (名) ながくかはらざること。ながく一つところにとどまること。永久不変。恒産。恒業。

†ところ-ばなれ [床離] (名) 虫のやまひにて虫と虫とが離れて動かざること。(蠶)

†ところ-じく [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

ところ-ずれ [床擦] (名) 久しく病床にありしため、床にあたれる身体の部分の擦れ傷かして疼き腫ること。(醫)

†ところ-つめ [床詰] (名) 前條に同じ。

†ところ-ところなく [何處無] (副) これと指すべからず、いづれとも然かく感ぜられて、なんとなく。

†ところ-どころ [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

†ところ-なかば [床中] (名) ねどこのうち。

ところ-なつ [常夏] (名) ❶いつも夏にてあるごとき地。❷[植] 野生の唇形科(シソ)の草の名。花のさかりは六七月にして、常よりは秋になるまでにいふ。†——つき [常夏月] (名) 陰暦六月の異称。

†ところ-なつかしらず [常樂] (形、二) 常になつかしく、いつまでもなつかしく。

ところなべ [常滑] (名) 「ところなべ」の略音。——やき [常滑燒] (名) 尾張國知多郡常滑村より出だす陶器。そのほとんど茶器なるより、質粗なれども固く、茶褐色、黄色などにて、釉(うわぐすり)をかけたるもの。

†ところ-なべに [常滑] (副) 永くなめらかにいつも圓滿に。

†ところ-にしき [床錦] (名) 錦を床として花をなしたるもの。

ところ-の-たからもの [床置物] (名) ❶床間のかざりにする物。❷[比] 家の寶となるべき人物。

ところ-の-ま [床間] (名) 室内の上座の方の座にやや高く一段を設けたるところ。もと殿所のたゆなりしが、今は普通の室にも設く。掛物を掛けたるなりともいふ。今は多く掛物又は花瓶などを飾り、正面の壁に掛軸などを掛く。

†ところは [常] (名) 「ところは」に同じ。

ところ-はしら [床柱] (名) 床間の前の柱。多くは他と異なる良材を用ふ。

ところばなれ [床離] (自、ら下二) ❶夫婦互に相心にて離縁す。「おひなれたる女やうく〳〵ところばなれてつひに尼となりて」 ❷[醫] 床より起き出づ。「と。

†ところ-はなれ [床離] (名) 病床より起き出づること。

†ところ-ふさぎ [病塞] [訓] (他、は四) のぶさぐ。

ところ-ぶし [常節] (名) [動] 腹足類中おはぐ科に屬する軟體動物。全體はあはびに似て狹く形もまた小なり。「したたかもの。

ところ-ぶち [床縁] (名) 床間の前の下に横に定めたる

†ところ-ふるなれ [床馴] (自、ら四) 夫婦年久しくつれそふ。

ところ-みせ [床店] (名) ❶たゞ品物を並べるばかりにして人の住まざるみせ。❶特に遠びの山家なる小さき店をいふ。(俗語)

†ところ-めづらし [常珍] (形、二) つねに珍しくつまでもめづらし。「しく。

†ところ-めづらし-に [常珍] (副) いつまでもめづらしく。

ところ-や [床屋] (名) ❶かみゆひどこ。❶轉じて、理髮師。理髮店。「もの。

ところ-やま [床山] (名) 相撲(スマヒ)取の頭を結ふ人。

ところ-やまと [常闇] (名) ❶永久に闇黑なること。(後

†ところ-やり [床破] (自) 「ところこはし」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-ゆん [杜鵑] (名) [動] 「ほととぎす」に同じ。——くわ [杜鵑花] (名) [植] 「つつじ」に同じ。

ところ [床] (名) ❶ねどこ。ふしど。❷ゆか。だん。❸座席。❹家の心。土に家を設ける。❺草の屋根。❻川の下流。❼苗をそだつる所。苗しろ。❽ものごとの始まる所。おかゆのこと。「おかゆのところの始音。❾わざとこの始音。——に-つく [座所] 人る。又、やみて臥す。——を-なほす 病床を設く。

ところ [所] (名) 「ここ」に同じ。「ま 座席を設く。

ところ [稱底] (名) からすうりのこと。

ところ-ところ [獨鈷] (名) 「ところこに同じ。

†ところ— [常] (接頭) 感嘆に冠して、「ところなべ」の意を表す。「一夏」「一花」 「師。

—ところ [床] (接尾) 床屋の屋號の下に添ふ用ふる

ところ-ごと [何處] (代) いづれのところ。いづこ。

ところ-ことば [土語] (名) 其地の土人の使用する言語。

ところ-ころう [土公] (名) 「ところえん(土公神)」に同じ。

ところ-ころう [土工] (名) 土地に關する工事。即ち測量師又は造園師の工事の如きこれなり。

ところ-ころう [土壇] (名) 「ところ(土壇)」に同じ。

†ところ-ところえん [土公神] (名) 「ところえん」に同じ。

†ところ-かざり [床飾] (名) 床間のかざり。

†ところ-かまち [床框] (名) 床間又は座敷のかまち。

ところ-こころう [利心] (名) よく活動する心。すなはち心。

†ところ-さだめ [床定] (名) 婚禮にて、新夫婦が座所にて盃をとりかはす儀式。

†ところ-しんく [常] (名) ながくかはらざること。ながく一つところにとどまること。永久不変。恒産。恒業。

†ところ-ばなれ [床離] (名) 虫のやまひにて虫と虫とが離れて動かざること。(蠶)

†ところ-じく [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

ところ-ずれ [床擦] (名) 久しく病床にありしため、床にあたれる身体の部分の擦れ傷かして疼き腫ること。(醫)

†ところ-つめ [床詰] (名) 前條に同じ。

†ところ-ところなく [何處無] (副) これと指すべからず、いづれとも然かく感ぜられて、なんとなく。

†ところ-どころ [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

†ところ-なかば [床中] (名) ねどこのうち。

ところ-なつ [常夏] (名) ❶いつも夏にてあるごとき地。❷[植] 野生の唇形科(シソ)の草の名。花のさかりは六七月にして、常よりは秋になるまでにいふ。†——つき [常夏月] (名) 陰暦六月の異称。

†ところ-なつかしらず [常樂] (形、二) 常になつかしく、いつまでもなつかしく。

ところなべ [常滑] (名) 「ところなべ」の略音。——やき [常滑燒] (名) 尾張國知多郡常滑村より出だす陶器。そのほとんど茶器なるより、質粗なれども固く、茶褐色、黄色などにて、釉(うわぐすり)をかけたるもの。

†ところ-なべに [常滑] (副) 永くなめらかにいつも圓滿に。

†ところ-にしき [床錦] (名) 錦を床として花をなしたるもの。

ところ-の-たからもの [床置物] (名) ❶床間のかざりにする物。❷[比] 家の寶となるべき人物。

ところ-の-ま [床間] (名) 室内の上座の方の座にやや高く一段を設けたるところ。もと殿所のたゆなりしが、今は普通の室にも設く。掛物を掛けたるなりともいふ。今は多く掛物又は花瓶などを飾り、正面の壁に掛軸などを掛く。

†ところは [常] (名) 「ところは」に同じ。

ところ-はしら [床柱] (名) 床間の前の柱。多くは他と異なる良材を用ふ。

ところばなれ [床離] (自、ら下二) ❶夫婦互に相心にて離縁す。「おひなれたる女やうく〳〵ところばなれてつひに尼となりて」 ❷[醫] 床より起き出づ。「と。

†ところ-はなれ [床離] (名) 病床より起き出づること。

†ところ-ふさぎ [病塞] [訓] (他、は四) のぶさぐ。

ところ-ぶし [常節] (名) [動] 腹足類中おはぐ科に屬する軟體動物。全體はあはびに似て狹く形もまた小なり。「したたかもの。

ところ-ぶち [床縁] (名) 床間の前の下に横に定めたる

†ところ-ふるなれ [床馴] (自、ら四) 夫婦年久しくつれそふ。

ところ-みせ [床店] (名) ❶たゞ品物を並べるばかりにして人の住まざるみせ。❶特に遠びの山家なる小さき店をいふ。(俗語)

†ところ-めづらし [常珍] (形、二) つねに珍しくつまでもめづらし。「しく。

†ところ-めづらし-に [常珍] (副) いつまでもめづらしく。

ところ-や [床屋] (名) ❶かみゆひどこ。❶轉じて、理髮師。理髮店。「もの。

ところ-やま [床山] (名) 相撲(スマヒ)取の頭を結ふ人。

ところ-やまと [常闇] (名) ❶永久に闇黑なること。(後

†ところ-やり [床破] (自) 「ところこはし」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-ゆん [杜鵑] (名) [動] 「ほととぎす」に同じ。——くわ [杜鵑花] (名) [植] 「つつじ」に同じ。

ところ [床] (名) ❶ねどこ。ふしど。❷ゆか。だん。❸座席。❹家の心。土に家を設ける。❺草の屋根。❻川の下流。❼苗をそだつる所。苗しろ。❽ものごとの始まる所。おかゆのこと。「おかゆのところの始音。❾わざとこの始音。——に-つく [座所] 人る。又、やみて臥す。——を-なほす 病床を設く。

ところ [所] (名) 「ここ」に同じ。「ま 座席を設く。

ところ [稱底] (名) からすうりのこと。

ところ-ところ [獨鈷] (名) 「ところこに同じ。

†ところ— [常] (接頭) 感嘆に冠して、「ところなべ」の意を表す。「一夏」「一花」 「師。

—ところ [床] (接尾) 床屋の屋號の下に添ふ用ふる

ところ-ごと [何處] (代) いづれのところ。いづこ。

ところ-ことば [土語] (名) 其地の土人の使用する言語。

ところ-ころう [土公] (名) 「ところえん(土公神)」に同じ。

ところ-ころう [土工] (名) 土地に關する工事。即ち測量師又は造園師の工事の如きこれなり。

ところ-ころう [土壇] (名) 「ところ(土壇)」に同じ。

†ところ-ところえん [土公神] (名) 「ところえん」に同じ。

†ところ-かざり [床飾] (名) 床間のかざり。

†ところ-かまち [床框] (名) 床間又は座敷のかまち。

ところ-こころう [利心] (名) よく活動する心。すなはち心。

†ところ-さだめ [床定] (名) 婚禮にて、新夫婦が座所にて盃をとりかはす儀式。

†ところ-しんく [常] (名) ながくかはらざること。ながく一つところにとどまること。永久不変。恒産。恒業。

†ところ-ばなれ [床離] (名) 虫のやまひにて虫と虫とが離れて動かざること。(蠶)

†ところ-じく [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

ところ-ずれ [床擦] (名) 久しく病床にありしため、床にあたれる身体の部分の擦れ傷かして疼き腫ること。(醫)

†ところ-つめ [床詰] (名) 前條に同じ。

†ところ-ところなく [何處無] (副) これと指すべからず、いづれとも然かく感ぜられて、なんとなく。

†ところ-どころ [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

†ところ-なかば [床中] (名) ねどこのうち。

ところ-なつ [常夏] (名) ❶いつも夏にてあるごとき地。❷[植] 野生の唇形科(シソ)の草の名。花のさかりは六七月にして、常よりは秋になるまでにいふ。†——つき [常夏月] (名) 陰暦六月の異称。

†ところ-なつかしらず [常樂] (形、二) 常になつかしく、いつまでもなつかしく。

ところなべ [常滑] (名) 「ところなべ」の略音。——やき [常滑燒] (名) 尾張國知多郡常滑村より出だす陶器。そのほとんど茶器なるより、質粗なれども固く、茶褐色、黄色などにて、釉(うわぐすり)をかけたるもの。

†ところ-なべに [常滑] (副) 永くなめらかにいつも圓滿に。

†ところ-にしき [床錦] (名) 錦を床として花をなしたるもの。

ところ-の-たからもの [床置物] (名) ❶床間のかざりにする物。❷[比] 家の寶となるべき人物。

ところ-の-ま [床間] (名) 室内の上座の方の座にやや高く一段を設けたるところ。もと殿所のたゆなりしが、今は普通の室にも設く。掛物を掛けたるなりともいふ。今は多く掛物又は花瓶などを飾り、正面の壁に掛軸などを掛く。

†ところは [常] (名) 「ところは」に同じ。

ところ-はしら [床柱] (名) 床間の前の柱。多くは他と異なる良材を用ふ。

ところばなれ [床離] (自、ら下二) ❶夫婦互に相心にて離縁す。「おひなれたる女やうく〳〵ところばなれてつひに尼となりて」 ❷[醫] 床より起き出づ。「と。

†ところ-はなれ [床離] (名) 病床より起き出づること。

†ところ-ふさぎ [病塞] [訓] (他、は四) のぶさぐ。

ところ-ぶし [常節] (名) [動] 腹足類中おはぐ科に屬する軟體動物。全體はあはびに似て狹く形もまた小なり。「したたかもの。

ところ-ぶち [床縁] (名) 床間の前の下に横に定めたる

†ところ-ふるなれ [床馴] (自、ら四) 夫婦年久しくつれそふ。

ところ-みせ [床店] (名) ❶たゞ品物を並べるばかりにして人の住まざるみせ。❶特に遠びの山家なる小さき店をいふ。(俗語)

†ところ-めづらし [常珍] (形、二) つねに珍しくつまでもめづらし。「しく。

†ところ-めづらし-に [常珍] (副) いつまでもめづらしく。

ところ-や [床屋] (名) ❶かみゆひどこ。❶轉じて、理髮師。理髮店。「もの。

ところ-やま [床山] (名) 相撲(スマヒ)取の頭を結ふ人。

ところ-やまと [常闇] (名) ❶永久に闇黑なること。(後

†ところ-やり [床破] (自) 「ところこはし」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-ゆん [杜鵑] (名) [動] 「ほととぎす」に同じ。——くわ [杜鵑花] (名) [植] 「つつじ」に同じ。

ところ [床] (名) ❶ねどこ。ふしど。❷ゆか。だん。❸座席。❹家の心。土に家を設ける。❺草の屋根。❻川の下流。❼苗をそだつる所。苗しろ。❽ものごとの始まる所。おかゆのこと。「おかゆのところの始音。❾わざとこの始音。——に-つく [座所] 人る。又、やみて臥す。——を-なほす 病床を設く。

ところ [所] (名) 「ここ」に同じ。「ま 座席を設く。

ところ [稱底] (名) からすうりのこと。

ところ-ところ [獨鈷] (名) 「ところこに同じ。

†ところ— [常] (接頭) 感嘆に冠して、「ところなべ」の意を表す。「一夏」「一花」 「師。

—ところ [床] (接尾) 床屋の屋號の下に添ふ用ふる

ところ-ごと [何處] (代) いづれのところ。いづこ。

ところ-ことば [土語] (名) 其地の土人の使用する言語。

ところ-ころう [土公] (名) 「ところえん(土公神)」に同じ。

ところ-ころう [土工] (名) 土地に關する工事。即ち測量師又は造園師の工事の如きこれなり。

ところ-ころう [土壇] (名) 「ところ(土壇)」に同じ。

†ところ-ところえん [土公神] (名) 「ところえん」に同じ。

†ところ-かざり [床飾] (名) 床間のかざり。

†ところ-かまち [床框] (名) 床間又は座敷のかまち。

ところ-こころう [利心] (名) よく活動する心。すなはち心。

†ところ-さだめ [床定] (名) 婚禮にて、新夫婦が座所にて盃をとりかはす儀式。

†ところ-しんく [常] (名) ながくかはらざること。ながく一つところにとどまること。永久不変。恒産。恒業。

†ところ-ばなれ [床離] (名) 虫のやまひにて虫と虫とが離れて動かざること。(蠶)

†ところ-じく [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

ところ-ずれ [床擦] (名) 久しく病床にありしため、床にあたれる身体の部分の擦れ傷かして疼き腫ること。(醫)

†ところ-つめ [床詰] (名) 前條に同じ。

†ところ-ところなく [何處無] (副) これと指すべからず、いづれとも然かく感ぜられて、なんとなく。

†ところ-どころ [常] (名) 「ところなべ」に同じ。

†ところ-なかば [床中] (名) ねどこのうち。

ところ-なつ [常夏] (名) ❶いつも夏にてあるごとき地。❷[植] 野生の唇形科(シソ)の草の名。花のさかりは六七月にして、常よりは秋になるまでにいふ。†——つき [常夏月] (名) 陰暦六月の異称。

†ところ-なつかしらず [常樂] (形、二) 常になつかしく、いつまでもなつかしく。

ところなべ [常滑] (名) 「ところなべ」の略音。——やき [常滑燒] (名) 尾張國知多郡常滑村より出だす陶器。そのほとんど茶器なるより、質粗なれども固く、茶褐色、黄色などにて、釉(うわぐすり)をかけたるもの。

†ところ-なべに [常滑] (副) 永くなめらかにいつも圓滿に。

†ところ-にしき [床錦] (名) 錦を床として花をなしたるもの。

ところ-の-たからもの [床置物] (名) ❶床間のかざりにする物。❷[比] 家の寶となるべき人物。

ところ-の-ま [床間] (名) 室内の上座の方の座にやや高く一段を設けたるところ。もと殿所のたゆなりしが、今は普通の室にも設く。掛物を掛けたるなりともいふ。今は多く掛物又は花瓶などを飾り、正面の壁に掛軸などを掛く。

†ところは [常] (名) 「ところは」に同じ。

ところ-はしら [床柱] (名) 床間の前の柱。多くは他と異なる良材を用ふ。

ところばなれ [床離] (自、ら下二) ❶夫婦互に相心にて離縁す。「おひなれたる女やうく〳〵ところばなれてつひに尼となりて」 ❷[醫] 床より起き出づ。「と。

†ところ-はなれ [床離] (名) 病床より起き出づること。

†ところ-ふさぎ [病塞] [訓] (他、は四) のぶさぐ。

ところ-ぶし [常節] (名) [動] 腹足類中おはぐ科に屬する軟體動物。全體はあはびに似て狹く形もまた小なり。「したたかもの。

ところ-ぶち [床縁] (名) 床間の前の下に横に定めたる

†ところ-ふるなれ [床馴] (自、ら四) 夫婦年久しくつれそふ。

ところ-みせ [床店] (名) ❶たゞ品物を並べるばかりにして人の住まざるみせ。❶特に遠びの山家なる小さき店をいふ。(俗語)

†ところ-めづらし [常珍] (形、二) つねに珍しくつまでもめづらし。「しく。

†ところ-めづらし-に [常珍] (副) いつまでもめづらしく。

ところ-や [床屋] (名) ❶かみゆひどこ。❶轉じて、理髮師。理髮店。「もの。

ところ-やま [床山] (名) 相撲(スマヒ)取の頭を結ふ人。

ところ-やまと [常闇] (名) ❶永久に闇黑なること。(後

†ところ-やり [床破] (自) 「ところこはし」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-やる (他) 「ところこはす」の訛。

ところ-ゆん [杜鵑] (名) [動] 「ほととぎす」に同じ。——くわ [杜鵑花] (名) [植] 「つつじ」に同じ。

ところ [床] (名) ❶ねどこ。ふしど。❷ゆか。だん。❸座席。❹家の心。土に家を設ける。❺草の屋根。❻川の下流。❼苗をそだつる所。苗しろ。❽ものごとの始まる所。おかゆのこと。「おかゆのところの始音。❾わざとこの始音。——に-つく [座所] 人る。又、やみて臥す。——を-なほす 病床を設く。

ところ [所] (名) 「ここ」に同じ。「ま 座席を設く。

ところ [稱底] (名) からすうりのこと。

ところ-ところ [獨鈷] (名) 「ところこに同じ。

†ところ— [常] (接頭) 感嘆に冠して、「ところなべ」の意を表す。「一夏」「一花」 「師。

—ところ [床] (接尾) 床屋

さしえ

さ-しえ【挿絵】(名) 本・雑誌などの内容を説明したり，興味をそえたりするために，文章の間にはさむ絵。

さしおさえ【差し押さえ】(名) 債務者の財産を強制的に保全すること。

さしおさえる【差し押さえる】(他下一) 債務者の財産を強制的に保全する。

さしかえる【差し替える】(他下一) 一度入れたものを抜いて，別のものを入れる。

さしかかる【差しかかる】(自五) ❶ 近くまで行く。「峠に—」 ❷ 時期が近くなる。「試験に—」

さしかける【差しかける】(他下一) 上から覆うようにする。「雨傘を—」

さしかた【差し方】(名) 日が西に傾くこと。「—まで遊ぶ」

さしがね【差し金】(名) ❶ 人を陰であやつること。「—で動く」 ❷ 大工道具の一。直角に曲がった金属の定規。

さしき【挿し木】(名) 植物の枝を切って土にさし，根を出させて，新しい株を作ること。

さしこむ【差し込む】(自五) ❶ 光が入る。「朝日が—」 ❷ 急に痛みを感じる。「胸が—」

さしこむ【挿し込む】(他五) 差し入れる。「鍵を—」

さしころし【刺し殺し】(名) 刺して殺すこと。

さしさわり【差し障り】(名) 都合の悪いこと。「—のない程度に」

さしず【指図】(名) ❶ 指示すること。「—を受ける」 ❷ 指示の内容。「—どおりに動く」

さしだし【差し出し】(名) ❶ 差し出すこと。「—人」 ❷ 郵便物の発送人。

さしだす【差し出す】(他五) ❶ 手前の方へ出す。「手紙を—」 ❷ 郵便物を送る。「速達で—」

さしだにん【差し出人】(名) 郵便物の発送人。

さしつかえ【差し支え】(名) 都合の悪いこと。「—ない程度に」

さしつかえる【差し支える】(自下一) 都合が悪くなる。「仕事に—」

さしつかわす【差し遣わす】(他五) 人を行かせる。

さしつける【差しつける】(他下一) 上から覆うようにする。「雨傘を—」

さしつらぬく【刺し貫く】(他五) 刺して貫く。

さしとめる【差し止める】(他下一) 禁止する。「出入りを—」

さしのべる【差し伸べる】(他下一) 手などを前に出す。「救いの手を—」

さしはさむ【差し挟む】(他五) ❶ 間にはさむ。「本に栞を—」 ❷ 口をはさむ。「異議を—」

さしひかえる【差し控える】(他下一) ❶ 遠慮する。「酒を—」 ❷ 待機する。

さしひき【差し引き】(名) ❶ 引き算。 ❷ 損得。「—ゼロ」

さしひく【差し引く】(他五) ❶ 引き算をする。「給料から税金を—」 ❷ 潮が引く。「潮が—」

さしみ【刺し身】(名) 魚・貝などの生肉を，薄く切ったもの。

さしむかい【差し向かい】(名) 二人が向かい合うこと。「—で話す」

さしむける【差し向ける】(他下一) 人を行かせる。「使者を—」

さしもの【指物】(名) 木材を組み合わせて作った家具。

さしもの【さしもの】(連体) 非常な。「—名人」

さしゃ【車夫】(名) 人力車を引く人。

さしゅ【刺繍】(名) 布地に糸で模様を縫いつけること。

さしょう【査証】(名) 旅券の有効なことを証明すること。

さしょう【詐称】(名) 偽ること。「年齢を—する」

さしょう【差障】(名) 都合の悪いこと。

さしょう【座礁】(名) 船が浅瀬に乗り上げること。

さしょう【裁可】(名) 上位者が，案件を認めること。

さしょう【詐欺】(名) 人をだますこと。

さしょう【砂糖】(名) 甘味料の一。

さしょう【作業】(名) 仕事をすること。

さしょう【作用】(名) ❶ 働くこと。 ❷ 影響を与えること。

さしょう【左傾】(名) 思想が左翼的にな

ねぶそく（名）年齢のわりに十五六歳ほどに見える、十五六歳ほどの年齢。「年齢」（名）年齢。「年令」（名）年齢。「年齢」（名）年齢。

ねぶそく（名）年齢。「年齢」（名）年齢。

ねぶそく（名）年齢。「年齢」（名）年齢。

ねぶそく

ごえ-あらそい【泥鰌】(名) ❶【動】脊椎動物中ときわめて原始的な魚類で、泥中に棲息し、三四寸位、細長く体は円く、淡水に棲み多く泥中に産す。体色にして斑点あり、口辺に六条乃至十条の髭あり、右ヂ、時々水面に出て、空気を呼吸す。(季)❷ごえのように泥中に生じている人又は小官吏をあざけりていう語。——**じる**【泥鰌汁】(名) 一種の料理で、泥鰌を味噌汁の具となしたもの。——**ぜん**【泥鰌膳】(名) 一種の料理で、帝国ホテルにて客(ゲ)に出したもの。——**なべ**【泥鰌鍋】(名) 一種の料理で、浅き土鍋に牛蒡をきざみ入れたる泥鰌を入れ、醤油にて煮(ニ)、其上に豆腐をかけたるもの。——**ぶくろ**【泥鰌袋】(名) ナマコの口の形をしたる袋で、貝などを入れて売る人又は袋。

(ごえもん)【士着】(名) 其土地に住みつきてなる者。「一の人」。

(ごえもん)ゆう【途中】(名) ❶往来のなか。みちなか。途上。❷先方に未だ到着せざる中。ものうけとりかたづけ。❸物事の未だ終了せざる中。はんなか。

(ごえもん)ゆう【杜仲】(名)【植】「とちゅう」に同じ。

(ごえもん)ゆう【土柱】(名)【地】土の柱状をなして上に岩石を頂(イタ)きたるもの。

(ごえもん)ゆう【土中】(名) つちのなか。どちのなか。「一に埋む」。

(ごえもん)ぜんだいき【千千代草】(名)【植】松の異称。

ごえもん-ら【何方】(代) ❶いづち。いづかた。❷いづれ。どれ。

ごえる(他)「こやす」の訛。

(ごえん)【誤嚥】(名) ❶盲腸の炎々しからざるもの。❷盲腸の組織するもの。どちら。

ごえん【五円】(名) 五円の価。「一札」。

ごえん【御縁】(名) 縁の尊敬語。

ごえん【御園】(名) 庭園の尊敬語。

ごえん【碁縁】(名) 碁にて得る縁。

ごえん【誤延】(名) 誤りて延ばすこと。

ごえん【誤演】(名) 誤りて演ずること。

ごえん【誤縁】(名) 誤りて縁を結ぶこと。

ごえん【誤遠】(名) 誤りて遠ざかること。

ごえん【誤園】(名) 誤りて園と書くこと。

ごえん【誤鉛】(名) 誤りて鉛と書くこと。

ごえん【誤煙】(名) 誤りて煙と書くこと。

ごえん【誤塩】(名) 誤りて塩と書くこと。

ごえん【誤猿】(名) 誤りて猿と書くこと。

ごえん【誤園】(名) 誤りて園と書くこと。

ごえん【誤遠】(名) 誤りて遠

ぬかるみ【泥濘】(名) 雨などで地面がどろどろになること。また、その場所。

ぬかれる【抜かれる】(動下一) ぬく(抜)の受身。

ぬき【抜き】(名) ❶抜くこと。❷除くこと。省くこと。❸(接尾的に)…なしで。…を除いて。

ぬきあし【抜き足】(名) 音をたてないように歩くこと。また、その歩き方。

ぬきうち【抜き打ち】(名) ❶刀を抜くと同時に打つこと。❷予告なしに行うこと。

ぬきがき【抜き書き】(名) 必要な箇所だけを書き抜くこと。また、その書いたもの。

ぬきさし【抜き差し】(名) ❶抜いたり差したりすること。❷(「ならない」などの形で)勝手にできること。

ぬきさしならない【抜き差しならない】(連語) 動きがとれない。どうにもならない。

ぬきだす【抜き出す】(動五) ❶抜いて外へ出す。❷選び出す。

ぬきて【抜き手】(名) 泳ぎ方の一。両手を交互に水から抜き出して泳ぐ。

ぬきとる【抜き取る】(動五) ❶抜いて取る。❷盗み取る。

ぬきみ【抜き身】(名) 鞘から抜いた刀。

ぬきんでる【抜きん出る】(動下一) 他よりも特に優れる。

ぬく【抜く】(動五) ❶引き出す。❷除く。❸追い越す。❹(「…ぬく」の形で)最後まで…する。

ぬく【貫く】(動五) ❶突き通す。❷最後まで…する。

ぬく【脱く】(動五) 衣服を脱ぐ。

ぬくい【温い】(形) ぬるい。

ぬくぬく(副) ❶暖かいさま。❷苦労せずに安楽に暮らすさま。

ぬくまる【温まる】(動五) 暖かくなる。

ぬくめる【温める】(動下一) 暖かくする。

ぬぐ【脱ぐ】(動五) 衣服を脱ぐ。

ぬぐ【拭う】(動五) ❶ふきとる。❷(「…ぬぐ」の形で)…しきれない。

ぬぐいさる【拭い去る】(動五) ❶ふきとって除く。❷すっかり忘れる。

ぬぐう【拭う】(動五) ❶ふきとる。❷(「…ぬぐう」の形で)…しきれない。

ぬぐえない【拭えない】(連語) 消すことができない。

ぬぐる【脱ぐる】(動五) 衣服を脱ぐ。

ぬけあな【抜け穴】(名) ❶抜けて通れる穴。❷逃げ道。

ぬけがけ【抜け駆け】(名) ❶抜け駆けすること。❷抜け駆けの者。

ぬけがら【抜け殻】(名) ❶脱皮した後の殻。❷中身のない物。

ぬけだす【抜け出す】(動五) ❶抜けて出る。❷こっそり出る。

ぬけぬけ(副) 厚かましいさま。

ぬけみち【抜け道】(名) ❶抜けて通れる道。❷逃げ道。

ぬけめ【抜け目】(名) ❶抜けている点。❷油断。

ぬけめない【抜け目ない】(形) 油断がない。

ぬける【抜ける】(動下一) ❶抜けて出る。❷なくなる。❸通り過ぎる。

ぬげる【脱げる】(動下一) 脱げる。

ぬし【主】(名) ❶持ち主。❷その場所の支配者。❸(接尾的に)…の人。

ぬし【主】(代名) 相手を指す。

ぬすっと【盗っ人】(名) 盗人。

ぬすびと【盗人】(名) 盗む人。

ぬすみ【盗み】(名) 盗むこと。

ぬすみぎき【盗み聞き】(名) こっそり聞くこと。

ぬすみぐい【盗み食い】(名) こっそり食べること。

ぬすみみる【盗み見る】(動上一) こっそり見る。

ぬすむ【盗む】(動五) ❶盗む。❷こっそりする。

ぬの【布】(名) 織物。

ぬのこ【布子】(名) 綿入れの衣服。

ぬま【沼】(名) 水たまり。

ぬまち【沼地】(名) 沼のある土地。

ぬめり(名) ぬめること。

ぬめる(動五) ぬめりがある。

ぬらす【濡らす】(動五) 濡れるようにする。

ぬらりくらり(副) 態度がはっきりしないさま。

ぬり【塗り】(名) ❶塗ること。❷漆塗り。

ぬりえ【塗り絵】(名) 絵に色を塗ること。

ぬりかえる【塗り替える】(動下一) ❶塗り直す。❷新しくする。

ぬりこめる【塗り込める】(動下一) ❶塗って閉じ込める。❷閉じ込める。

ぬりたて【塗り立て】(名) 塗ったばかり。

ぬりつぶす【塗り潰す】(動五) 塗って消す。

ぬりもの【塗り物】(名) 漆塗りの器物。

ぬりや【塗り屋】(名) 塗装業者。

ぬる【塗る】(動五) ❶塗る。❷(「…ぬる」の形で)…しきる。

ぬるい【温い】(形) ❶温度が低い。❷なまぬるい。

ぬるぬる(副) ❶ぬるぬるするさま。❷なめらかに進むさま。

ぬるま湯【温湯】(名) ❶ぬるい湯。❷なまぬるい状態。

ぬるむ【温む】(動五) ぬるくなる。

ぬるめる【温める】(動下一) ぬるくする。

ぬれぎぬ【濡れ衣】(名) 無実の罪。

ぬれごと【濡れ事】(名) 男女の情事。

ぬれしょく【濡れ色】(名) 濡れたような色。

ぬれて【濡れ手】(名) ❶濡れた手。❷(「濡れ手で粟」の形で)苦労なしに利益を得ること。

ぬれる【濡れる】(動下一) 濡れる。

ね【音】(名) ❶声。❷鳴き声。❸音楽。

ね【値】(名) 値段。

ね【根】(名) ❶植物の根。❷物事の根本。❸(接尾的に)…の根。

ね【寝】(名) 寝ること。

ね【子】(名) 十二支の一。

ねあげ【値上げ】(名) 値段を上げること。

ねあげる【値上げる】(動下一) 値段を上げる。

ねあせ【寝汗】(名) 寝ている間にかく汗。

ねあて【寝当て】(名) 寝ている間に当てること。

ねあわせ【寝合わせ】(名) 寝合わせること。

ねいき【寝息】(名) 寝ている時の呼吸。

ねいす【寝椅子】(名) 寝椅子。

ねいり【寝入り】(名) 寝入ること。

ねいる【寝入る】(動五) 寝入る。

ねうち【値打ち】(名) ❶値段。❷価値。

ねえ(感) 呼びかけ。

ねえさん【姉さん】(名) ❶姉。❷年上の女性。

ねおき【寝起き】(名) 寝ることと起きること。

ねかす【寝かす】(動五) ❶寝かせる。❷使わずにおく。

ねがい【願い】(名) ❶願うこと。❷願い事。

ねがいでる【願い出る】(動下一) 願い出る。

ねがう【願う】(動五) ❶願う。❷(「…ねがう」の形で)…してほしい。

ねがえり【寝返り】(名) ❶寝返ること。❷裏切ること。

ねがえる【寝返る】(動五) ❶寝返る。❷裏切る。

ねかす【寝かす】(動五) ❶寝かせる。❷使わずにおく。

ねかせる【寝かせる】(動下一) ❶寝かす。❷使わずにおく。

ねがた【寝方】(名) 寝る方。

ねがね【願ね】(副) 願うこと。

ねがり【寝刈り】(名) 寝ながら刈ること。

ねがる【寝刈る】(動五) 寝ながら刈る。

ねかわし【寝かわし】(名) 寝かわすこと。

ねかわす【寝かわす】(動五) 寝かわす。

ねかわせる【寝かわせる】(動下一) 寝かわす。

ねき【寝木】(名) 寝ている木。

ねぎ【葱】(名) 葱。

ねぎらい【労い】(名) 労うこと。

ねぎらう【労う】(動五) 労う。

ねぎる【値切る】(動五) 値切る。

ねぐ【寝具】(名) 寝具。

ねぐせ【寝癖】(名) 寝癖。

ねぐち【寝口】(名) 寝口。

ねぐら【塒】(名) ❶鳥の巣。❷寝る場所。

ねぐるしい【寝苦しい】(形) 寝苦しい。

ねこ【猫】(名) 猫。

ねこあし【猫足】(名) 猫足。

ねこいらず【猫いらず】(名) 猫いらず。

ねこかわいがり【猫かわいがり】(名) 猫かわいがり。

ねこぎ【根こぎ】(名) 根こぎ。

ねこぎる【根こぎる】(動五) 根こぎる。

ねこぐるま【猫車】(名) 猫車。

ねこじた【猫舌】(名) 猫舌。

ねこぜ【猫背】(名) 猫背。

ねこそぎ【根こそぎ】(副) 根こそぎ。

ねこだまし【猫だまし】(名) 猫だまし。

ねこなで【猫なで】(名) 猫なで。

ねこなでごえ【猫なで声】(名) 猫なで声。

ねこばば【猫ばば】(名) 猫ばば。

ねこばばする【猫ばばする】(動サ変) 猫ばばする。

ねこまた【猫又】(名) 猫又。

ねこみち【猫道】(名) 猫道。

ねこむ【寝込む】(動五) 寝込む。

ねこやなぎ【猫柳】(名) 猫柳。

ねこんだ【寝込んだ】(連語) 寝込んだ。

ねさがり【根下がり】(名) 根下がり。

ねさがる【根下がる】(動五) 根下がる。

ねさげ【根下げ】(名) 根下げ。

ねさげる【根下げる】(動下一) 根下げる。

ねさす【寝さす】(動五) 寝さす。

ねさせる【寝させる】(動下一) 寝さす。

ねざし【根差し】(名) 根差し。

ねざす【根差す】(動五) 根差す。

ねざめ【寝覚め】(名) 寝覚め。

ねざめる【寝覚める】(動下一) 寝覚める。

ねじ【捩】(名) ❶ねじること。❷ねじれること。

ねじあい【捩じ合い】(名) 捩じ合い。

ねじあう【捩じ合う】(動五) 捩じ合う。

ねじあげる【捩じ上げる】(動下一) 捩じ上げる。

ねじあわせる【捩じ合わせる】(動下一) 捩じ合わせる。

ねじいれる【捩じ入れる】(動下一) 捩じ入れる。

ねじえ【捩じ絵】(名) 捩じ絵。

ねじおる【捩じ折る】(動五) 捩じ折る。

ねじかえす【捩じ返す】(動五) 捩じ返す。

ねじかえる【捩じ返る】(動五) 捩じ返る。

ねじかえる【捩じ返る】(動五) 捩じ返る。

ねじきる【捩じ切る】(動五) 捩じ切る。

ねじきれる【捩じ切れる】(動下一) 捩じ切れる。

ねじくる【捩じくる】(動五) 捩じくる。

ねじこ【捩じ子】(名) 捩じ子。

ねじこむ【捩じ込む】(動五) 捩じ込む。

ねじこめる【捩じ込める】(動下一) 捩じ込める。

ねじさる【捩じ去る】(動五) 捩じ去る。

ねじすえる【捩じ据える】(動下一) 捩じ据える。

ねじすてる【捩じ捨てる】(動下一) 捩じ捨てる。

ねじたおす【捩じ倒す】(動五) 捩じ倒す。

ねじたおる【捩じ倒る】(動五) 捩じ倒る。

ねじたおれる【捩じ倒れる】(動下一) 捩じ倒れる。

ねじたてる【捩じ立てる】(動下一) 捩じ立てる。

ねじつぶす【捩じ潰す】(動五) 捩じ潰す。

ねじつぶる【捩じ潰る】(動五) 捩じ潰る。

ねじつぶれる【捩じ潰れる】(動下一) 捩じ潰れる。

ねじとおす【捩じ通す】(動五) 捩じ通す。

ねじとおる【捩じ通る】(動五) 捩じ通る。

ねじとおれる【捩じ通れる】(動下一) 捩じ通れる。

ねじとばす【捩じ飛ばす】(動五) 捩じ飛ばす。

ねじとばる【捩じ飛ばる】(動五) 捩じ飛ばる。

ねじとばれる【捩じ飛ばれる】(動下一) 捩じ飛ばれる。

ねじとる【捩じ取る】(動五) 捩じ取る。

ねじとれる【捩じ取れる】(動下一) 捩じ取れる。

ねじなおす【捩じ直す】(動五) 捩じ直す。

ねじなおる【捩じ直る】(動五) 捩じ直る。

ねじなおれる【捩じ直れる】(動下一) 捩じ直れる。

ねじのぼる【捩じ上る】(動五) 捩じ上る。

ねじのぼれる【捩じ上れる】(動下一) 捩じ上れる。

ねじはずす【捩じ外す】(動五) 捩じ外す。

ねじはずる【捩じ外る】(動五) 捩じ外る。

ねじはずれる【捩じ外れる】(動下一) 捩じ外れる。

ねじばな【捩じ花】(名) 捩じ花。

ねじばね【捩じ発条】(名) 捩じ発条。

ねじふせる【捩じ伏せる】(動下一) 捩じ伏せる。

ねじまげる【捩じ曲げる】(動下一) 捩じ曲げる。

ねじまわし【捩じ回し】(名) 捩じ回し。

ねじまわす【捩じ回す】(動五) 捩じ回す。

ねじまわる【捩じ回る】(動五) 捩じ回る。

ねじまわれる【捩じ回れる】(動下一) 捩じ回れる。

ねじめ【捩じ目】(名) 捩じ目。

ねじめる【捩じめる】(動下一) 捩じめる。

ねじもどす【捩じ戻す】(動五) 捩じ戻す。

ねじもどる【捩じ戻る】(動五) 捩じ戻る。

ねじもどれる【捩じ戻れる】(動下一) 捩じ戻れる。

ねじやく【捩じ役】(名) 捩じ役。

ねじやる【捩じやる】(動五) 捩じやる。

ねじやれる【捩じやれる】(動下一) 捩じやれる。

ねじゆがめる【捩じ歪める】(動下一) 捩じ歪める。

ねじゆがる【捩じ歪る】(動五) 捩じ歪る。

ねじゆがれる【捩じ歪れる】(動下一) 捩じ歪れる。

ねじゆるむ【捩じ緩む】(動五) 捩じ緩む。

ねじゆるめる【捩じ緩める】(動下一) 捩じ緩める。

ねじゆるる【捩じ緩る】(動五) 捩じ緩る。

ねじゆるれる【捩じ緩れる】(動下一) 捩じ緩れる。

ねじよる【捩じ寄る】(動五) 捩じ寄る。

ねじよれる【捩じ寄れる】(動下一) 捩じ寄れる。

ねじる【捩じる】(動五) ❶ねじる。❷ねじれる。

ねじれ【捩じれ】(名) ねじれること。

ねじれる【捩じれる】(動下一) ねじれる。

ねじろ【根城】(名) 根城。

ねすごす【寝過ごす】(動五) 寝過ごす。

ねすごる【寝過ごる】(動五) 寝過ごる。

ねすごれる【寝過ごれる】(動下一) 寝過ごれる。

ねずみ【鼠】(名) 鼠。

ねずみいろ【鼠色】(名) 鼠色。

ねずみとり【鼠取り】(名) 鼠取り。

ねずみのすみか【鼠の巣】(名) 鼠の巣。

ねずみのふん【鼠の糞】(名) 鼠の糞。

ねずみのみち【鼠の道】(名) 鼠の道。

ねずみのめ【鼠の目】(名) 鼠の目。

ねずみのよめいり【鼠の嫁入り】(名) 鼠の嫁入り。

ねずみのわたり【鼠の渡り】(名) 鼠の渡り。

ねずみのわたりどり【鼠の渡り鳥】(名) 鼠の渡り鳥。

ねずみのわたりどりのみち【鼠の渡り鳥の道】(名) 鼠の渡り鳥の道。

ねずみのわたりどりのめ【鼠の渡り鳥の目】(名) 鼠の渡り鳥の目。

ねずみのわたりどりのよめいり【鼠の渡り鳥の嫁入り】(名) 鼠の渡り鳥の嫁入り。

ねずみのわたりどりのわたり【鼠の渡り鳥の渡り】(名) 鼠の渡り鳥の渡り。

ねずみのわたりどりのわたりどり【鼠の渡り鳥の渡り鳥】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥。

ねずみのわたりどりのわたりどりのみち【鼠の渡り鳥の渡り鳥の道】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の道。

ねずみのわたりどりのわたりどりのめ【鼠の渡り鳥の渡り鳥の目】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の目。

ねずみのわたりどりのわたりどりのよめいり【鼠の渡り鳥の渡り鳥の嫁入り】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の嫁入り。

ねずみのわたりどりのわたりどりのわたり【鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り。

ねずみのわたりどりのわたりどりのわたりどり【鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥。

ねずみのわたりどりのわたりどりのわたりどりのみち【鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の道】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の道。

ねずみのわたりどりのわたりどりのわたりどりのめ【鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の目】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の目。

ねずみのわたりどりのわたりどりのわたりどりのよめいり【鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の嫁入り】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の嫁入り。

ねずみのわたりどりのわたりどりのわたりどりのわたり【鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の渡り】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の渡り。

ねずみのわたりどりのわたりどりのわたりどりのわたりどり【鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥。

ねずみのわたりどりのわたりどりのわたりどりのわたりどりのみち【鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の道】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の道。

ねずみのわたりどりのわたりどりのわたりどりのわたりどりのめ【鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の目】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の目。

ねずみのわたりどりのわたりどりのわたりどりのわたりどりのよめいり【鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の嫁入り】(名) 鼠の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の渡り鳥の嫁入り。

ちゃくしゅ【着手】(名)(自サ)仕事などに取りかかること。「―金」

ちゃくしゅつ【着出】(名)(自サ)(古)出発すること。

ちゃくしょく【着色】(名)(自サ)色をつけること。「―料」

ちゃくしん【着信】(名)(自サ)郵便物・電報などが届くこと。「―人」

ちゃくしん【着心】(名)(自サ)(古)気にかけること。

ちゃくすい【着水】(名)(自サ)飛行機などが水面に降りること。

ちゃくせき【着席】(名)(自サ)席につくこと。

ちゃくそう【着想】(名)(自サ)考えを思いつくこと。また、その考え。「―を得る」

ちゃくそう【着装】(名)(自サ)衣服を着ること。また、その衣服。

ちゃくそう【着床】(名)(自サ)受精卵が子宮内膜に定着すること。

ちゃくだつ【着脱】(名)(自サ)着ることと脱ぐこと。

ちゃくち【着地】(名)(自サ)❶空中から地面に降りること。❷(比喩的に)物事が落ち着くこと。「―点」

ちゃくちゃく【着着】(副)物事が順調に進むさま。「―と準備を進める」

ちゃくちゃく【嫡嫡】(名)(古)嫡子。

ちゃくちゃく【嫡嫡】(名)(古)嫡子。

のものの略言。回とびくちの略言。——おたふく 凡そ口の大きく頬が丸くふくれた女の子供を生じやすい病気。

とび-いし [飛石] (名) 庭などに少しづゝ離して打ち据ゑた石。又、小川などに少しづゝ離して渡らうために打ち込んだ石。共に其上を歩行くもの。——づたい [飛石伝] (名) 飛石の上を歩行くこと。

とび-うお [飛魚] (名) 頭部が鳥の嘴の如く尖り、胸鰭が翼の如く発達して居て、水面を飛行する魚。背部は青黒色にして腹部は白色なり。體長一尺許に達す。我國近海に多し。文鰩魚。

とび-の-く [飛退] (自、か四) 急に身をかはして退く。

とび-の-もの [速者] (名) 急ぎの用を持つて走る人。足の速い人。

とび-のり [飛乗] (名) 動いて居る車に乗ること。又、人力車の一。

とびの-を [尾] (名) 牛車の名所(などころ)の一に出でたるながえの如きもの。とみのを。

とび-ばし [飛橋] (名) 渡り石。

とび-ばしら [土柱] (名) 土砂の崩れ落ちないやうに、土中に打ち込んだ杭。

とび-ばしり [飛走] (名) 飛ぶやうに走ること。

とび-ばな [飛鼻] (名) 鼻汁の飛び出すこと。

とび-ばり [飛張] (名) 戸障子などの開閉を防ぐ爲に、上部に取り付けた横木。

とび-ひ [飛火] (名) ❶火災の時、火の子の飛び散つて他にも移るもの。❷すべて火の子の飛びたるもの、喩。❸一種の皮膚病。周圍に紅斑ある小豆大のホゾくれを生じ、悪化すればだんだんに潰瘍を生じ、悪臭を放つ。

とび-ひき [飛引] (名) 相撲の手の一。

とび-ひざ [飛膝] (名) 膝の病の一。膝関節の内部に水腫を生じ、膝蓋骨が浮動して膝関節の外面を打つもの。

とび-ひと [飛人] (名) ❶他より入つた雑(ざつ)人。又、其もの。❷不意に加はり入る人。又、其もの。「——がある」 ——ずまふ [飛入相撲] (名) 誰にても随意に加はり入りて取ることを許す相撲。飛入の人の取る相撲。

とび-いろ [茶色] (名) 茶の羽の色。茶褐色。

とび-うめ [飛梅] (名) 菅原道真左遷せられて家を出づるとき、家飛び来りて梅の花、主なしとて、寄なわすれそとよめるに、其梅つひに配所なる筑紫に飛び行きたりといふ故事。

とび-うを [飛魚] (名) [動] とびのうをに同じ。

とび-おり [飛下] (自、ら上二) ❶高きところより飛び下る。「高座を——」❷急に身をかはして下る。

とび-かか・る [飛掛] (自、ら四) 身をとどろかして其ものにとりつかんとす。

とび-かく [飛書] (他、か下二) ❶とびかくとに同じ。❷とびかはとに同じ。

とび-かけ (名) とびかくとに同じ。

とび-かけ・る [飛翔] (自、ら四) 高く空中に飛び行く。

とび-かふ [飛交] (自、は四) 互に飛びちがふ。

とび-きた・る [飛来] (自、ら四) ❶とびて其所に到る。❷不意に其所に到る。

とび-きり [飛切] (名) ❶高く身をとどろかして跳ぶこと。❷極上。極上無類。

とび-くち [跡口] (名) 箱形類の用具、箱の先端にある蓋の類(たぐひ)の如きものを開くつまみ。

とび-くら [飛鞍] (名) 乗馬の際、鞍に手をかけ、ひらりと飛び乗ること。又、其鞍。

とび-ぐるま [飛車] (名) 将棋の駒の一。敵陣に入れば竜王となる。

とび-こえ [飛越] (名) とびこゆること。

とびこと [飛言] (名) 囲碁の試合者。

とび-こ・す [飛越] (他、さ四) ❶とびて其上を過ぎ去る。❷飛びて其上をすぐ。❸飛びて先へ進む。順をこゝにて上へのぼる。

とび-こみ [飛込] (名) とびこむこと。

とび-こ・む [飛込] (自、ま四) ❶身をとどろかして其中に身を投ず。❷突然に入る。

とび-こ・ゆ [飛越] (他、や下二) とびこすに同じ。

とび-さ・る [飛去] (自、ら四) 飛びて其所を去る。

とび-さが・る [飛下] (自、ら四) 急に身をかはして下にさがる。

とび-しょうぎ [飛将棋] (名) 将棋のさし方、雙方共に三つ宛三段に駒をならべ、互に駒を一つ、進まきて敵の駒と合ふるときは、これをとびこえ、早く敵の陣地に自分の駒をもとのさまにならべたる方を勝とす。

とび-スゴロク [飛双六] (名) 雙六の一種。道中雙六の如く順を追はず、各賭點に采の目により各所を越して、互に飛越して行くべき所を定めたるに拠りて、互に飛ばしてあるもの。

とび-だるま [飛道具] (名) 遠くより飛ばして敵を殺傷する武器。即ち弓矢・鉄砲の類。

とび-だけ [棚竹] (名) 棚にする竹。又、棚にわたしたる竹。

とび-た・つ [飛立] (自、た四) 身をとどろかして飛び立つ。

とび-たて [飛立] (名、副) 数羽の鳥に拠りて、一羽ずつ飛び立つこと。

とび-ち [飛地] (名) 一所にまとまらず又は自己の住居より離れて飛越越越に散在する領地。

とび-ちが・ふ [飛違] (自、は四) ❶とびかふ。❷かけちがふ。❸かけちがはなる。「ちがう。」

とび-ちら・る [飛散] (自、ら四) とびてみだれちる。

とび-つ [土蛄] (名) ❶[俗]「つくゝぼうし」に同じ。❷蟋蟀。「ぴたつとび」

とび-つき [飛月毛] (名) 馬の毛色。赤色を帯びたる黒毛。

とび-つ・く [飛附] (自、か四) 身をとどろかして其ものに手を掛く。

とびて-たて [飛出] (自、た下一) ❶急にとびて出づ。❷特にとびて出づ。

とび-とび [飛飛] (名、副) ❶ところ〴〵に離れてあるさまにいふ語。❷此處彼處と回を隔てゝ、なすさまにいふ語。

とび-にんそく [速人足] (名) とびのもの。

とび-の-うを [飛魚] (名) [動] 鰹の類。中央を縦に扁く頭部は圓錐状をなし、頭部細長く、胸鰭長大にして海面を超ゆる翼の如く、よく水を離れて空気中を飛行す。背部は青黒色にして腹部は白色なり。體長一尺許に達す。我國近海に多し。文鰩魚。

とび-の-く [飛退] (自、か四) 急に身をかはして退く。

とび-の-もの [速者] (名) 急ぎの用を持つて走る人。足の速い人。

とび-のり [飛乗] (名) ❶身をとどろかして其上に乗りかゝること。❷とびくに乗ること。人力車の一。

とびの-を [尾] (名) 牛車の名所(などころ)の一に出でたるながえの如きもの。とみのを。

とび-ばし [飛橋] (名) 渡り石。

とび-ばしら [土柱] (名) 土砂の崩れ落ちないやうに、土中に打ち込んだ杭。

とび-ばしり [飛走] (名) 飛ぶやうに走ること。

とび-ばな [飛鼻] (名) 鼻汁の飛び出すこと。

とび-ばり [飛張] (名) 戸障子などの開閉を防ぐ爲に、上部に取り付けた横木。

とび-ひ [飛火] (名) ❶火災の時、火の子の飛び散つて他にも移るもの。❷すべて火の子の飛びたるもの、喩。❸一種の皮膚病。周圍に紅斑ある小豆大のホゾくれを生じ、悪化すればだんだんに潰瘍を生じ、悪臭を放つ。

とび-ひき [飛引] (名) 相撲の手の一。

とび-ひざ [飛膝] (名) 膝の病の一。膝関節の内部に水腫を生じ、膝蓋骨が浮動して膝関節の外面を打つもの。

とび-ひと [飛人] (名) ❶他より入つた雑(ざつ)人。又、其もの。❷不意に加はり入る人。又、其もの。「——がある」 ——ずまふ [飛入相撲] (名) 誰にても随意に加はり入りて取ることを許す相撲。飛入の人の取る相撲。

とび-いろ [茶色] (名) 茶の羽の色。茶褐色。

とび-うめ [飛梅] (名) 菅原道真左遷せられて家を出づるとき、家飛び来りて梅の花、主なしとて、寄なわすれそとよめるに、其梅つひに配所なる筑紫に飛び行きたりといふ故事。

とび-うを [飛魚] (名) [動] とびのうをに同じ。

とび-おり [飛下] (自、ら上二) ❶高きところより飛び下る。「高座を——」❷急に身をかはして下る。

とび-かか・る [飛掛] (自、ら四) 身をとどろかして其ものにとりつかんとす。

とび-かく [飛書] (他、か下二) ❶とびかくとに同じ。❷とびかはとに同じ。

とび-かけ (名) とびかくとに同じ。

とび-かけ・る [飛翔] (自、ら四) 高く空中に飛び行く。

とび-かふ [飛交] (自、は四) 互に飛びちがふ。

とび-きた・る [飛来] (自、ら四) ❶とびて其所に到る。❷不意に其所に到る。

とび-きり [飛切] (名) ❶高く身をとどろかして跳ぶこと。❷極上。極上無類。

とび-くち [跡口] (名) 箱形類の用具、箱の先端にある蓋の類(たぐひ)の如きものを開くつまみ。

とび-ぐら [飛鞍] (名) 乗馬の際、鞍に手をかけ、ひらりと飛び乗ること。又、其鞍。

とび-ぐるま [飛車] (名) 将棋の駒の一。敵陣に入れば竜王となる。

とび-こえ [飛越] (名) とびこゆること。

とびこと [飛言] (名) 囲碁の試合者。

とび-こ・す [飛越] (他、さ四) ❶とびて其上を過ぎ去る。❷飛びて其上をすぐ。❸飛びて先へ進む。順をこゝにて上へのぼる。

とび-こみ [飛込] (名) とびこむこと。

とび-こ・む [飛込] (自、ま四) ❶身をとどろかして其中に身を投ず。❷突然に入る。

とび-こ・ゆ [飛越] (他、や下二) とびこすに同じ。

とび-さ・る [飛去] (自、ら四) 飛びて其所を去る。

とび-さが・る [飛下] (自、ら四) 急に身をかはして下にさがる。

とび-しょうぎ [飛将棋] (名) 将棋のさし方、雙方共に三つ宛三段に駒をならべ、互に駒を一つ、進まきて敵の駒と合ふるときは、これをとびこえ、早く敵の陣地に自分の駒をもとのさまにならべたる方を勝とす。

とび-スゴロク [飛双六] (名) 雙六の一種。道中雙六の如く順を追はず、各賭點に采の目により各所を越して、互に飛越して行くべき所を定めたるに拠りて、互に飛ばしてあるもの。

とび-だるま [飛道具] (名) 遠くより飛ばして敵を殺傷する武器。即ち弓矢・鉄砲の類。

とび-だけ [棚竹] (名) 棚にする竹。又、棚にわたしたる竹。

とび-た・つ [飛立] (自、た四) 身をとどろかして飛び立つ。

どくん【土訓】(名) つちくんに同じ。

どくんぐん【土訓群】(名) 土訓の多きこと、群の如きこと。

どくんしょ【土訓書】(名) 土訓を載せたる書。

どくんしょう【土訓抄】(名) 土訓を集めたる書。

どけ【退】(接頭) 動詞に冠して、退ける意を表す。「——ぞく」「——ぞける」

どけい【土圭】(名) 日影を測りて、時を知る器。

どけい【土形】(名) 土にて作りたる形。

どけい【土刑】(名) 土中に埋めて殺す刑。

どけい【土偶】(名) 土にて作りたる偶人。

どけい【土計】(名) 土木の工事の計算。

どけい【土系】(名) 土地の系統。

どけい【土径】(名) 土にて作りたる径路。

どけい【土兄】(名) 土の精。

どけい【土形】(名) 土にて作りたる形。

どけい【土敬】(名) 土の神を敬ふこと。

どけい【土経】(名) 土木工事の経営。

どけい【土継】(名) 土にて作りたる継ぎ目。

どけい【土計】(名) 土木工事の計画

さはさ-しょうぐんショウ [遮莫将軍] (名) 遮莫の漢字に宛て又は賭事したる者にて、手柔よりの意意に

さはし [遮] (名) 遮ること。

さはし-ぎ [遮木] (名) ❶時(ヲリ)又は船に設けたる鳥のとまる横木。(宿木)。❷轎にて轅判所の法廷又は警察署の番所に"番理を受くるもの

さはし-ばん [遮番] (名) とまれる客人。(宿客)。

さはし-ばん [遮番] (名) 交番して官署にとまり夜を守ること。

さはし-ぶね [遮船] (名) 宿泊してある船。

さはし-やど [遮山] (名) 狩猟にて山中に宿すること。

さはさ-しょうぐんショウ [遮莫将軍] (名) 遮莫の漢字に宛て又は賭事したる者にて、手柔よりの意意に

さはし [遮] (名) 遮ること。

さはし-ぎ [遮木] (名) ❶時(ヲリ)又は船に設けたる鳥のとまる横木。(宿木)。❷轎にて轅判所の法廷又は警察署の番所に"番理を受くるもの

さはし-ばん [遮番] (名) とまれる客人。(宿客)。

さはし-ばん [遮番] (名) 交番して官署にとまり夜を守ること。

さはし-ぶね [遮船] (名) 宿泊してある船。

さはし-やど [遮山] (名) 狩猟にて山中に宿すること。

さはさ-しょうぐんショウ [遮莫将軍] (名) 遮莫の漢字に宛て又は賭事したる者にて、手柔よりの意意に

さはし [遮] (名) 遮ること。

さはし-ぎ [遮木] (名) ❶時(ヲリ)又は船に設けたる鳥のとまる横木。(宿木)。❷轎にて轅判所の法廷又は警察署の番所に"番理を受くるもの

さはし-ばん [遮番] (名) とまれる客人。(宿客)。

さはし-ばん [遮番] (名) 交番して官署にとまり夜を守ること。

さはし-ぶね [遮船] (名) 宿泊してある船。

さはし-やど [遮山] (名) 狩猟にて山中に宿すること。

さはし-ぎ [遮木] (名) ❶時(ヲリ)又は船に設けたる鳥のとまる横木。(宿木)。❷轎にて轅判所の法廷又は警察署の番所に"番理を受くるもの

さはし-ばん [遮番] (名) とまれる客人。(宿客)。

さはし-ばん [遮番] (名) 交番して官署にとまり夜を守ること。

さはし-ぶね [遮船] (名) 宿泊してある船。

さはし-やど [遮山] (名) 狩猟にて山中に宿すること。

ぬきあし　抜き足　(名)　音を立てないように歩くこと。

ぬきうち　抜き打ち　(名)　予告なしに行うこと。

ぬきがき　抜き書き　(名)　(他サ)　必要な部分を書き抜くこと。

ぬきさし　抜き差し　(名)　抜いたり差したりすること。

ぬきさしならない　抜き差しならない　(連語)　どうにもならない。

ぬきて　抜き手　(名)　泳ぎ方の一つ。

ぬきとる　抜き取る　(他五)　抜いて取る。

ぬきみ　抜き身　(名)　刀剣のさやから抜いた刀身。

ぬきんでる　抜きん出る　(自下一)　他より特に優れる。

ぬく　抜く　(他五)　①引いて取る。②除く。③追い越す。④(自)(動詞の連用形に付いて)最後までやりとおす。

ぬく　貫く　(他五)　貫通する。

ぬく　脱く　(他五)　衣服を脱ぐ。

ぬく　(自五)　暖かくなる。

ぬくい　(形)　暖かい。

ぬくぬく　(副)　(自サ)　暖かいさま。

ぬくまる　(自五)　暖まる。

ぬくめる　(他下一)　暖める。

ぬぐ　脱ぐ　(他五)　衣服を脱ぐ。

ぬぐ　拭う　(他五)　拭き取る。

ぬぐう　(他五)　拭き取る。

ぬぐいさる　拭い去る　(他五)　拭って取り去る。

ぬぐいとる　拭い取る　(他五)　拭って取る。

ぬぐう　(他五)　拭き取る。

ぬくもり　(名)　暖かいこと。

ぬけあな　抜け穴　(名)　①抜けた穴。②逃げ道。

ぬけがけ　抜け駆け　(名)　(自サ)　①抜け駆け。②抜け駆けの者。

ぬけがら　抜け殻　(名)　①脱皮した後の殻。②中身のない物。

ぬけだす　抜け出す　(自五)　抜けて出る。

ぬけぬけ　(副)　(自サ)　厚かましいさま。

ぬけみち　抜け道　(名)　①抜け穴。②近道。

ぬけめ　抜け目　(名)　抜け目。

ぬけめない　抜け目ない　(形)　抜け目がない。

ぬけもの　抜け者　(名)　①抜けた者。②ばか者。

ぬけるような　抜けるような　(連語)　非常に白い。

ぬし　主　(名)　①持ち主。②主人。③(接尾)(人を表す語に付いて)その人。

ぬし　(名)　①主人。②持ち主。

ぬすっと　盗っ人　(名)　泥棒。

ぬすびと　盗人　(名)　泥棒。

ぬすみ　盗み　(名)　盗むこと。

ぬすみぎき　盗み聞き　(名)　(他サ)　こっそり聞くこと。

ぬすみぐい　盗み食い　(名)　(他サ)　こっそり食べること。

ぬすみみる　盗み見る　(他上一)　こっそり見る。

ぬすむ　盗む　(他五)　①盗む。②こっそりする。

ぬた　(名)　酢味噌和え。

ぬの　布　(名)　織物。

ぬのめ　布目　(名)　布の織り目。

ぬま　沼　(名)　沼。

ぬまち　沼地　(名)　沼地。

ぬめり　(名)　ぬめること。

ぬめる　(自五)　ぬめる。

ぬらす　濡らす　(他五)　濡らす。

ぬらりくらり　(副)　(自サ)　のらくらするさま。

ぬり　塗り　(名)　塗ること。

ぬりえ　塗り絵　(名)　塗り絵。

ぬりかえる　塗り替える　(他下一)　塗り替える。

ぬりこめる　塗り込める　(他下一)　塗り込める。

ぬりたくる　塗りたくる　(他五)　塗りたくる。

ぬりつぶす　塗りつぶす　(他五)　塗りつぶす。

ぬりもの　塗り物　(名)　漆塗りの器物。

ぬる　塗る　(他五)　塗る。

ぬるい　(形)　①温い。②生ぬるい。

ぬるぬる　(副)　(自サ)　ぬるぬるするさま。

ぬるま湯　(名)　ぬるま湯。

ぬるむ　(自五)　ぬるくなる。

ぬれぎぬ　濡れ衣　(名)　無実の罪。

ぬれる　濡れる　(自下一)　濡れる。

ぬんちゃく　ヌンチャク　(名)　ヌンチャク。

ね　音　(名)　①音。②泣き声。

ね　値　(名)　値段。

ね　根　(名)　①根。②根本。③(接尾)(数を表す語に付いて)根。

ね　(名)　①根。②根本。

ねあがり　値上がり　(名)　(自サ)　値上がり。

ねあげ　値上げ　(名)　(他サ)　値上げ。

ねあせ　寝汗　(名)　寝汗。

ねいき　寝息　(名)　寝息。

ねいす　寝椅子　(名)　寝椅子。

ねいり　寝入り　(名)　寝入り。

ねいる　寝入る　(自五)　寝入る。

ねうち　値打ち　(名)　値打ち。

ねえさん　姉さん　(名)　①姉さん。②女の人。

ねおし　寝押し　(名)　(他サ)　寝押し。

ねかす　寝かす　(他五)　①寝かす。②(酒などを)熟成させる。

ねがい　願い　(名)　①願い。②願い事。

ねがう　願う　(他五)　①願う。②(自)(動詞の連用形に付いて)…してほしいと思う。

ねがえり　寝返り　(名)　(自サ)　寝返り。

ねがえる　寝返る　(自五)　寝返る。

ねがお　寝顔　(名)　寝顔。

ねかす　寝かす　(他五)　①寝かす。②(酒などを)熟成させる。

ねがた　寝方　(名)　寝方。

ねかた　寝かた　(名)　寝かた。

ねがって　願って　(連語)　願ってもない。

ねがわくは　願わくは　(副)　願わくは。

ねがわしい　願わしい　(形)　願わしい。

ねがわない　願わない　(連語)　願わない。

ねがわぬ　願わぬ　(連語)　願わぬ。

ねがわれる　願われる　(自下一)　願われる。

ねがわれる　願われる　(自下一)　願われる。

ねがわれる　願われる　(自下一)　願われる

ページ[名] 書物・帳面などの一枚一枚の面。また、その数え方。「—を繰る」「—をめくる」「—を開く」「—を追う」「—を飛ばす」「—を破る」「—を汚す」「—を折る」「—を読む」「—を書く」「—を写す」「—を増やす」「—を減らす」「—を数える」「—を揃える」「—を綴じる」「—を抜く」「—を入れる」「—を落とす」「—を埋める」「—を白くする」「—を黒くする」「—を赤くする」「—を青くする」「—を緑にする」「—を茶にする」「—を灰にする」「—を紫にする」「—を橙にする」「—を桃にする」「—を金にする」「—を銀にする」「—を銅にする」「—を鉄にする」「—を鉛にする」「—を錫にする」「—を亜鉛にする」「—を水銀にする」「—を白金にする」「—を真鍮にする」「—を青銅にする」「—を合金にする」「—を溶かす」「—を固める」「—を冷やす」「—を温める」「—を沸かす」「—を蒸発させる」「—を凝縮する」「—を昇華する」「—を結晶化する」「—を析出する」「—を電解する」「—を酸化する」「—を還元する」「—を中和する」「—を滴定する」「—を分析する」「—を合成する」「—を触媒する」「—を重合する」「—を縮合する」「—を付加する」「—を置換する」「—を脱離する」「—を転位する」「—を異性化する」「—を環化する」「—を開環する」「—を閉環する」「—を架橋する」「—を分解する」「—を発酵する」「—を腐敗する」「—を醸造する」「—を蒸留する」「—を抽出する」「—を精製する」「—を乾燥する」「—を粉砕する」「—を篩分する」「—を混合する」「—を攪拌する」「—を遠心分離する」「—を濾過する」「—を透析する」「—を電気泳動する」「—を吸着する」「—を脱着する」「—を溶媒抽出する」「—を向流分配する」「—を液体クロマトグラフィーする」「—をガスクロマトグラフィーする」「—を薄層クロマトグラフィーする」「—を高速液体クロマトグラフィーする」「—を質量分析する」「—を核磁気共鳴する」「—を赤外分光する」「—を紫外可視分光する」「—を蛍光分析する」「—を原子吸光する」「—を発光分析する」「—を放射化分析する」「—を中性子線回折する」「—をX線回折する」「—を電子線回折する」「—を走査型電子顕微鏡する」「—を透過型電子顕微鏡する」「—を走査型トンネル顕微鏡する」「—を原子間力顕微鏡する」「—を光学顕微鏡する」「—を位相差顕微鏡する」「—を微分干渉顕微鏡する」「—を共焦点顕微鏡する」「—を蛍光顕微鏡する」「—を偏光顕微鏡する」「—を暗視野顕微鏡する」「—を明視野顕微鏡する」「—を倒立顕微鏡する」「—を実体顕微鏡する」「—を立体顕微鏡する」「—を双眼顕微鏡する」「—を単眼顕微鏡する」「—を接眼レンズする」「—を対物レンズする」「—を集光レンズする」「—を絞りする」「—を光源する」「—を照明する」「—を標本する」「—を試料する」「—を検体する」「—を検査する」「—を診断する」「—を治療する」「—を手術する」「—を縫合する」「—を切開する」「—を止血する」「—を輸血する」「—を点滴する」「—を注射する」「—を投薬する」「—を処方する」「—を調剤する」「—を服用する」「—を副作用する」「—を禁忌する」「—を適応する」「—を用量する」「—を用法する」「—を薬理する」「—を毒性する」「—を安全性する」「—を有効性する」「—を臨床する」「—を治験する」「—を倫理する」「—を同意する」「—を説明する」「—を記録する」「—を保存する」「—を廃棄する」「—を滅菌する」「—を消毒する」「—を殺菌する」「—を除菌する」「—を無菌する」「—を清潔する」「—を不潔する」「—を感染する」「—を免疫する」「—を予防する」「—を検疫する」「—を隔離する」「—を検疫する」「—を届出する」「—を報告する」「—を統計する」「—を疫学する」「—を公衆衛生する」「—を環境衛生する」「—を労働衛生する」「—を産業衛生する」「—を学校衛生する」「—を食品衛生する」「—を水道する」「—を下水道する」「—を廃棄物する」「—を騒音する」「—を振動する」「—を悪臭する」「—を土壌汚染する」「—を地盤沈下する」「—を地下水する」「—を海洋汚染する」「—を大気汚染する」「—を酸性雨する」「—をオゾン層する」「—を地球温暖化する」「—を熱帯雨林する」「—を砂漠化する」「—を森林する」「—を緑化する」「—を公園する」「—を都市計画する」「—を建築する」「—を土木する」「—を橋梁する」「—をトンネルする」「—をダムする」「—を堤防する」「—を港湾する」「—を空港する」「—を鉄道する」「—を道路する」「—を交通する」「—を運輸する」「—を物流する」「—を倉庫する」「—を荷役する」「—を包装する」「—を梱包する」「—を保険する」「—を貿易する」「—を関税する」「—を通関する」「—を検疫する」「—を検査する」「—を証明する」「—を認証する」「—を標準する」「—を規格する」「—を品質する」「—を計量する」「—を校正する」「—を較正する」「—を精度する」「—を誤差する」「—を有効数字する」「—を四捨五入する」「—を切り捨てる」「—を切り上げる」「—を丸める」「—を近似する」「—を補間する」「—を外挿する」「—を内挿する」「—を回帰する」「—を相関する」「—を分散する」「—を標準偏差する」「—を平均する」「—を中央値する」「—を最頻値する」「—を度数分布する」「—を確率する」「—を統計する」「—を推定する」「—を検定する」「—を有意する」「—を危険率する」「—を信頼区間する」「—を母集団する」「—を標本する」「—を無作為する」「—を層別する」「—を系統抽出する」「—を多段抽出する」「—を集落抽出する」「—を二重抽出する」「—を比率する」「—を割合する」「—を指数する」「—を時系列する」「—を季節変動する」「—を循環する」「—を不規則する」「—を成長曲線する」「—を生存曲線する」「—を寿命する」「—を死亡する」「—を出生する」「—を人口する」「—を世帯する」「—を家族する」「—を婚姻する」「—を離婚する」「—を出産する」「—を妊娠する」「—を避妊する」「—を中絶する」「—を不妊する」「—を体外受精する」「—を人工授精する」「—を遺伝する」「—を染色体する」「—を遺伝子する」「—を突然変異する」「—を組換えする」「—を塩基配列する」「—をアミノ酸する」「—をタンパク質する」「—を酵素する」「—をホルモンする」「—をビタミンする」「—をミネラルする」「—を栄養する」「—を食事する」「—を献立する」「—を調理する」「—を加熱する」「—を冷却する」「—を凍結する」「—を解凍する」「—を発酵する」「—を漬ける」「—を干す」「—を燻す」「—を塩蔵する」「—を糖蔵する」「—を缶詰する」「—を瓶詰する」「—を真空包装する」「—を窒素置換する」「—を二酸化炭素する」「—を酸素する」「—を水素する」「—を窒素する」「—を炭素する」「—を硫黄する」「—を塩素する」「—をフッ素する」「—をヨウ素する」「—を臭素する」「—をリンする」「—をヒ素する」「—をアンチモンする」「—をビスマスする」「—をテルルする」「—をセレンする」「—をホウ素する」「—をケイ素する」「—をゲルマニウムする」「—をガリウムする」「—をインジウムする」「—をタリウムする」「—をスズする」「—を鉛する」「—をアルミニウムする」「—をマグネシウムする」「—をカルシウムする」「—をストロンチウムする」「—をバリウムする」「—をラジウムする」「—をベリリウムする」「—をリチウムする」「—をナトリウムする」「—をカリウムする」「—をルビジウムする」「—をセシウムする」「—をフランシウムする」「—をスカンジウムする」「—をイットリウムする」「—をランタンする」「—をセリウムする」「—をプラセオジムする」「—をネオジムする」「—をプロメチウムする」「—をサマリウムする」「—をユウロピウムする」「—をガドリニウムする」「—をテルビウムする」「—をジスプロシウムする」「—をホルミウムする」「—をエルビウムする」「—をツリウムする」「—をイッテルビウムする」「—をルテチウムする」「—をハフニウムする」「—をタンタルする」「—をタングステンする」「—をレニウムする」「—をオスミウムする」「—をイリジウムする」「—をプラチナする」「—を金する」「—を水銀する」「—をタリウムする」「—を鉛する」「—をビスマスする」「—をポロニウムする」「—をアスタチンする」「—をラドンする」「—をフランシウムする」「—をラジウムする」「—をアクチニウムする」「—をトリウムする」「—をプロトアクチニウムする」「—をウランする」「—をネプツニウムする」「—をプルトニウムする」「—をアメリシウムする」「—をキュリウムする」「—をバークリウムする」「—をカリホルニウムする」「—をアインスタイニウムする」「—をフェルミウムする」「—をメンデレビウムする」「—をノーベリウムする」「—をローレンシウムする」「—をラザホージウムする」「—をドブニウムする」「—をシーボーギウムする」「—をボーリウムする」「—をハッシウムする」「—をマイトネリウムする」「—をダームスタチウムする」「—をレントゲニウムする」「—をコペルニシウムする」「—をニホニウムする」「—をフレロビウムする」「—をモスコビウムする」「—をリバモリウムする」「—をテネシンする」「—をオガネソンする」

ページ[名] 書物・帳面などの一枚一枚の面。また、その数え方。「—を繰る」「—をめくる」「—を開く」「—を追う」「—を飛ばす」「—を破る」「—を汚す」「—を折る」「—を読む」「—を書く」「—を写す」「—を増やす」「—を減らす」「—を数える」「—を揃える」「—を綴じる」「—を抜く」「—を入れる」「—を落とす」「—を埋める」「—を白くする」「—を黒くする」「—を赤くする」「—を青くする」「—を緑にする」「—を茶にする」「—を灰にする」「—を紫にする」「—を橙にする」「—を桃にする」「—を金にする」「—を銀にする」「—を銅にする」「—を鉄にする」「—を鉛にする」「—を錫にする」「—を亜鉛にする」「—を水銀にする」「—を白金にする」「—を真鍮にする」「—を青銅にする」「—を合金にする」「—を溶かす」「—を固める」「—を冷やす」「—を温める」「—を沸かす」「—を蒸発させる」「—を凝縮する」「—を昇華する」「—を結晶化する」「—を析出する」「—を電解する」「—を酸化する」「—を還元する」「—を中和する」「—を滴定する」「—を分析する」「—を合成する」「—を触媒する」「—を重合する」「—を縮合する」「—を付加する」「—を置換する」「—を脱離する」「—を転位する」「—を異性化する」「—を環化する」「—を開環する」「—を閉環する」「—を架橋する」「—を分解する」「—を発酵する」「—を腐敗する」「—を醸造する」「—を蒸留する」「—を抽出する」「—を精製する」「—を乾燥する」「—を粉砕する」「—を篩分する」「—を混合する」「—を攪拌する」「—を遠心分離する」「—を濾過する」「—を透析する」「—を電気泳動する」「—を吸着する」「—を脱着する」「—を溶媒抽出する」「—を向流分配する」「—を液体クロマトグラフィーする」「—をガスクロマトグラフィーする」「—を薄層クロマトグラフィーする」「—を高速液体クロマトグラフィーする」「—を質量分析する」「—を核磁気共鳴する」「—を赤外分光する」「—を紫外可視分光する」「—を蛍光分析する」「—を原子吸光する」「—を発光分析する」「—を放射化分析する」「—を中性子線回折する」「—をX線回折する」「—を電子線回折する」「—を走査型電子顕微鏡する」「—を透過型電子顕微鏡する」「—を走査型トンネル顕微鏡する」「—を原子間力顕微鏡する」「—を光学顕微鏡する」「—を位相差顕微鏡する」「—を微分干渉顕微鏡する」「—を共焦点顕微鏡する」「—を蛍光顕微鏡する」「—を偏光顕微鏡する」「—を暗視野顕微鏡する」「—を明視野顕微鏡する」「—を倒立顕微鏡する」「—を実体顕微鏡する」「—を立体顕微鏡する」「—を双眼顕微鏡する」「—を単眼顕微鏡する」「—を接眼レンズする」「—を対物レンズする」「—を集光レンズする」「—を絞りする」「—を光源する」「—を照明する」「—を標本する」「—を試料する」「—を検体する」「—を検査する」「—を診断する」「—を治療する」「—を手術する」「—を縫合する」「—を切開する」「—を止血する」「—を輸血する」「—を点滴する」「—を注射する」「—を投薬する」「—を処方する」「—を調剤する」「—を服用する」「—を副作用する」「—を禁忌する」「—を適応する」「—を用量する」「—を用法する」「—を薬理する」「—を毒性する」「—を安全性する」「—を有効性する」「—を臨床する」「—を治験する」「—を倫理する」「—を同意する」「—を説明する」「—を記録する」「—を保存する」「—を廃棄する」「—を滅菌する」「—を消毒する」「—を殺菌する」「—を除菌する」「—を無菌する」「—を清潔する」「—を不潔する」「—を感染する」「—を免疫する」「—を予防する」「—を検疫する」「—を隔離する」「—を検疫する」「—を届出する」「—を報告する」「—を統計する」「—を疫学する」「—を公衆衛生する」「—を環境衛生する」「—を労働衛生する」「—を産業衛生する」「—を学校衛生する」「—を食品衛生する」「—を水道する」「—を下水道する」「—を廃棄物する」「—を騒音する」「—を振動する」「—を悪臭する」「—を土壌汚染する」「—を地盤沈下する」「—を地下水する」「—を海洋汚染する」「—を大気汚染する」「—を酸性雨する」「—をオゾン層する」「—を地球温暖化する」「—を熱帯雨林する」「—を砂漠化する」「—を森林する」「—を緑化する」「—を公園する」「—を都市計画する」「—を建築する」「—を土木する」「—を橋梁する」「—をトンネルする」「—をダムする」「—を堤防する」「—を港湾する」「—を空港する」「—を鉄道する」「—を道路する」「—を交通する」「—を運輸する」「—を物流する」「—を倉庫する」「—を荷役する」「—を包装する」「—を梱包する」「—を保険する」「—を貿易する」「—を関税する」「—を通関する」「—を検疫する」「—を検査する」「—を証明する」「—を認証する」「—を標準する」「—を規格する」「—を品質する」「—を計量する」「—を校正する」「—を較正する」「—を精度する」「—を誤差する」「—を有効数字する」「—を四捨五入する」「—を切り捨てる」「—を切り上げる」「—を丸める」「—を近似する」「—を補間する」「—を外挿する」「—を内挿する」「—を回帰する」「—を相関する」「—を分散する」「—を標準偏差する」「—を平均する」「—を中央値する」「—を最頻値する」「—を度数分布する」「—を確率する」「—を統計する」「—を推定する」「—を検定する」「—を有意する」「—を危険率する」「—を信頼区間する」「—を母集団する」「—を標本する」「—を無作為する」「—を層別する」「—を系統抽出する」「—を多段抽出する」「—を集落抽出する」「—を二重抽出する」「—を比率する」「—を割合する」「—を指数する」「—を時系列する」「—を季節変動する」「—を循環する」「—を不規則する」「—を成長曲線する」「—を生存曲線する」「—を寿命する」「—を死亡する」「—を出生する」「—を人口する」「—を世帯する」「—を家族する」「—を婚姻する」「—を離婚する」「—を出産する」「—を妊娠する」「—を避妊する」「—を中絶する」「—を不妊する」「—を体外受精する」「—を人工授精する」「—を遺伝する」「—を染色体する」「—を遺伝子する」「—を突然変異する」「—を組換えする」「—を塩基配列する」「—をアミノ酸する」「—をタンパク質する」「—を酵素する」「—をホルモンする」「—をビタミンする」「—をミネラルする」「—を栄養する」「—を食事する」「—を献立する」「—を調理する」「—を加熱する」「—を冷却する」「—を凍結する」「—を解凍する」「—を発酵する」「—を漬ける」「—を干す」「—を燻す」「—を塩蔵する」「—を糖蔵する」「—を缶詰する」「—を瓶詰する」「—を真空包装する」「—を窒素置換する」「—を二酸化炭素する」「—を酸素する」「—を水素する」「—を窒素する」「—を炭素する」「—を硫黄する」「—を塩素する」「—をフッ素する」「—をヨウ素する」「—を臭素する」「—をリンする」「—をヒ素する」「—をアンチモンする」「—をビスマスする」「—をテルルする」「—をセレンする」「—をホウ素する」「—をケイ素する」「—をゲルマニウムする」「—をガリウムする」「—をインジウムする」「—をタリウムする」「—をスズする」「—を鉛する」「—をアルミニウムする」「—をマグネシウムする」「—をカルシウムする」「—をストロンチウムする」「—をバリウムする」「—をラジウムする」「—をベリリウムする」「—をリチウムする」「—をナトリウムする」「—をカリウムする」「—をルビジウムする」「—をセシウムする」「—をフランシウムする」「—をスカンジウムする」「—をイットリウムする」「—をランタンする」「—をセリウムする」「—をプラセオジムする」「—をネオジムする」「—をプロメチウムする」「—をサマリウムする」「—をユウロピウムする」「—をガドリニウムする」「—をテルビウムする」「—をジスプロシウムする」「—をホルミウムする」「—をエルビウムする」「—をツリウムする」「—をイッテルビウムする」「—をルテチウムする」「—をハフニウムする」「—をタンタルする」「—をタングステンする」「—をレニウムする」「—をオスミウムする」「—をイリジウムする」「—をプラチナする」「—を金する」「—を水銀する」「—をタリウムする」「—を鉛する」「—をビスマスする」「—をポロニウムする」「—をアスタチンする」「—をラドンする」「—をフランシウムする」「—をラジウムする」「—をアクチニウムする」「—をトリウムする」「—をプロトアクチニウムする」「—をウランする」「—をネプツニウムする」「—をプルトニウムする」「—をアメリシウムする」「—をキュリウムする」「—をバークリウムする」「—をカリホルニウムする」「—をアインスタイニウムする」「—をフェルミウムする」「—をメンデレビウムする」「—をノーベリウムする」「—をローレンシウムする」「—をラザホージウムする」「—をドブニウムする」「—をシーボーギウムする」「—をボーリウムする」「—をハッシウムする」「—をマイトネリウムする」「—をダームスタチウムする」「—をレントゲニウムする」「—をコペルニシウムする」「—をニホニウムする」「—をフレロビウムする」「—をモスコビウムする」「—をリバモリウムする」「—をテネシンする」「—をオガネソンする」

とり-あ・う[取合]（他ワ四）❶互に取る。❷先を争(ソラ)うて取る。互に取らんとする事。

とり-あえず[取敢]（副）❶取るべき物を取るまもなく。❷酒肴などの用意に物をとるべき暇(ヒマ)なく。❸第一に。「とるものも」（烏鷺）

とり-あみ[鳥網]（名）鳥を捕(トラ)うに使用する網。

とり-あやま・つ[取過]（他タ四）（とりあやまつ）は接頭語「とり」に同じ。

とり-あやま・る[取過]（他ラ四）（とりあやまる）は接頭語「とり」に同じ。

とり-いだ・す[取出]（他サ四）❶持ち出だす。❷預(アズ)かり出だす。❸引き出だす。「同じ」

とり-い・づ[取出]（他ダ下二）（とりいでず）に同じ。

とり-い・る[取入]（自ラ四）❶取り込んと入る。❷取り込んと入る。❸気に入る。「もの」

とり-いれ[取入]（名）作物を取り入れること。収穫。

とり-うしな・ふ[取失]（他ハ四）（とりうしなう）は接頭語「とり」に同じ。

とり-うち[鳥打]（名）❶雷(カミナリ)の別名。❷小銃にて鳥をうつこと。❸「とりうちばうし」の略言。

とりうちぼうし[鳥打帽子]（名）鳥打などに被るよりの低き帽子。

トリウム[Thorium]（名）【化】稀有なる元素。灰色の結晶状の金属。「辛所」

とり-え[取得]（名）取り用ふべき点。取りどころ。

とり-えだ[取枝]（名）「とりき」に同じ。

とり-おき[取置]（名）とりおくこと。又とりおきたるもの。

とり-おく[取置]（他カ四）❶とりて收め置く。とりて人に與へ置く。❷のこしおく。あましおく。❸預(アズ)かり置く。（煎茶にいふ）。

とり-おこな・ふ[執行]（他ハ四）（とりおこなう）に同じ。

とり-おさ・ふ[取押]（名）とりおさえること。

とり-おさ・ふ[取押]（他ハ下二）（とりおさふ）❶おさえとどめる。おしとどむ。（捕住）。❷諾(ウケ)ひ約(ヤク)す。（約束）。

とりおや[鳥親]（名）田畑に來る鳥を威(オド)して逐(オ)ふために設けたるもの。即ちかかし・なるこ等の類。

とり-おと・す[取落]（他サ四）❶手より取りかしこと。手より取りしなど。❷過失(アヤマチ)。うっかりおとす。

とりおび[鳥追]（名）昔時、新年に門に立ちて三絃を弾じ或歌をうたひ鈴を乞うし物入(ものいり)（名寄歌集）。

とり-おや[取親]（名）やしなひおや。養父。

とり-おろ・す[取下]（他サ四）手をかけてとりおろす。

とり-か[取個]（名）❶感謝して取り立つる年貢の高(感謝)。❷收入の高。「にわ・庭和」

とり-かかり[取掛]（名）❶とりかゝること。❷はじめ。手始め。❸くみかゝること。うでかゝり。

とり-かか・る[取掛]（自ラ四）❶着手す。❷くみかゝる。うでかゝる。

とり-かく・す[取隠]（他サ四）（とりかくす）は接頭語「とり」に同じ。

とりかご[鳥籠]（名）鳥を入れて飼(カ)ふ籠。竹又は針金などにて格子の如くに編みたるもの。

とり-かこ・む[取囲]（他マ四）（とりかこむ）に同じ。

とりかぶと[烏兜]（名）❶鷲鷹のこと。❷人の被る兜の形をなせる花。（一）とよかりと]

とり-かぶと[烏頭]（名）毛茛科の多年草。山野に自生し、又栽培す。高さ二三尺。葉は掌状にして深く裂け、夏日、紫色の花を開く。根は有毒にして、酢にひたして食用に供し、又乾して庶藏す。

とりかぶと-りゅう[烏頭流]（名）甘茶の一流。細家流より出づ。烏頭流儀を祖とす。

とり-かぶと・ふ[取冠]（他ハ四）（とりかぶとう）は接頭語「とり」に同じ。

とり-かぶと・る[取被]（他ラ四）（とりかぶとる）は接頭語「とり」に同じ。

とり-かぶら[鳥鏑]（名）鳥の頭の形を彫りたる鏑矢。

とり-かた[取方]（名）❶諸人を相對する方法。❷諸人を相對する人。とりて（相對）。

とり-かたづ・く[取片付]（他カ下二）（とりかたづく）は接頭語「とり」に同じ。

とりかたづけ[取片付]（名）とりかたづくること。

とり-かた・む[取固]（他マ下二）かたくとりまもること。

とり-かぢ[取舵]（名）船の舵を左方へ轉ずるときの唇の取り方。又轉じて、左旋の稱。

とり-かなく[鶏鳴]（枕）「あづまに係る」に同じ。

とりかはし[取交]（名）とりかはすこと。

とり-かは・す[取交]（他サ四）交換す。やりとりす。かくとりかはす。

とり-かひ[鳥飼]（名）鳥をかひならすこと。又其人。

とり-がひ[取貝]（名）【動】軟體類に屬する軟體動物。海岸に産す。おほひに似て稍や大きく、介殻は白色にして黒褐紫色を帶ぶ。肉の形鳥の嘴に似る。酢にひたして食用に供し、又乾して庶藏す。

とりかひ-りゅう[鳥飼流]（名）甘茶の一流。細家流より出づ。鳥飼流儀を祖とす。

とり-かへ[取換]（他ハ四）（とりかへす）は接頭語「とり」に同じ。

とり-かへ・す[取返]（他サ四）❶其物の如くに又同じ物を以て返す。❷更に以前の如くにす。❸一旦與へたるものの又は一旦取られたるものを、再び我の有にかへす。

とりかへばや[鳥遊]（枕）「はに係る」に同じ。

とり-がま[鳥柄杓]（名）椰木の柄をおしたゞめて土中に入れ、其柄より根の生ずるに及んで、切り放ち苗木とする方法。（壓條）。

とり-きこ・ゆ[取聞]（他ヤ下二）とりなして申上ぐ。とりまうす。

とり-き・む[取極]（他マ下二）❶かねよりの所ろを決定す。❷約束す。ちかふ。

とりきめ[取極]（名）とりきめること。又とりきめたる事柄。

とり-き・る[取切]（他ラ四）❶をはりまで取りてかはうず。❷とりたるまゝにてあり。❸一切の事を仕切りて處理す。

(とり-くさ)[居鷹]（名）はふりこのこと。

とり-く・す[取具]（他サ変）❶ととのふ。❷ととのふ。

とり-くち[取口]（名）相撲(スマヒ)にて、相手とりくむさま。

とり-くづし[取崩]（名）とりくづすこと。

とり-くづ・す[取崩]（他サ四）くづしてとりのぞく。

†とり-くび[素質]（名）かちうまの名所。素質(サガ)。

とり-くみ[取組]（名）❶とりくむこと。❷くみあはせ。❸あひうつこと。❹結婚。——ばこづけ[取組所]（名）東西力士の相撲(スマヒ)のくみあはせを書したる番附。

とり-く・む[取組]（自マ四）❶相手となりて引きくむ。くみうつ。❷相手となりてあらそふ。

とり-け・す[取消]（名）❶きゝとゞけてあるものを消して痕跡のわからぬやうにすること。❷[法]已になしたる行爲の効果を將來に生ぜしめざること。即ち其行爲なかりしと同一の狀態となすこと。❸一旦記載又は陳述したる事柄をうちけすこと。❹新聞又は雜誌などの事項を否認して其由を其社に申込むこと。——のうったへ[取消訴]（名）【法】確定の終局判決を以て終結したる訴訟に對し、其確定者たる原告が、確定の時から一個月の不變期間内に、再審を求めて其取消を請求すること。「す。

とり-け・す[取消]（他サ四）とりけしをなす。

とり-こ[俘囚]（名）いけどりにせる敵人。捕虜となりたる人。(俘囚)。

†とり-こ[鳥籠]（名）とりかご。

とり-こ[取子]（名）もらひご。養子。

[とりこ][取粉]（名）つきあげたる餅につかふ粉。もちこ。

とり-ご・す[取越]（名）とりこすこと。——ぐろう

ぬすびと—ぬのめ

ぬすびと【盗人】(名) 盗みをする人。泥棒。

ぬすびとたけだけしい【盗人たけだけしい】(連語) 悪事をしておきながら、開き直って堂々としている。

ぬすびとにおいをかがせる【盗人に追い銭】(連語) 盗まれた後で金を与えるように、損をした後で更に損をすること。

ぬすびとにおいをかがせる【盗人に追い銭】(連語) 盗まれた後で金を与えるように、損をした後で更に損をすること。

ぬすびとのあとだ【盗人の後だ】(連語) 盗まれた後で気づいても遅いこと。

ぬすびとのあとだ【盗人の後だ】(連語) 盗まれた後で気づいても遅いこと。

ぬすびとのまえだ【盗人の前だ】(連語) 盗まれた後で気づいても遅いこと。

ぬすびとのまえだ【盗人の前だ】(連語) 盗まれた後で気づいても遅いこと。

ぬすびとをとらえてなわをなう【盗人を捕えて縄を綯う】(連語) 事が起こってから慌てて準備をすること。

ぬすびとをとらえてなわをなう【盗人を捕えて縄を綯う】(連語) 事が起こってから慌てて準備をすること。

ぬすみぐい【盗み食い】(名) 人の物を盗んで食べること。

ぬすみぐい【盗み食い】(名) 人の物を盗んで食べること。

ぬすみぎき【盗み聞き】(名) 人の話をこっそり聞くこと。

ぬすみぎき【盗み聞き】(名) 人の話をこっそり聞くこと。

ぬすみぐせ【盗み癖】(名) 盗みをする癖。

ぬすみぐせ【盗み癖】(名) 盗みをする癖。

ぬすみだす【盗み出す】(動サ五) 盗んで持ち出す。

ぬすみだす【盗み出す】(動サ五) 盗んで持ち出す。

ぬすみとる【盗み取る】(動ラ五) 盗んで取る。

ぬすみとる【盗み取る】(動ラ五) 盗んで取る。

ぬすみみる【盗み見る】(動マ上一) こっそり見る。

ぬすみみる【盗み見る】(動マ上一) こっそり見る。

ぬすむ【盗む】(動マ五) 人の物を盗む。

ぬすむ【盗む】(動マ五) 人の物を盗む。

ぬた【饅】(名) 魚介類や野菜を酢味噌で和えた料理。

ぬた【饅】(名) 魚介類や野菜を酢味噌で和えた料理。

ぬたうつ【のたうつ】(動タ五) 苦しんで転げ回る。

ぬたうつ【のたうつ】(動タ五) 苦しんで転げ回る。

ぬたくる【塗りたくる】(動ラ五) 塗りたくる。

ぬたくる【塗りたくる】(動ラ五) 塗りたくる。

ぬたば【饅場】(名) 饅を売る店。

ぬたば【饅場】(名) 饅を売る店。

ぬたまえ【饅前】(名) 饅の材料。

ぬたまえ【饅前】(名) 饅の材料。

ぬたみそ【饅味噌】(名) 饅に使う味噌。

ぬたみそ【饅味噌】(名) 饅に使う味噌。

ぬちゅう【入中】(名) 江戸時代、幕府が諸藩の蔵米を換金する際に、その代金を預かること。

ぬちゅう【入中】(名) 江戸時代、幕府が諸藩の蔵米を換金する際に、その代金を預かること。

ぬちゅうしょう【入中商】(名) 入中を行う商人。

ぬちゅうしょう【入中商】(名) 入中を行う商人。

ぬちゅうぶぎょう【入中奉行】(名) 入中を管轄する役人。

ぬちゅうぶぎょう【入中奉行】(名) 入中を管轄する役人。

ぬちゅうもの【入中物】(名) 入中の対象となる物資。

ぬちゅうもの【入中物】(名) 入中の対象となる物資。

ぬっぺらぼう【のっぺらぼう】(名) 顔に目・鼻・口がない妖怪。

ぬっぺらぼう【のっぺらぼう】(名) 顔に目・鼻・口がない妖怪。

ぬっぽん【日本】(名) 日本。

ぬっぽん【日本】(名) 日本。

ぬっぽんいち【日本一】(名) 日本で一番。

ぬっぽんいち【日本一】(名) 日本で一番。

ぬっぽんいちのこころざし【日本一の志】(連語) 日本一になろうという志。

ぬっぽんいちのこころざし【日本一の志】(連語) 日本一になろうという志。

ぬっぽんいちのこころざしをいだく【日本一の志を抱く】(連語) 日本一になろうという志を持つ。

ぬっぽんいちのこころざしをいだく【日本一の志を抱く】(連語) 日本一になろうという志を持つ。

ぬっぽんいちのこころざしをもつ【日本一の志を持つ

はいかい【俳諧】(名) ❶滑稽・風刺・頓知などを主とした和歌の連歌。❷俳句。

はいかい【徘徊】(名)(ス自) ❶あてもなくうろつくこと。❷病気などで意識がはっきりしないこと。

はいがい【拝外】(名) 外国の文物を尊重すること。

はいがい【排外】(名) 外国の文物を排斥すること。

はいがいしゅぎ【排外主義】(名) 排外の思想・傾向。

はいがいてき【排外的】(形動) 排外主義的なさま。

はいがいろん【排外論】(名) 排外主義の論。

はいかく【俳画】(名) 俳諧の精神を表現した絵。

はいかく【配角】(名) 主役を助ける役。また、その役者。

はいかく【廃格】(名) 文法上の規則にはずれること。

はいかく【廃閣】(名)(ス他) 法案などを審議しないで棚上げにすること。

はいかつりょう【肺活量】(名) 肺に吸い込んだ空気を最大限に吐き出したときの量。

はいかん【配管】(名)(ス自) 水道・ガス・蒸気などの管を設置すること。

はいかん【廃刊】(名)(ス他) 新聞・雑誌などの発行をやめること。

はいかん【廃官】(名) 官職を廃すること。

はいかん【廃艦】(名) 軍艦としての資格を失うこと。また、その軍艦。

はいかん【廃館】(名)(ス他) 図書館・博物館などを廃止すること。

はいかん【廃棺】(名) 棺桶を廃す

ページ—ページ

ページ[名] 書物・帳面などの一枚一枚。また、その一面。頁。

ページェント[名] 野外劇。

ページ-ずう[名] 書物・帳面などのページの数。頁数。

ページ-ぬき[名] 印刷で、ページの上部または下部に書かれる、章・節の題名や著者名など。柱。

ページ-もの[名] 書物・帳面などのページの数。

ページ-わり[名] 印刷で、ページの上部または下部に書かれる、章・節の題名や著者名など。柱

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯ [名] 発展。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠ [名] 発展的な。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢ [名] 発展的な。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ [副] 発展的に。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠬᠦ 発展する。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠨ᠎ᠠ 発展している。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ 発展した。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ 発展した状態。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ 発展した状態。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ 発展した状態の。

ᠪᠣᠯᠪᠠᠰᠤᠷᠤᠯᠲᠠᠶᠢᠪᠠᠷ ᠬᠥᠭᠵᠢᠵᠤ ᠪᠠᠢᠭᠤᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠢᠳᠠᠯ ᠲᠠᠨ ᠤ 発展した状態の。

おしまい　**おしまい**　[名]（終）物事の終わること。❶最後。「―の一球」「―の一句」「―の一章」「―の一幕」「―の一行」「―の一節」「―の一段」「―の一日」「―の一年」「―の一人」「―の一人っ子」「―の一人前」「―の一人前の男」「―の一人前の女」「―の一人前の男の子」「―の一人前の女の子」「―の一人前の男の人」「―の一人前の女の人」「―の一人前の男の子の人」「―の一人前の女の子の人」「―の一人前の男の人の子」「―の一人前の女の人の子」「―の一人前の男の子の人の子」「―の一人前の女の子の人の子」「―の一人前の男の人の子の人」「―の一人前の女の人の子の人」「―の一人前の男の子の人の子の人」「―の一人前の女の子の人の子の人」「―の一人前の男の人の子の人の子」「―の一人前の女の人の子の人の子」「―の一人前の男の子の人の子の人の子」「―の一人前の女の子の人の子の人の子」「―の一人前の男の人の子の人の子の人」「―の一人前の女の人の子の人の子の人」「―の一人前の男の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の女の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の男の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の女の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の男の子の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の女の子の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の男の人の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の女の人の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の男の子の人の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の女の子の人の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の男の人の子の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の女の人の子の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の男の子の人の子の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の女の子の人の子の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の男の人の子の人の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の女の人の子の人の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の男の子の人の子の人の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の女の子の人の子の人の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の男の人の子の人の子の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の女の人の子の人の子の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の男の子の人の子の人の子の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の女の子の人の子の人の子の人の子の人の子の人の子」「―の一人前の男の人の子の人の子の人の子の人の子の人の子の人」「―の一人前の女の人の子の人の子の人の子の人の子の人の子の人

かいさ-そく【開差速】(名) 時計の日歩差。

かいさつ【検札】(名) ❶乗車券・定期券などを調べること。「車内—」❷入場券・切符などを調べること。「改札口で—する」

かいさつ【開札】(名) 入札した書類を開いて、内容を調べること。

かいさつ【解雇】(名) 雇い主が雇用関係を一方的に解除すること。

かいさつ【解剖】(名) ❶動物の体を切り開いて、内部の構造を調べること。❷人体を切り開いて、病気の原因を調べること。

かいさつ-ぐち【改札口】(名) 駅で、乗車券・定期券などを調べるために設けた場所。

かいさつ-しょ【解剖所】(名) 解剖学教室。

かいさつ-ぶ【解剖図】(名) 解剖学上の図。

かいさつ-ぶ【解剖部】(名) 解剖学教室

のねぬにね　とてつちた　そせすしさ　こけくきか　あえういあ

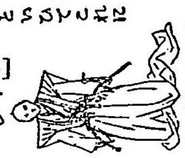
ねがの-てらまえ[長柄銚子](名) [長柄]の[銚子]。「一蜂花形」 **——もち**[長柄持](名) 長柄のものを持つもの。「一くど」

ねがの-おおれ[長道](名) にわの敷を遠く通ひゆく道。

ねがの-おおなか[中庭](名) 隣家との〜にたての庭。

ねがの-おおびろ[仲買](名) 物品又は証券の売買の媒介、即ち雇用者と供給者との間に立ち、物品又は証券の売買を仲介して利益を得ること。以て営利を図ること。又其人。さいとり。(古医) **——げふ**[仲買業](名) 仲買の営業。 **——にん**[仲買人](名) 仲買営業をいとなむ人。(古医)

ねがの-おみ[天一神](名) 陰陽家にて祭る神の名。己酉の日天より下りて求北の隅に居ること六日、翌くて正東に居ること五日、翌くて艮(うしとら)の隅に居ること六日、四日に居ること六日四方に居ること五日、目都合四十四日にして、癸巳の日正北より天にとゞまり、再び己酉の日天より下りて前の如くに廻る。此上上の神の居る方を「ふたがり」といひてこれに向ひ記すことを忌む。



ねがの-おみき[長上下](名) 昔時、肩衣(かたぎぬ)の下に用ひし袴に同じ色の長袴を用ひしもの。 [もとかがな]

ねがの-き[中若](名) 衣衣の下に重ねて着る衣服。

ねがの-きよ[長夜](名) ❶日出までの時間を夜。

ねがの-かわ[長川](名) 水にわかれ流れ別れたる川。

ねがの-くさ(名) [植]「ゐぐさ」に同じ。

ねがの-くち[名歴](名) 名をかくすこと。匿名。

ねがの-くち[中口](名) 双方の中間に立ちて、相互の交際を助ける口舌を使ふこと。

ねがの-くに[長遠](名) 遠き国。

ねがの-くも[中雲](名) 雲の中層にあるもの。

ねがの-くもり[中曇](名) 雲の中層にあるもの。

ねがの-くれ[長暗](名) 夜の暗きこと。

ねがの-けしき[長気色](名) 遠くの景色。

ねがの-こえ[長声](名) 遠くまで聞こえる声。

ねがの-こと[長言](名) 長々しきことば。

ねがの-ことのり[長勅](名) 長き詔勅。

ねがの-ことば[中言](名) なかごと。

ねがの-ことば[長言](名) 長々しきことば。

ねがの-ことのり[長勅](名) 長き詔勅。

ねがの-ことわり[長理](名) 長き理由。

ねがの-こと[中頃](名) ❶なかほどの時。(中世) ❷なかほどの所。(中途)

ねがの-さ[長](名)【数】二点間の距離。又、立証若しくは手画形の長短なる程。

ねがの-さき[長壁](名) 「ちやうへき」に同じ。「の一名。

ねがの-さきげ[長立](名) 【植】「ながさきげ」に同じ。

ねがの-さし[中差](名) ❶矢筒(やづつ)の中央に挿す矢。❷女の髪の中央に横に挿す笄(かうがい)の類。

ねがの-さだ[中定](名) 手跡の相々劣れるをいふ。

ねがの-し[流](名) ❶ながれ。❷屋所に設けて物を洗ふ所。隅に板を張り隅々孔(あな)ある溝を掘(ほり)て水を流し、或は溝を設けたるもの。はしり。❸「夜三味線」を弾(ひ)くをながして三味線に弄を洗はしむるもの。(京)

ねがの-ぜ[中背](名) 背の中程。

ねがの-そで[長袖](名) ❶昔時、武士に対して、僧又は医師・詩人などの如き長き袖の衣服を称する者の称。方外。❷公卿の称。

ねがの-そら[中空](名) ❶空中。虚空。❷うはのそら。上天。❸何れともつかぬこと。何れにもつかぬこと。❹はんぱ。半途。

ねがの-ぞり[中剃](名) 頭頂の中央のみを剃(そり)去ること。なかぞり。

ねがの-たえ[中絶](名) まことはりのたゆること。

ねがの-たかみ[中高](名) 中央高くして四辺低きこと。

ねがの-たがい[中違](名) 交情の疎しくなること。不和になること。

ねがの-たち[仲立](名) ❶双方の中に立ちて周旋すること。又、其人。媒介。媒妁。❷【法】他人間の商行為の媒介。 **——ぐち**[仲立口](名) 仲立して[仲立業](名) 【法】仲立の営業。 **——にん**[仲立人](名) ❶媒介者。❷仲立業を営むもの。

ねがの-だち[長太刀](名) 古昔の武器、刀は三三尺にして柄長く石突をあり、冒に掛けて持ち行きし。場にて敵の人馬の足を薙(な)ぎ倒すに用ひしもの。

ねがの-だち[中太刀](名) 「なるほど」の略。

ねがの-だび[中度](名、副) なかごろの時。なかば。

ねがの-んぎ[長談義](名) ながたらしき談義。「り絹や。

ねがの-たゆ-し[中絶](自サ下二) 形ク まことはしなきに絶えていることはし。 「のわすこ。

ねがの-ち[仲子](名) 三人の兄弟にて、第二番目に生まれし子。

ねがの-ち[長血](名) 赤痢様の分泌物に血液の混じて下る子宮病。

ねがの-ち[長路](名) ながみち。とほみち。

ねがの-ちがい[中違](名) なかたがひ。

ねがの-つ-え[中枝](名) なかのえだ。

ねがの-つかさ[中務省](名) 古昔八省の一。掌上の詔勅を監修し、詔勅の文案を審署し、王室に侍従し、可否を献納し、詔勅の文案を審署し、王室に侍従し、可否を献納し、詔勅の文案を審署し、王室に侍従し、可否を献納

おおお-おお【大火】(名)(気)火事。「—の原因を調べる」

おおお-おおい【大井】(名)(地)東京都品川区の地名。

おおお-おおい【大井】(名)(姓)

おおお-おおい【大井川】(名)(地)静岡県を流れる川。

おおお-おおい【大井川鉄道】(名)(地)静岡県の鉄道会社。

おおお-おおい【大井競馬】(名)(地)東京都品川区にある競馬場。

おおお-おおい【大井町】(名)(地)東京都品川区の地名。

おおお-おおい【大井町線】(名)(地)東京都の鉄道路線。

おおお-おおい【大井松田】(名)(地)神奈川県の地名。

おおお-おおい【大井松田駅】(名)(地)神奈川県の駅

あなた【彼方】(名) ❶はるかに遠い所。「—に舟が見える」 ❷あの人。あの方。(代) ❸(二人称)相手を指していう語。(代) ❹(三人称)話し手・聞き手以外の人を指していう語。(代)

あなた【貴方】(代) ❶(二人称)相手を指していう語。 ❷(三人称)話し手・聞き手以外の人を指していう語。

あなた-こなた【彼方此方】(代) あちらこちら。

あなた-さま【貴方様】(代) (二人称)相手を敬っていう語。

あなた-ざま【貴方様】(代) (二人称)相手を敬っていう語。

あなた-じゅう【あなた中】(名) 全体。「—の人が賛成した」

あなた-だて【あなた立て】(名) 人を立てること。

あなた-まかせ【あなた任せ】(名) 人を頼りにして、自分では何もしないこと。

あなた-むき【あなた向き】(名) 人の好みに合うこと。

あなた-もち【あなた持ち】(名) 人にまかせること。

あなた-よう【あなた用】(名) 人の好みに合うこと。

あなづる【侮る】(他五) 軽く見る。ばかにする。

あなどり【侮り】(名) 軽く見ること。

あなどる【侮る】(他五) 軽く見る。ばかにする。

あなぬい【穴縫い】(名) 穴をかがること。

あなば【穴場】(名) ❶人に知られていない、よい場所。 ❷(俗)競馬で、配当率のよい馬券。

あなぼこ【穴ぼこ】(名) 穴。

あなほり【穴掘り】(名) 穴を掘ること。

あなほり-しょうせつ【穴掘り小説】(名) 探偵小説。

あなほり-ひょうろん【穴掘り評論】(名) 探偵小説。

あなほり-ものがたり【穴掘り物語

おなじ-おんがく【同じ音楽】(名)同じ音楽。

おなじ-おんぷ【同じ音符】(名)同じ音符。

おなじ-かぜ【同じ風】(名)同じ風。

おなじ-かた【同じ型】(名)同じ型。

おなじ-かたち【同じ形】(名)同じ形。

おなじ-かち【同じ価値】(名)同じ価値。

おなじ-かね【同じ金】(名)同じ金。

おなじ-かみ【同じ紙】(名)同じ紙。

おなじ-かわ【同じ川】(名)同じ川。

おなじ-き【同じ木】(名)同じ木。

おなじ-きもち【同じ気持ち】(名)同じ気持ち。

おなじ-くち【同じ口】(名)同じ口。

おなじ-くに【同じ国】(名)同じ国。

おなじ-くらい【同じくらい】(副)同じくらい。

おなじ-こえ【同じ声】(名)同じ声。

おなじ-こと【同じこと】(名)同じこと。

おなじ-ころ【同じ頃】(名)同じ頃。

おなじ-さいず【同じサイズ】(名)同じサイズ。

おなじ-さむさ【同じ寒さ】(名)同じ寒さ。

おなじ-しあい【同じ試合】(名)同じ試合。

おなじ-しごと【同じ仕事】(名)同じ仕事。

おなじ-しな【同じ品】(名)同じ品。

おなじ-しゅるい【同じ種類】(名)同じ種類。

おなじ-じょうけん【同じ条件】(名)同じ条件。

おなじ-しろ【同じ城】(名)同じ城。

おなじ-すう【同じ数】(名)同じ数。

おなじ-せき【同じ席】(名)同じ席。

おなじ-せん【同じ線】(名)同じ線。

おなじ-そら【同じ空】(名)同じ空。

おなじ-たいど【同じ態度】(名)同じ態度。

おなじ-だんかい【同じ段階】(名)同じ段階。

おなじ-ちから【同じ力】(名)同じ力。

おなじ-ちち【同じ乳】(名)同じ乳。

おなじ-ちゃわん【同じ茶わん】(名)同じ茶わん。

おなじ-つき【同じ月】(名)同じ月。

おなじ-つくえ【同じ机】(名)同じ机。

おなじ-つち【同じ土】(名)同じ土。

おなじ-て【同じ手】(名)同じ手。

おなじ-てん【同じ点】(名)同じ点。

おなじ-でんしゃ【同じ電車】(名)同じ電車。

おなじ-とき【同じ時】(名)同じ時。

おなじ-とし【同じ年】(名)同じ年。

おなじ-とち【同じ土地】(名)同じ土地。

おなじ-とり【同じ鳥】(名)同じ鳥。

おなじ-ながさ【同じ長さ】(名)同じ長さ。

おなじ-なまえ【同じ名前】(名)同じ名前。

おなじ-にく【同じ肉】(名)同じ肉。

おなじ-にち【同じ日】(名)同じ日。

おなじ-にんげん【同じ人間】(名)同じ人間。

おなじ-ねだん【同じ値段】(名)同じ値段。

おなじ-ねん【同じ年】(名)同じ年。

おなじ-のうど【同じ濃度】(名)同じ濃度。

おなじ-のり【同じ乗り】(名)同じ乗り。

おなじ-はこ【同じ箱】(名)同じ箱。

おなじ-はば【同じ幅】(名)同じ幅。

おなじ-ばん【同じ番】(名)同じ番。

おなじ-ひと【同じ人】(名)同じ人。

おなじ-ひょうげん【同じ表現】(名)同じ表現。

おなじ-ひょうじゅん【同じ標準】(名)同じ標準。

おなじ-ふう【同じ風】(名)同じ風。

おなじ-ふね【同じ船】(名)同じ船。

おなじ-ほう【同じ方】(名)同じ方。

おなじ-ほうこう【同じ方向】(名)同じ方向。

おなじ-ほし【同じ星】(名)同じ星。

おなじ-まち【同じ町】(名)同じ町。

おなじ-みち【同じ道】(名)同じ道。

おなじ-むら【同じ村】(名)同じ村。

おなじ-め【同じ目】(名)同じ目。

おなじ-もの【同じ物】(名)同じ物。

おなじ-もんく【同じ文句】(名)同じ文句。

おなじ-やま【同じ山】(名)同じ山。

おなじ-ゆき【同じ雪】(名)同じ雪。

おなじ-よう【同じ様】(形動)同じ様。

おなじ-よこ【同じ横】(名)同じ横。

おなじ-よこはば【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばば【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばん【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんご【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごう【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめい【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょう【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃ【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃく【同じ横幅】(名)同じ横幅。

おなじ-よこばばんごうめいしょうしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくしゃくし

あいさつ【挨拶】(名) 人と会ったり別れたりするときに交わす儀礼的な言葉や動作。「―を交わす」「―に困る」「―回り」

あいさつ【相殺】(名) 二つの債務が同額または一方が多額で互いに消滅すること。「貸借を―する」

あいさつ【相撲】(名) 二人が組み合って力や技を競う競技。「―を取る」「―部屋」

あいさつ【愛車】(名) 自分の車を愛着をこめていう語。「―を磨く」

あいさつ【愛称】(名) 親しみをこめて呼ぶ名前。「―で呼ぶ」

あいさつ【愛情】(名) 相手を大切に思う気持ち。「―を注ぐ」「―深い」

あいさつ【愛人】(名) 恋愛関係にある相手。「―を囲う」

あいさつ【愛読】(名) 好んで読むこと。「―書」「―者」

あいさつ【愛用】(名) 好んで使うこと。「―の品」「―者」

あいさつ【愛嬌】(名) 人に好かれる態度や表情。「―がある」「―を振りまく」

あいさつ【愛着】(名) 物や人に深く心が引かれること。「―を感じる」「―がわく」

あいさつ【愛犬】(名) 飼っている犬。「―家」

あいさつ【愛猫】(名) 飼っている猫。「―家」

あいさつ【愛好】(名) 好んで親しむこと。「―者」「―会」

あいさつ【愛国】(名) 国を愛すること。「―心」「―者」

あいさつ【愛護】(名) 大切にして守ること。「動物―」「―団体」

あいさつ【愛妻】(名) 妻を愛すること。「―家」

あいさつ【愛児】(名) 愛する子。「―を抱く

おおい-ぬし【大井主】(名) 大井荘の領主。

おおい-の-しょう【大井荘】(名) 中世、京都の大井川流域に広がっていた荘園。

おおい-の-ちょう【大井町】(名) 東京都品川区の地名。

おおい-の-みや【大井宮】(名) 大井荘にあった神社。

おおい-の-わたし【大井の渡し】(名) 大井川の渡し場。

おおい-ばし【大井橋】(名) 東京都品川区と大田区の境を流れる立会川に架かる橋。

おおい-まち【大井町】(名) 東京都品川区の地名。

おおい-まつり【大井祭】(名) 大井神社の祭礼。

おおい-もの【大井物】(名) 大井荘の産物。

おおい-やま【大井山】(名) 京都府京都市西京区の山。

おおい-よし【大井吉】(名) 大井荘の吉祥。

おおい-りょう【大井領】(名) 大井荘の領地。

おおい-わた【大井綿】(名) 大井荘の綿。

おおいん【大院】(名) 大きな寺院。

おおう【覆う】(動ワ五[ハ]) ❶上から全体をかぶせる。「屋根を—・う」「布で—・う」❷表面を隠す。「顔を—・う」「悲しみに—・われる」❸全体に広がる。「一面に霧が—・う」

おおう【蔽う】(動ワ五[ハ]) 覆うに同じ。

おおう【被う】(動ワ五[ハ]) 覆うに同じ。

おおう【掩う】(動ワ五[ハ]) 覆うに同じ。

おおう【蓋う】(動ワ五[ハ]) 覆うに同じ。

おおう【翁】(名) 老人の尊称。

おおう【王】(名) 天皇の兄弟姉妹。

おおう【応】(名) 適当なこと。

おおう【往】(名) 行くこと。

おおう【奥】(名) 奥深いこと。

おおう【横】(名) 横のこと。

おおう【多】(名) 多いこと。

おおう【大】(名) 大きいこと。

おおう【追う】(動ワ五[ハ]) ❶後ろから迫る。「敵を—・う」❷順序に従う。「時代を—・う」❸仕事などを続ける。「研究を—・う」❹失ったものを惜しむ。「過ぎ去った日を—・う」

おおう【負う】(動ワ五[ハ]) ❶背中に乗せる。「荷を—・う」❷責任を引き受ける。「責任を—・う」❸恩を受ける。「師の恩を—・う」

おおう【生う】(動ワ五[ハ]) 草木が生える。「草が—・う」

おおう【逢う】(動ワ五[ハ]) 出会う。「友に—・う」

おおう【合う】(動ワ五[ハ]) 一致する。「意見が—・う」

おおう【会う】(動ワ五[ハ]) 人と出会う。「友に—・う」

おおう【買う】(動ワ五[ハ]) 金を払って品物を得る。「本を—・う」

おおう【飼う】(動ワ五[ハ]) 動物を養う。「犬を—・う」

おおう【言う】(動ワ五[ハ]) 言葉を発する。「何と—・う」

おおう【縫う】(動ワ五[ハ]) 針で布を縫う。「着物を—・う」

おおう【笑う】(動ワ五[ハ]) 笑う。「にこにこと—・う」

おおう【思う】(動ワ五[ハ]) 考える。「そう—・う」

おおう【問う】(動ワ五[ハ]) 尋ねる。「道を—・う」

おおう【請う】(動ワ五[ハ]) 願う。「許しを—・う」

おおう【乞う】(動ワ五[ハ]) 求める。「助けを—・う」

おおう【恋う】(動ワ五[ハ]) 恋しく思う。「故郷を—・う」

おおう【鯉う】(動ワ五[ハ]) 鯉を食べる。

おおう【追う】(動ワ五[ハ]) 追いかける。

おおう【負う】(動ワ五[ハ]) 背負う。

おおう【生う】(動ワ五[ハ]) 生える。

おおう【逢う】(動ワ五[ハ]) 出会う。

おおう【合う】(動ワ五[ハ]) 一致する。

おおう【会う】(動ワ五[ハ]) 会う。

おおう【買う】(動ワ五[ハ]) 買う。

おおう【飼う】(動ワ五[ハ]) 飼う。

おおう【言う】(動ワ五[ハ]) 言う。

おおう【縫う】(動ワ五[ハ]) 縫う。

おおう【笑う】(動ワ五[ハ]) 笑う。

おおう【思う】(動ワ五[ハ]) 思う。

おおう【問う】(動ワ五[ハ]) 問う。

おおう【請う】(動ワ五[ハ]) 請う。

おおう【乞う】(動ワ五[ハ]) 乞う。

おおう【恋う】(動ワ五[ハ]) 恋う。

おおう【鯉う】(動ワ五[ハ]) 鯉う。

おおう【追う】(動ワ五[ハ]) 追う。

おおう【負う】(動ワ五[ハ]) 負う。

おおう【生う】(動ワ五[ハ]) 生う。

おおう【逢う】(動ワ五[ハ]) 逢う。

おおう【合う】(動ワ五[ハ]) 合う

ねばる【粘る】(動ラ五)(一)粘着性がある。(二)しつこく続ける。(三)最後まであきらめない。(四)(「…ねばる」の形で)…しようとする。

ねばる【値る】(動ラ五)(古)値する。

ねばる【根張る】(動ラ五)(一)根が深く広がる。(二)(比喩的に)勢力などが広く及ぶ。

ねばる【値張る】(動ラ五)値段が高い。

ねばる【根腐る】(動ラ五)根が腐る。

ねばる【寝張る】(動ラ五)寝相が悪い。

ねばる【寝腐る】(動ラ五)寝すぎる。

ねばる【練る】(動ラ五)(一)練り合わせる。(二)十分に考える。(三)(「練った」の形で)洗練されている。

ねばる【寝晴る】(動ラ五)寝て晴れる。

ねばる【寝春る】(動ラ五)寝て春になる

なはし[直](形シク)[しなし]
こまかで繊細(繊巧)。
なはしづか[直](副)
■細かで手かなり。ひそやし。
■那なるが、私なしで…はなり。「…るまで。
なはしたがみ[直衣袴]
おさはひものの…。
なはしたつ[直立](他タ下二)
用ゐるものを作る官位。「…て。
なはしのくらゐ[直衣位](名)
なはしのころも[直衣](名)「なはし」に同じ。
なはしばひ[直灰](名)酒の腐敗を直すに用ゐるもの。若布灰二升に豆腐四丁を入れ焼て灰にして後灰四升を入れ焼て灰にして用ゐる。
なはしもの[直物](名)■ものごとをはすこと。又なはすもの。■古昔官除目の後召名などの銭(ぜに)を賜はれたるを官直はすといふ。
なはす[直](他サ四)■ただしくす。なはくす。■修補す。つくろふ。■訂正す。ただす。■修改す。■訛誤を改正す。■正しき座に就(つ)かす。病気を療治す。いやす。■正しき座に就(つ)かす。「上座にー」
なはなは[直直](副)■まさしく。いよいよ。■そくて加へて。——おそ[直直]
(名)手紙の本文の後に切も添ふる文句。多くは其冒頭に「なはなはと申さくよりいふ。(通常「一伸」)
なはなはし[直直](形シク)[しなし]
んのことともなし。普通なり。つねなり。
なはなはに[直直](副)ふだんかに。ふだ

なはね[直](副)ふしなべて。ふしまろに。ふはかた。
なべ-どころ[苗床](名)野菜又は稲木の苗を仕立つる所。
なべ-はた[苗圃](名)苗を仕立つるはたけ。
なべ-ぶた[鍋蓋](名)なべのふた。
なべ-にた[並](副)それと共にそれにつけて「日ごろのなきつるー日はくれぬ」
なべ-やき[鍋焼](名)食物を鍋に入れてよく煮(に)ること。——うどん[鍋焼饂飩](名)小さき土鍋にて饂飩を煮たるもの。多く夜街上を賣りあるく。
なべ-わり[鍋破](名)[転]盲部分に固まりて高さ一尺許、護は楕円形にして紫色の縦線あり、花は小形白色にして頂面に下垂す、果頭は茶褐色にして種あり。(資精薬効物)。「れ。
なほ[直](副)なか〳〵になかに。「一こゝを見つ
なほ[猶](副)■もとのやうに。やはり。まだ。「万」■其上に。さらに。尚。■あたかも。「千度」
なほ-さら[尚更](副)其上にいよ〳〵。ことに。
なほざり[等閑](名)打ちすて、無に捨ゆること。軽々しく見て心を注(つ)かざること。かりそめ。
なほざる[等閑](他ラ四)なほざりにす。
なほし[直](名)■なはすこと。■なはすもの。なはす所。■風物をなはすことを醤油と称する人。■婚姻の時と味噌とを混合したる酒。甘くして氷餅し。■婚姻などに、衣服を表裏ふたつ。
なほし[直衣](名)古昔の服。其制宿と袍と同じく、たゞ袖と裾とに差あるのみ。烏帽子・指貫を用ゐ、四位以上にても許可を受かれば常用ゐるもの。

なべ[鍋](名)煮(た)炊(く)の為、食物を煮るに用ふる金属製又は陶器製の器、底は釜より浅くして四ツ又は三ツの脚あるもの。(鍋)。——がね[鍋鐘](名)鍋又は釜などを鋳る鋳型も銑鉄ブ
なべ-ぎ[苗木](名)稲木のなく。「くてつ。
なべ-ざ[苗床](名)[自「か」四]足自由に利(き)かずして歩行になやむ。
なべ-やきうどん[鍋焼饂飩](名)一種の料理、鰹節にしたる煎子を油にていためこれを味噌と醤油とにて煮(に)たるもの。
なべ-わら[苗代](名)「なはしろ」に同じ。
なべわりやき(名)「なべやきうどん」に同じ。
なべ-ず[並居](他ワ下一)「ゐ下二」なら
なべ-ぶた[鍋蓋](名)鍋又は釜などの底につく
なべ-やき[鍋焼](名)[自「か」四]足自由に利(き)かずして歩行になやむ。
なべ-わり[鍋破](名)[転]盲部分に固まりて高さ一尺許、護は楕円形にして紫色の縦線あり、花は小形白色にして頂面に下垂す、果頭は茶褐色にして種あり。(資精薬効物)。「れ。
なほ[直](副)なか〳〵になかに。「一こゝを見つ
なほ[猶](副)■もとのやうに。やはり。まだ。「万」■其上に。さらに。尚。■あたかも。「千度」
なほ-さら[尚更](副)其上にいよ〳〵。ことに。
なほざり[等閑](名)打ちすて、無に捨ゆること。軽々しく見て心を注(つ)かざること。かりそめ。
なほざる[等閑](他ラ四)なほざりにす。
なほし[直](名)■なはすこと。■なはすもの。なはす所。■風物をなはすことを醤油と称する人。■婚姻の時と味噌とを混合したる酒。甘くして氷餅し。■婚姻などに、衣服を表裏ふたつ。
なほし[直衣](名)古昔の服。其制宿と袍と同

なべ[鍋](名)煮(た)炊(く)の為、食物を煮るに用ふる金属製又は陶器製の器、底は釜より浅くして四ツ又は三ツの脚あるもの。(鍋)。——がね[鍋鐘](名)鍋又は釜などを鋳る鋳型も銑鉄ブ
なべ-ぎ[苗木](名)稲木のなく。「くてつ。
なべ-ざ[苗床](名)[自「か」四]足自由に利(き)かずして歩行になやむ。
なべ-やきうどん[鍋焼饂飩](名)一種の料理、鰹節にしたる煎子を油にていためこれを味噌と醤油とにて煮(に)たるもの。
なべ-わら[苗代](名)「なはしろ」に同じ。
なべわりやき(名)「なべやきうどん」に同じ。
なべ-ず[並居](他ワ下一)「ゐ下二」ならべ
なべ-ぶた[鍋蓋](名)鍋又は釜などの底につく
なべ-やき[鍋焼](名)[自「か」四]足自由に利(き)かずして歩行になやむ。
なべ-わり[鍋破](名)[転]盲部分に固まりて高さ一尺許、護は楕円形にして紫色の縦線あり、花は小形白色にして頂面に下垂す、果頭は茶褐色にして種あり。(資精薬効物)。「れ。
なほ[直](副)なか〳〵になかに。「一こゝを見つ
なほ[猶](副)■もとのやうに。やはり。まだ。「万」■其上に。さらに。尚。■あたかも。「千度」
なほ-さら[尚更](副)其上にいよ〳〵。ことに。
なほざり[等閑](名)打ちすて、無に捨ゆること。軽々しく見て心を注(つ)かざること。かりそめ。
なほざる[等閑](他ラ四)なほざりにす。
なほし[直](名)■なはすこと。■なはすもの。なはす所。■風物をなはすことを醤油と称する人。■婚姻の時と味噌とを混合したる酒。甘くして氷餅し。■婚姻などに、衣服を表裏ふたつ。
なほし[直衣](名)古昔の服。其制宿と袍と同

用ゐ、四位以上にても許可を受かれば常用ゐるもの。烏帽子・指貫を
なほし[直](形シク)[しなし]
こまかで繊細(繊巧)。
なほしづか[直](副)
■細かで手かなり。ひそやし。
■那なるが、私なしで…はなり。「…るまで。
なほしたがみ[直衣袴]
おさはひものの…。
なほしたつ[直立](他タ下二)
用ゐるものを作る官位。「…て。
なほしのくらゐ[直衣位](名)
なほしのころも[直衣](名)「なはし」に同じ。
なほしばひ[直灰](名)酒の腐敗を直すに用ゐるもの。若布灰二升に豆腐四丁を入れ焼て灰にして後灰四升を入れ焼て灰にして用ゐる。
なほしもの[直物](名)■ものごとをはすこと。又なはすもの。■古昔官除目の後召名などの銭(ぜに)を賜はれたるを官直はすといふ。
なほす[直](他サ四)■ただしくす。なはくす。■修補す。つくろふ。■訂正す。ただす。■修改す。■訛誤を改正す。■正しき座に就(つ)かす。病気を療治す。いやす。■正しき座に就(つ)かす。「上座にー」
なほなほ[直直](副)■まさしく。いよいよ。■そくて加へて。——おそ[直直]
(名)手紙の本文の後に切も添ふる文句。多くは其冒頭に「なはなはと申さくよりいふ。(通常「一伸」)
なほなほし[直直](形シク)[しなし]
んのことともなし。普通なり。つねなり。
なほなほに[直直](副)ふだんかに。ふだ

りまくに。よのつねに。
なほびと[直人](名)素朴の若迂なる人。ただ「父は一にて母なん精原なりける」(実人)。
なほもて[猶以](副)なはまらざることに。
なほらひ[直色](名)古昔祭祀をはりて後に供饌(ぐせん)を賜ふ。
なほる[直](自四)■正しくなる。なはくなる。■おちたまふ。かはる。■者の如く死す。(露官の場合)。■病気癒(ゑ)ゆ。■正しく座に就(つ)く。■
なま[生](名)■動植物の採取したる儘にて、煮(に)も焼きも又は乾しも曲(ゝ)げもせざるもの。■新鮮なること。「一魚。■成熟せざること。十分ならざること。「一学。■経験少なきこと。年功足らざること。「一侍。■なまいき。■げんなま。即ち現金。
なま-[生](接頭)■成語に冠して、多く時を経ざる意を表する語。「一あたらし」。■成語に冠して「すこし又は「やや」の意を表する語。「一ねむし。■成語に冠して「うはべ又は「かりそめの意を表する語。「一学者」「一兵法」。
なま-あたら-し[生新](形シク)未だ時を経ずして新し。
なま-あらあら-し[生荒荒](形シク)やゝあらし。
なま-いえ[生癒](名)病気のやゝ快方に向ふこと。病気の未だ十分に癒(い)えざること。
なま-いき[生生](名)半ば死にてあること。
なま-いき[生意気](名)■聞いた風をすること。物知り顔すること。■きしいて…なすこと。「てすまじ。
ナマイダ(名)「ナムアミダブツ」の略。「り。
なまいたはり(名)うはべばかりのいたはり。

なまいき[生意気](形シク)
■なまいきなり。■なまいきなり。
なまいたし[生痛](形シク)いたみはし。
なまいどみ-し[生挑](形シク)いやみがましし。
なまいどみ-おとこ[生挑](自四)かりそめに…おとこ。「年少しき…。
なまいわけ-し[生稚](形シク)まだ
なまうしろめたし[生後痛](形シク)
やゝうしろめたし。
なまうしろめ-し[生慊](形シク)やゝ
うらめし。「鳥。
なまおち[生落](名)とりたての鳥。あたらしき
なまおぼえ[生覚](名)まだよくおぼえざること。うろおぼえ。「ざること。
なまおがくもん[生学問](名)学問の未だ成熟せざること。
なまかじり(名)■十分にかまざること。■なまかぶり。
なまかた[生方](名)(副)あぶかたいやうか。
なまがてん[生合点](名)十分にのみこみの行かざるに合点すること。はやのみこみ。
なまがね[生鉄](名)未だきたえざる鉄。
なまかは[生皮](名)■皮のまだあたらしきもの。■一種の料理。酢に漬(つ)けたる鳥の皮をたゝたたる醤油につけて食ふもの。
なまがひ[生貝](名)■なまの貝。■一種の料理(ヒタ)のなまの肉を刻みて水に浸(ひた)したるもの。三杯酢などにして食ふ。みづがい。
なまかべ[生壁](名)■塗りていまだ乾かぬ壁。■なまかべ」の略言。——いろ[生壁色](名)鼠を濃色。
なまき[生木](名)いまだ枯れざる木。——を

の皮をまきて別離せざる。
なまぎき[生聞](名)■よくは聞かざること。よくは知らざること。■よくは知らずして物ごとがはすること。
なまくさす[生腐](名)あたらしくさること。「と。
なまくさ-し[生臭](形ク)■生なる魚肉のくさきがごとし。(歴)。■生なる血の臭ひあり。
なまぐさ-ばうず[生臭坊主](名)魚肉・獣肉等生臭きものを食ふ坊主。品行修まらざる坊主。醜悪破戒の坊主。
なまくちを-し[生口惜](形シク)やゝくちをし。「くし。
なまくねくね-し(形シク)やゝくねくねし。
なまくび[生首](名)斬りたるまゝの首級。もりたての首級。
なまくら[鈍](名)■もの味のにぶきこと。又其物。■意気地なく役に立たざること。又其人物。——がたな[鈍刀](名)なまくらなる刀。——なまり[鈍武士](名)役に立たざる武士。
なまぐら-し[生暗](形ク)やゝくらし。「るし。
なまぐる-し[生苦](形シク)やゝくるし。
なまけもの[懶者](名)■よくなまけるもの。よくおこたるもの。■[動]食菌類に属する獣。全身に粗毛生じ、眼低く口広くして形猿に類す。前肢は後肢より長く肢に長大なる鉤状の爪を具す。南「アメリカ」の熱帯にして、椰子の樹上に棲まず、行歩極めてのろく、性頗鈍にして怪猛なり。(樹懶)。
なまけ[懶](自カ下一)はげみつとめざること。おこたること。

なまけもの[懶者](名)■よくなまけるもの。よくおこたるもの。■[動]食菌類に属する獣。全身に粗毛生じ、眼低く口広くして形猿に類す。前肢は後肢より長く肢に長大なる鉤状の爪を具す。南「アメリカ」の熱帯にして、椰子の樹上に棲まず、行歩極めてのろく、性頗鈍にして怪猛なり。(樹懶)。
なまけ[懶](自カ下一)はげみつとめざること。おこたること。

おおあめ-ふる 大雨降る　(連)　雨が激しく降る。

ねむる【眠る】（動）ふだんは目を閉じて意識がなくなる。睡眠する。「ぐっすり—・る」「—・らずに看病する」「—・れない夜」「—・ったままの姿」「—・ったように静かな町」「—・ったままの姿」「—・ったように静かな町」「—・ったままの姿」「—・ったように静かな町

ねらに-んざやう[奈良人形](名) 大和國奈良にて作り出す人形。春日の社の祈禱を用ひて彫刻し、種々の彩色を施せるもの。結ひ立ては多くは根附とす。

ねら-の-おち-だいじ[奈良七大寺](名) 大和國奈良地方にある七個の大寺。即ち東大寺・西大寺・法隆寺・藥師寺・大安寺・元興寺・興福寺等の稱。「諺」

ねらの-は-がしは[楢葉柏](名) 楢の木の葉。はたに包む。

ねらはか-す[奈良計](他サ四) ならはす。

ねらはし[習](名) ❶ならはすこと。❷ならはしたより。ならひ。ふうぞく風習。十一一ぜの[習物](名) ならはしにより、てかはるもの。心をはーといふなれど。

ねらは-す[奈良為](他サ四) ❶くりかへしてをこなひ行はしむ。❷學ばしむ。❸馴れしむ。

ねらはせる(他)「ならはす」の訛。「連音。

ねらひ[習](名) ❶ならふこと。❷ならはしたより。風習。習慣。❸世の常體。つねのきまり。一一せいさ[習成性成](名) ならひは遂に其人の性質をも變化す。ならひつゝ行ひば、遂に性質となる。

ねらび(名) 東北の風。關東の方言。

ねらびか[並](名) ❶ならぶこと。又ならびたるさま。❷たとへ。比類。

ねらびがた-ど-る[並起](自ら四) きそひ立つ。(俗)並立。

ねらびがた[並方](名) ならびたるさま。

ねらびふ-す[並伏](自ら四) ならびふす。

ねらびふ-と-る-ま-す[並伏取](他サ四) ならびたるものをうばひとる。

ねらぼ-ふ[奈良法師](名) 古昔、奈良の興福寺・東大寺などにやしなひたる僧兵。

ねらぼり[奈良彫](名) 彫刻の一派。狐や花鳥などに巧なるもの。奈良奉行を祖とす。

ねり[形](名) ❶きまりかたち。狀態。❷ふるまひ。ようす。

十ねり[業](名) なりはひ。仕事。[ほひ・歷錄。

ねり[鳴](名) ❶なること。❷こゑ。ものと。

ねり[爲](名) 將棋にて、金以外の駒が敵の陣地に入りて金の資格となること。

ねり[生](名) 果實のなること。

ねり-あ-ふ[形振](名) ❶かなり。なみ。ていさい。他のよりおひ。❷半開のもの。

ねり-あ-ふ[練合](他ハ四) 十分にねりまぜ。

ねり-あ-ふ[練合](自ハ四) 十分にねられ混ぜ合はさりてよく融和す。

ねりがね-な-し[並無](形ク) ならぶべきものなし。比類なし。(無雙)。

ねりがた-に[並作](接) 相ならぶ上下の物事を連續する間。ちょうど。かつ。まだ。

ねりがね-やう[並樣](名) ならびかた。

ねり-ふ-す[練伏](他ハ四) 練りて行ふ。

ねり-ふ-す[練伏](他ハ四) ❶くりかへし修め行ふ。❷欲くを愛くまなぶ。

ねり-お-ぶ[並](自ハ四) ❶列をなす。列を作る。なむ。列。❷つゞく。つらなる。(衆)。❸四段す。比類す。ただ。(比)。

ねり-お-ぶ[並](他下二) ❶ならばしむ。つらぬ。つらぬ。(他)。❷たくらぶ。くらべる。(比)。❸(のぶ)のごとくす。一。

ねりべ[並](名) ならぶるべくならぶるさま。

一一かた[並方](名) ならぶる仕方。ならべかた。

一一-な-つ[並立](他タ下二) 一つ〳〵ならぶ。

ねり-ほふ-ぶ[奈良法師](名) 古昔、奈良の興福寺・東大寺などにやしなひたる僧兵。

ねりぼり[奈良彫](名) 彫刻の一派。狐や花鳥などに巧なるもの。奈良奉行を祖とす。

十ねり[業](名) なりはひ。仕事。[ほひ・歷錄。

ねり[鳴](名) ❶なること。❷こゑ。ものと。

ねり[爲](名) 將棋にて、金以外の駒が敵の陣地に入りて金の資格となること。

ねり[生](名) 果實のなること。

ねり-あ-ふ[形振](名) ❶かなり。なみ。ていさい。他のよりおひ。❷半開のもの。

ねり-あ-ふ[練合](他ハ四) 十分にねりまぜ。

ねり-あ-ふ[練合](自ハ四) 十分にねられ混ぜ合はさりてよく融和す。

ねりがね-な-し[並無](形ク) ならぶべきものなし。比類なし。(無雙)。

ねりがた-に[並作](接) 相ならぶ上下の物事を連續する間。ちょうど。かつ。まだ。

ねりがね-やう[並樣](名) ならびかた。

ねり-ふ-す[練伏](他ハ四) 練りて行ふ。

ねり-ふ-す[練伏](他ハ四) ❶くりかへし修め行ふ。❷欲くを愛くまなぶ。

ねり-お-ぶ[並](自ハ四) ❶列をなす。列を作る。なむ。列。❷つゞく。つらなる。(衆)。❸四段す。比類す。ただ。(比)。

ねり-お-ぶ[並](他下二) ❶ならばしむ。つらぬ。つらぬ。(他)。❷たくらぶ。くらべる。(比)。❸(のぶ)のごとくす。一。

ねりべ[並](名) ならぶるべくならぶるさま。

一一かた[並方](名) ならぶる仕方。ならべかた。

一一-な-つ[並立](他タ下二) 一つ〳〵ならぶ。

ねり-ほふ-ぶ[奈良法師](名) 古昔、奈良の興福寺・東大寺などにやしなひたる僧兵。

ねりぼり[奈良彫](名) 彫刻の一派。狐や花鳥などに巧なるもの。奈良奉行を祖とす。

十ねり[業](名) なりはひ。仕事。[ほひ・歷錄。

ねり[鳴](名) ❶なること。❷こゑ。ものと。

ねり[爲](名) 將棋にて、金以外の駒が敵の陣地に入りて金の資格となること。

ねる[鳴](自ら四) ❶音たつ。音樂す。❷聞こゆ。知らる。世に一。❸こゑをつくる。いふ。「よく一口」。

ねり-あ-ふ[練合](自ハ四) 成りとなる。

ねり-い-づ[成出](自ダ下二) ❶出世す。立身す。昇進す。❷うまれ出づ。生出す。

十ねり-ね-ざ-る[成劣](自ら四) 順次に劣り行く。

ねり-かかり[爲掛](名) なりかゝるべき其勢。

ねり-かかる[爲掛](自ら四) 化して其勢。「てゐるさまあり。

十ねり-かかる[鳴掛](自ら四) 呼びかけ。

十ねり-かたち[形姿](名) かたち。ようす。

ねり-かは-る[成代](自ら四) 其人に代はる。代理す。「親に一」。

ねり-かぶら[鳴鏑](名) かぶらやに同じ。

ねり-きん[成金](名) ❶金になりたるもの。❷俄に富となりたるもの。

ねり-くだもの[生果物](名) くだもの。「。

ねり-さが-り[成下](名) なりさがること。又、そのもの。

ねり-さが-る[成下](自ら四) 自然より

ねり-さ-る[成優](自ら四) 次第に優れゆく。

ねり-もの[鳴物](名) 音樂に用ふる笛・太鼓・鉦鼓など、即ち樂器。一一いり[鳴入](名) 歌舞などに鳴物をならして調子をとり又はにぎはすこと。一一ちゃうじ[鳴物停止](名)「ちゃうじ(停止)(二)に同じ。

ねり-もの[生物](名) ❶田畠の收穫。❷食用となる果實。一一-ざ[生物座](名) 果實を結ぶ樹木。果樹。

十ねり-や[鳴矢](名) かぶらや。「鏑矢」

ねり-ゆ-き[成行](名) なりゆく過程。又、なりゆく次第に移り行くこと。「いふ語。

ねり-ん-ばう[鳴](名) 類稀なる人をもよびよせて鳴り渡ること。❷名聲あまねく聞こゆ。

ねる[生](自ら四) ❶ものの出づ。生出す。❷實を結ぶ。「一。

ねる[成](自ら四) ❶できあがる。ととのふ。(熟)。❷をはる。すむ。(終)。❸なだまる。生。❹畑山もちせいする。❺熟(こな)ふることを得。「成等に練なども經ざれて一ものか」。❻意を設くることを得。「一と云ふべきことはきてゐいて」。

ねる[爲](自ら四) ❶變化す。あらたまる。かはる。「うつる。「君く一」。❷將棋にて、金以外の駒が敵の陣地に入りて金の資格となる。

ねる[鳴](自ら四) ❶音たつ。音樂す。❷聞こゆ。知らる。世に一。❸こゑをつくる。いふ。「よく一口」。

ねり-ま-ぜ-る[成優](自ら四) 次第に優れゆく。

ねり-もの[鳴物](名) 音樂に用ふる笛・太鼓・鉦鼓など、即ち樂器。一一いり[鳴入](名) 歌舞などに鳴物をならして調子をとり又はにぎはすこと。一一ちゃうじ[鳴物停止](名)「ちゃうじ(停止)(二)に同じ。

ねり-もの[生物](名) ❶田畠の收穫。❷食用となる果實。一一-ざ[生物座](名) 果實を結ぶ樹木。果樹。

十ねり-や[鳴矢](名) かぶらや。「鏑矢」

ねり-ゆ-き[成行](名) なりゆく過程。又、なりゆく次第に移り行くこと。「いふ語。

ねり-ん-ばう[鳴](名) 類稀なる人をもよびよせて鳴り渡ること。❷名聲あまねく聞こゆ。

ねる[生](自ら四) ❶ものの出づ。生出す。❷實を結ぶ。「一。

ねる[成](自ら四) ❶できあがる。ととのふ。(熟)。❷をはる。すむ。(終)。❸なだまる。生。❹畑山もちせいする。❺熟(こな)ふることを得。「成等に練なども經ざれて一ものか」。❻意を設くることを得。「一と云ふべきことはきてゐいて」。

ねる[爲](自ら四) ❶變化す。あらたまる。かはる。「うつる。「君く一」。❷將棋にて、金以外の駒が敵の陣地に入りて金の資格となる。

ねる[鳴](自ら四) ❶音たつ。音樂す。❷聞こゆ。知らる。世に一。❸こゑをつくる。いふ。「よく一口」。

ねる[練](自下二) ❶成レルなる。❷使用に適す。ものごとに慣よ。❸久しく使用してふるぶ。

ね-る[寢](自下二) ❶なじみたはむる。「たしるもの。❷あなどる。かろんず。❸休む。(寢)。

ね-る[慣](自下二) ❶常態となる。習慣となる。❷たびたび其物事に接す。❸熟練す。上達す。

ね-る[熟](自下二) よく熟す。「同じ。

ねる-いた[鳴板](名)「きりつまいた(切詰板)に同じ。一一-かみ[鳴神月](名) 陰暦六月の異稱。

ねる-こ[鳴子](名) 小なる竹管を數多く板に並べて綴じ下げ、これにつけたる繩を引きて鳴らすもの。田畠に設けて鳥を追ひ、又は門口などに備へて警戒に用ふ。一一ゆり[鳴子百合](名)[植]百合に糸に似て立生す。花は總咢に生じ筒狀にして帶白色を呈す。根莖は食用又は藥用に供す。(俗)。

ねる-ぎ[鳴笹](名) 鳴子をつけたる竹。

ねるたき-ど[鳴瀧戸](名) 山嶽圍繞の狹隘なる處。より產出する處。

ねる-だけ[成丈](副) 力の及ぶかぎり。出來得る限り。(可及的)。

十ねる-はじめ(名)[植]春の山野の古稱。

ねる-はど[成程](副) ❶まことに。げに。❷「なるほど」に同じ。

ねるみ-おぼり[鳴海絞](名)「ありまつぼり(有松絞)に同じ。尾張國鳴海より產出するに由る名。

かんい【官位】(名)官職と位階。

かんい【簡易】(名)(形動)手数がかからず、やさしいこと。「—な方法」

かんい【寒威】(名)寒さのきびしさ。

かんいき【寒域】(名)寒さのきびしい地域。

かんいき【寒気】(名)寒さ。寒気。

かんいっぱつ【間一髪】(名)ほんのわずかな時間。「—で助かった」

かんいん【官印】(名)官庁の印。

かんいん【姦淫】(名)(スル)男女が不義の交わりをすること。

かんいん【官員】(名)官吏の定員。

かんいん【官院】(名)官庁。

かんいん【官韻】(名)漢詩で、官吏登用試験の際に指定された韻。

かんいん【寒陰】(名)寒さのきびしい日陰。

かんいん【寒飲】(名)寒さのきびしい時期の飲食。

かんいん【寒蔭】(名)寒さのきびしい日陰。

かんいん【寒韻